

Passo a Passo



Devoted to the Development of Socio-Intelligence

SENSHU UNIVERSITY

平成28年度 専修大学 資格課程年報『パッソアパッソ』

教 職 課 程

司書教諭課程

司 書 課 程

学芸員課程

vol.19

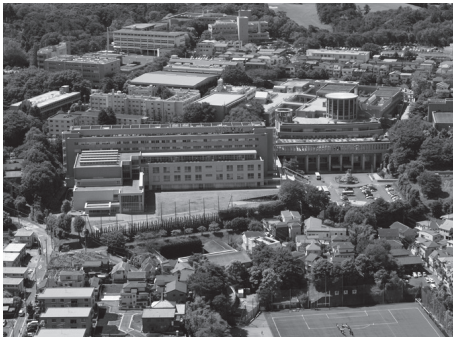
専修大学21世紀ビジョン 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、2009年、創立130年を迎えました。

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉学する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「**社会知性 (Socio-Intelligence) の開発**」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。



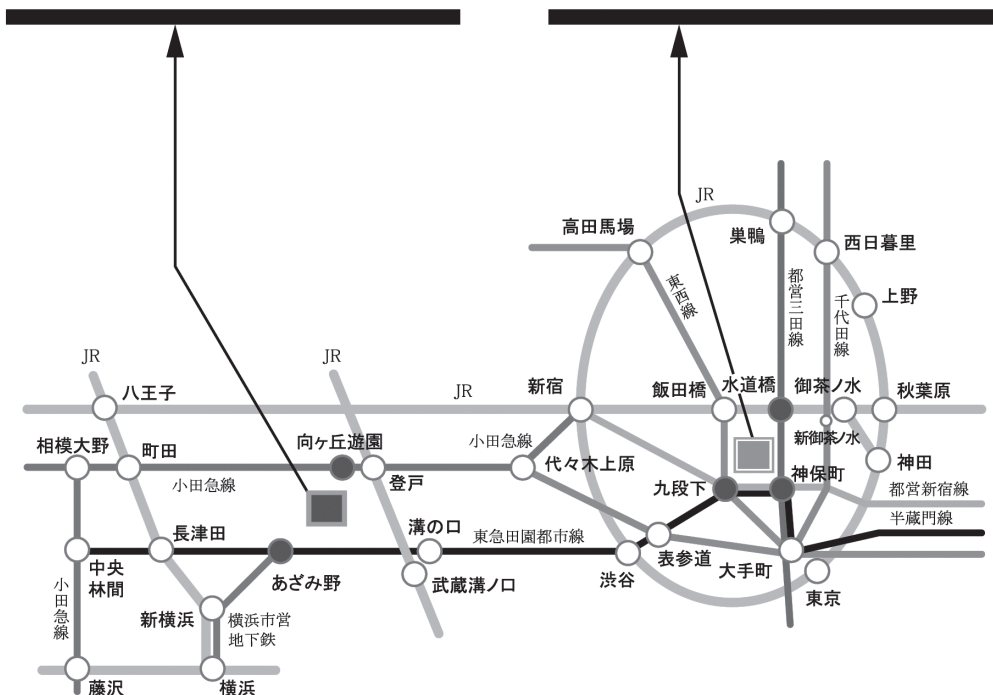
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅(新宿から急行で約20分)
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス(学生専用)約20分



神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



「教育実習1・2・3」の授業

教職課程協議会委員長 文学部 教授 片桐 一彦

本学の「教育実習1・2・3」という授業科目について、私の担当授業（英語科）を例にそのシステムや授業内容を描写したい。

「教育実習1」は、3年次後期配当科目である。「教科教育研究1」にて学習指導要領や中学校／高校で行う授業の組み立て方や指導案の書き方等の基礎を身に着けた上で、履修する。「教育実習1」ではより実践的に特に模擬授業を体験しながら、また他の学生の模擬授業を見て相互にフィードバックし合いながら学ぶ。

中学校と高校の教科書の内容、言い換えれば学習項目とその学習時期についても熟知していなければならない。例えば教育実習校にて中学2年生の6月に教えるとなると、どんな言語材料（文法項目や英単語）は学習済みでどれがまだ未履修なのかを把握しておく必要がある。6月の中学2年生を対象に受動態や完了形や関係代名詞を含む英語を使用した場合、生徒は理解できずに混乱するからである。

模擬授業では、授業1回分の流れや構成を意識してもらうために、前半と後半でそれぞれ約25分を分担し2人一組で50分授業1回分の模擬授業をおこなう。中学校に教育実習に行く学生は中学校の模擬授業を、高校に教育実習に行く学生は高校の模擬授業をおこなう。学習指導要領等で示されている方針に従って、言語学習と同様に言語活動にも時間を割り、できるだけ英語を使用し、聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく取り入れることが求められる。音読練習（chorus/buzz/individual reading）やペア／グループ・ワークの採り入れや、生徒の興味を引きつけるために小物や写真や絵を使用したりゲーム的要素を取り入れた言語学習／活動タスクも推奨される。

他の履修学生は生徒役として参加し、また同時に授業後にコメントペーパーに模擬授業の良かった点や改善の余地のある点等を書いてもらう（peer feedback）。また数名にはその場でみんなの前で口頭でも指摘してもらう。その後、教員も全体の前で口頭でフィードバックする。より本質的な指摘やより重要な指摘は生徒役でもあった学生によって先にフィードバックされることが多く、教員からはまだ指摘されていない残りの周辺的な細か

いことや使用した英語（特に発音）に関することが多かったりする。

模擬授業は、ビデオ撮影される。そのビデオ撮影されたデジタル情報は、模擬授業者が持参したUSBメモリースティックに移して授業後すぐに渡している。また、他の履修学生からのコメントペーパーは、模擬授業後すぐに授業者に目を通してもらう。次の週の授業にて、他の学生も全員コメントペーパー全部に目を通してもらってお互いに学び合ってから、そのコメントペーパーは模擬授業者にプレゼントされる。授業者は、ビデオ撮影された自分の模擬授業を自分で視聴し、またピア・フィードバックを参考に、A4で1枚程度の自省レポートを提出する。

4年次前期配当科目である「教育実習2」では、実際に中学校／高校で約3週間教育実習をおこなってことが一番の山場になる。実習前には事前指導があり、また模擬授業は実習校で使う教科書の実習期間中に扱うであろう箇所を一人20～25分単独で実習中と同じ服装・身だしなみでおこなう。実習校から帰学後は、パワーポイントを使って報告のプレゼンテーションをし、また日々の記録や自省を書いた「教育実習日誌」を提出し、事後指導を受ける。

4年次後期配当科目である「教育実習3」では、3年生の「教育実習1」と同時開講であるが、4年生は模擬授業の一部として、中学校／高校の授業でおこなう英語による挿話や帯活動を約5分間でおこなう。

「教育実習1&3」では、授業以外にレポート4回（英語科教育関連の学会参加、DVD視聴、専門雑誌、指定教科書の4種類）の提出を義務付けている。詳細は、本誌平成23年度版第14号pp. 6-7に記している。また、教職公開講座（10月第1土曜日）と専修大学教育学会（11月23日祝日）は、授業の一環として組み込んでおり全員が出席する。

「教育実習1・2・3」を通して、英語科教員としての実践的能力を身に付けてもらうようにしている。



Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

公共図書館運営に住民間の「話し合い」を

文学部 教授 荻原 幸子 6

書の源は「文房四宝」にあり

文学部 准教授 松尾 治 8

教職課程

これからの国語科教師 ―新学習指導要領施行を目前にして―

文学部 兼任講師 根本 欣哉 12

これからの時代に求められる特別活動

元東京都立高等学校校長 長船 孝明 16

卒業生から 20

教員採用試験体験記 23

教育実習を終えて 28

介護等の体験を終えて 35

専修大学教育学会に出席して 36

教職総仕上げ「教職実践演習」 37

教科研修生体験レポート 38

多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート 39

専修大学附属高等学校から 教員1年目を迎えて

私立専修大学附属高等学校 教諭 奥田 哲平 38

司書・司書教諭課程

人と情報資源との出会いをサポートするために情報資源と真っ向からじっくりと向き合う授業

ネットワーク情報学部 兼任講師 榎本 裕希子 42

図書館実習を終えて 44

卒業生から 45

学芸員課程

他分野との交流・連携・協業

経営学部 兼任講師 水本 和美 48

博物館実習を終えて 50

データ編（平成28年度）

教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修者数 54

教育職員免許状取得件数 55

司書・司書教諭・学芸員資格単位取得者数 55

教育実習先一覧 56

図書館実習・博物館実習先一覧 59

主な就職先一覧（教職・司書・司書教諭、学芸員） 60

資格課程年間行事表 65

教員採用試験対策特別講義実施結果 66

教職公開講座開催結果 67

司書課程就職（進路）懇談会・司書課程図書館実習報告会開催結果 68

資格課程教員紹介 69

編集後記

■4つの資格課程

教職課程 … 中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。加えて、平成10年より「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(介護等の体験法)が施行され、中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者には、介護等体験が義務付けられています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	地理歴史、公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
	人文・ジャーナリズム学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

※「教員免許更新制」

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。これが教員免許更新制です。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。

司書教諭課程 … 学校図書館の専門職

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な仕事に携わる教員のことです。司書教諭は教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、児童・生徒に対して図書館利用や読書に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は教育職員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する者は教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

2003年度からは12学級以上の規模の学校には必ず司書教諭を配置することになりました。そのため、教育の現場では司書教諭有資格者のニーズが高まっています。

司書課程 … 公共・大学図書館等の専門職

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、資料(図書、雑誌、DVD等)を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職のことです。

司書の資格を取得するには、司書課程を履修する必要があります。

司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、急速に普及している電子メディア(インターネットなど)の活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・高度情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

教職課程

本が好き
図書館で働きたいなら



司書課程・司書教諭課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイドンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験
(中学校教諭免許状取得希望者)
5月下旬～3月上旬

4年次
教育実習
5月～11月

卒業時(事前に申請した者)
教員免許状の交付
3月

1～4年次
司書課程履修登録
4月上旬

3・4年次
図書館実習
(希望者)
8月～11月

卒業後(希望者)
司書資格取得
証明書の申請
および交付

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

卒業後(事前に申請した者)
学校図書館
司書教諭講習修了証書
の交付

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業後(希望者)
学芸員資格取得証明書
の申請および交付

司書・司書教諭課程サポート

司書課程就職(進路)懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、
図書館関連の就職や大学院進学に
ついて懇談をしています。

学芸員課程サポート

文化財セミナーを開催

平成20年10月に専
修大学130周年記念文
化財セミナー「発想転換」
を開催しました。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、これまで小学校教諭の免許状取得の道はありませんでした。ニーズの高まりに応えるため、玉川大学と連携し、2007年度より小学校教員養成特別プログラムをスタートさせました。本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすものです。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小・中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。

活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修期間は、半期間で特定の曜日に研修を行う形か、春期休暇期間中の一定期間に集中して研修を行う形があります。

教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス:4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通した計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

公共図書館運営に住民間の「話し合い」を

文学部 教授 荻原 幸子

はじめに

地方自治体が設置する公共図書館の運営に、住民はどのように関わることができるのかを長らく追究している。昨年度は、地域の公共図書館をより良くする目的で組織された、各地の住民団体へのインタビュー調査を通して、自らの時間と労力を活動に費やす人々の献身に感銘を受け、また、そのバイタリティに圧倒された。一方で、いずれの団体も、その活動を地域住民全体に広げていくことに難しさを感じていることが見出された。すなわち、より幅広い住民による図書館運営に関する合意形成が求められているといえる。そして、その糸口は、住民間の「話し合い」にあるのではないかと考えている。

熟議民主主義と「話し合い」

図書館運営に住民間の「話し合い」が必要であるという発想は、熟議民主主義 (deliberative democracy) を背景としている。熟議民主主義は、1990年代半ばより政治学において活発に議論されるようになった新しい民主主義論の一つであり、「人々の熟議 (熟慮と討議) の過程を経た合意による意思決定に、正当性が付与される」という考え方を基本とする。熟議の過程は「他者との「理由」を巡るコミュニケーション」であるとされ、他者の挙げる理由が妥当なものとして受け入れられるときに各人に「選好の変容」が生じ、「(集合的な) 合意」に至るとする。さらにその「(集合的な) 合意」は、合意していない者がいることを含意した暫定的なものであり、その暫定性において熟議の継続の必要性が主張される。熟議民主主義の新しさは、多数決に基づく意思決定を主軸とするそれまでの選好集計型の民主主義論 (aggregative democracy) とは異なり、最も多くの支持を得た選好ではなく、最も「理にかなって

いる」、あるいは「正当な理由である」という同意に依拠した意思決定を志向している点にある。このような熟議民主主義の理論を、公共政策の検討や決定において実現するために、討論型世論調査、コンセンサス会議、計画細胞、そして、計画細胞を部分的に修正して

我が国で実施されている市民議会などの、多様な手法が実践され、議論が重ねられている。2007年には多摩市 (東京都) において「市民が求める多摩市の図書館・図書館サービス」をテーマとする市民議会が開催された。

「選考の変容による (暫定的な) 合意」という「熟議」の理論は大いに魅力的ではあるものの、現在のところ実証性に欠けることは否めない。ただし、この新しい民主主義論の存在によって、住民間の「話し合い」の必要性を説く際の「あまりにも素朴すぎる」という指摘は、いったん留保されるのではないだろうか。

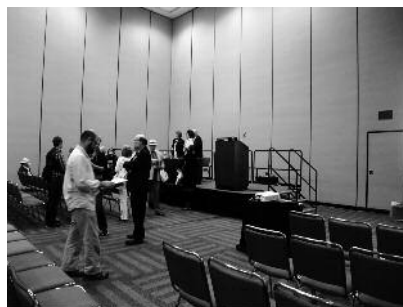
「話し合い」のあり方

図書館運営に関する住民間の「話し合い」のあり方として、まずは、相互理解のコミュニケーションから始めることが望ましいと考える。加留部貴行は「話し



アメリカ図書館協会年次大会 (2015)
(開催地のサンフランシスコ)

合い」について、交流や共有を目的としてお互いが気楽におしゃべりする「会話」、探求や発見を目的として多様な言葉や感情の交換・交流を行う「対話」、対話の中に、「まとめる・決める」という要素が入る「議論」に3分類したうえで、「対話の重要性を意識してみてほしい」と述べる¹⁾。また驚田清一は、都市部の地域社会においては「たまたま同じ地で暮らすことになった、互いに見ず知らずのひとたちが、その地域を運営してゆくためにたがいに異なる思いをきちんと交換する、そういうコミュニケーション」が求められていると指摘する²⁾。2015年6月に、アメリカ図書館協会の年次大会に参加した時のことである。あるセッションで、発表者からの「・・・について、皆さんはどういう方法があると思うか」という問いかけに対して、フロアから多くの手が挙がり、いろいろなアイディアが出された。なるほどアメリカ的だと興味深く見守っていたところで、「では、これらの方法について、お隣同士で話してみてください」という展開になった。うう英語が・・・と思いつつも、偶然居合わせた初対面同士の、私も含めて様々な地域から参加した女性3人が、それぞれの経験やアイディアを話し合う。私のたまた



アメリカ図書館協会年次大会 2015
(セッションが終わったところ)

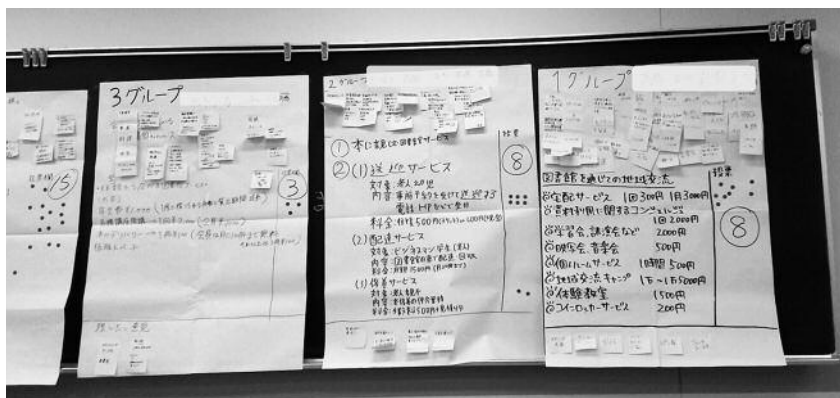
どしい英語がどの程度通じたかは
いざ知らず、その限られた時間の
話し合いはまさに、「互いに見ず
知らずのひとたち」が、探求や発
見を目的として多様な言葉や感
情の交換・交流を行う「対話」で
あったのだと思う。それが、一つ
のテーマについて集中して深く考
える機会となることも実感した。

ラウンドテーブルでは、地方議
会、裁判員裁判の模擬評議、自治
体の政策過程など、様々な現場で
の「話し合い」を対象とした研究
報告と活発な討論が行われた。発
表者は日本語学、都市計画論、心
理学、政治学、社会学と多彩な学
問領域の研究者であり、学際的な
アプローチのもとに「話し合い」

出そうとするグループがある一方
で、長い沈黙のグループもあっ
た。斬新なアイディアを活かしき
れずに無難にまとめてしまう場面
や、ある一言をきっかけに沢山の
様々なアイディアが出される場面
もあった。固定観念にとらわれる
ことなく、柔軟な発想を存分に分
かち合うような話し合いができな
いものか。次年度に向けた教育面
での新たな課題である。

おわりに

2015年度は国内研究員として
研究に専念する機会を頂いた。上
記は、その貴重な1年間を終えて、
次なるステップに進むための、
私自身の決意表明のようなもの
としてご了承いただきたい。研
究も教育も、果てしないものだ
とつくづく思う。現在は一途に研
究・教育に取り組んでいる。この
夏に、ミュージカル「ウィキッド
(Wicked)」を観た。もう何度も
観ているが、全く飽きない。今回
も、オズの国の人々の群舞はとて
も素晴らしかった・・・が、人々
が主人公の「良い魔女」の発言
に、一様にうなずき、喜び、憂え
るばかりなのが、途中からどう
にも気になってしかたがなかった。
少しは自分たち同士で、話し合
ったらどうなのか・・・と。



図書館基礎特論での「話し合い」の成果

村田和代も、地域社会において
は“意見を戦わせて勝ち負けが決
まり分断するのは避けるべき”で
あり、“話すことで異なる価値観
をすり合わせていく、互いを交渉
しながら着地点を見つけていく相
互理解のためのコミュニケーション”
が求められるとするが³⁾、一方
でこの指摘は、拙速な合意を回避
し、時間をかけた「話し合い」の
必要性を示唆している。住民間の
合意は不可欠であるものの、時間
がかかる。また、時間に伴う労力
もかかる。現代社会において、い
わゆる「そんな悠長なこと」が許
容されるであろうか。

たまたま同じ地域に住んでいる
人たちが、図書館運営に関する考
えや意見、期待を率直に話し合う
機会をいかに設定し、いかに合理
的に合意形成に至るようにする
か。その実現に向けた、様々な実
践と研究の蓄積による試行錯誤が
求められているといえる。

「話し合い」の実践研究

2016年3月に龍谷大学で開
催された、「話し合い学」構築を
めざして」という二日間にわたる

が研究されている状況を目の当た
りにする機会であった。図書館運
営に関する住民間の「話し合い」
の研究も、他の学問領域の成果か
ら多くの示唆が得られそうであ
るし、他領域の研究にも貢献しう
るように思われた。さらに、黙っ
ている人は「良い聞き手」である
という考え方や、順々に発言を求
める進行(順々システム)の合理性、
「妥協」を意義あるものとして再
考する必要性など、「話し合い」に
関する固定観念が問い直されて
いることに大いに刺激を受けた。

授業で「話し合い」の実践

たまたま同じ講義を受講した学
生同士が、図書館についてお互い
に話し合うことができれば、それ
が地域の図書館運営に関する話
し合いにも波及していくのではない
かと期待して、今年度の「図書館
基礎特論」では市民討議会の手法
を部分的に適用した「話し合い」
の機会を設定した。機械的に振り
分けた4~5人のグループは、い
ずれも自己紹介の後に、ぎこちな
い話し合いを始めた。早く結論を



ミュージカル「ウィキッド」

- 1) 山岡龍一、岡崎晴輝。市民自治の知識と実践。放送大学教育振興会。2015.p.204.
- 2) 鷺田清一。しんがりの思想(角川新書)2015.p.210.
- 3) 村田和代。まちづくりへの市民参加と話し合い。日本語学。2014.vol.33,no.11,p.35.

書の源は「文房四宝」にあり

文学部 准教授 松尾 治

2006年の教育基本法の改正により、小・中学校および高等学校においては基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力等を調和的に育むことが必要とされている。その中でも言語活動や理数教育、道徳教育や体育、芸術・文化に関する教育の充実はとても重要になってきている。学習指導要領の次期改訂を目前とし、ここでは、小・中学校における国語科の書写、高等学校における芸術科：書道の授業に欠かせない用具用材について改めて考える機会としたい。実際に書

道の道具に触れたり、「書きぞめ」等を通し実感を伴う学習を重視することは小・中高問わず書写・書道教育においては重要である。一方、書道は世界的に日本の文化として認められるにつれて、その情報発信の媒体（ツール）としての役割をも担うようになってきている。私自身、専修大学においてカルガリー大学の学生への書道入門講座を実施したところ、「かく」こと同様、書道の道具に対する関心が高いことにも驚かされた。具体的に用具用材に焦点を絞った書道の学習が功を奏したともいえる。

古来、筆・墨・硯・紙という用具用材のことを「文房四宝」と呼び、それらは大切に使用されてきた。書の表現とは先ず、これらの用具用材をどのように扱うかによって作品の表現に大きな影響が生じるといっても過言ではない。因みに、ここでの文房とは文房具

ではなく書斎を指している。

筆

殷時代の甲骨に筆を意味する「聿」(𠄎)があることや河南省より戦国時代の筆が出土しているこ



カルガリー大学の学生との楽しい授業 於 専修大学生田キャンパス書道室

とから筆の起源はかなり古いことがわかる。国内では主に東京・愛知・奈良・広島において生産されている。筆は藁や竹などの筆もあるが、主に動物の毛を原料としている。筆の種類は穂の長さや筆毛の硬さや穂の形などによって様々



であるが、毛の種類は小筆であればイタチ・タヌキ、中筆以上であれば山羊や馬の毛を原料とするものが多い。また和筆の製法は、毛の原料を中国から大量に輸入し日本国内でいくつもの工程において

職人の手によって精巧に仕上げられるものである。因みに今の中国では山羊が食肉用として大量に消費され、しかも生育の早い段階のものが流通するようになったため、毛足の長い（＝生育年数の長い）山羊の毛は、とても貴重で高価とされている。毛であれば何でもよいと誤解し

ている児童や生徒へは、授業において胎毛筆にもふれ、筆は先を切りそろえていない動物の毛でないとならないことを理解させたい。つまり、一度切った（散髪した）毛は筆にふさわしくないのである。

墨

墨の起源は殷墟から墨書した陶器の破片が発掘されているので文字を書く筆と墨は用いられていたことになる。どのような墨なのかはわからない。ただし、漢時代には煤を練り固めた墨丸を硯で磨るというより煤の塊を石の上で磨り潰すような使われ方をしていたようである。現在の墨の原料は煤と膠と香料である。煤はカーボンである。ただし、何を燃料として燃やし採取できた煤なのかによって、墨色が異なってくる。また墨の種類もごま油や菜種油等の植物油由来の「油煙墨」と松脂（マツ



《日本製の膠》

ヤニ)に由来する「松煙墨」、鈹物油由来の墨に大別される。その判別は磨り口の光沢の具合や濃く磨った墨の色でも判別できるが、50倍以上に薄めてみると油煙墨は茶系に松煙墨は青みがかって見えるはずである。よって古来より「墨に五彩あり」といわれるほど墨色は無限である。国宝である長谷川等伯の「松林図屏風」を見たことがある人であれば墨の濃淡で遠近感や対象物の質感等まで表現できる力が墨には秘められていることにも気付く。書道においてもその効果を生かした名作が数多く存在している。墨＝墨汁とイメージする人が多いと思うが、墨汁は正確にはスミとは呼べない。墨とは固形墨を指すと考えたい。その理由は墨の特徴が煤だけでなく、本来は膠の成分やその保存状態（経過年数）によって、墨の調子（墨色や書き心地）が大きく変化するからである。それに対し墨汁は膠のかわりに化学糊の成分や樹脂が配合され腐りにくい。また、磨りたての墨の匂いは、香料によるもので、よく「墨臭い」とか言われることがあるが、その匂いの成分は麝香など漢方に由来するものが質の高いものとされている。

『枕草子』の「にくきもの」において「…墨の中に石のきしきしときしみ鳴りたる…」とある。平安時代に清少納言が使用していた硯は

陶器によるものではなく石であったこと、墨の中に何かしらの不純物が含まれていたことが記されている。墨にも今昔の物語がありそうである。

硯

墨を磨るのに適した石を加工して作られる。しかし、そのための石といってもごく限られた地域の岩盤でしか採取されない。書道専門店には中国の硯が多く販売されている印象があるものの、国内にも山梨や長野、宮城、山口が採取地として知られている。それぞれの硯の特性は色・石質・価格も様々であるが、良硯といわれるものは「墨のおり」や「発墨」が際立って優れている。最近ではセラミックや工業用ダイヤモンドを原料とした人造硯も開発され用途に応じて活用範囲も広がってきている印象である。残念ながら現在の授業において墨を磨ることは極めて稀で、高校での芸術科書道で初めて墨を磨る経験をする児童・生徒がほとんどである。これまで、高校最初の授業で「硯は何からできているの？」の質問に「墨です!」と答える生徒が少なからずいた。不思議に思いながら、その生徒の硯を確認すると硯が干からびた墨汁でコーティングされているところを目の当たりにし妙に納得させられたことがある。最近では用具セットには硯のかわりに墨池（プラスチック製の墨受け容

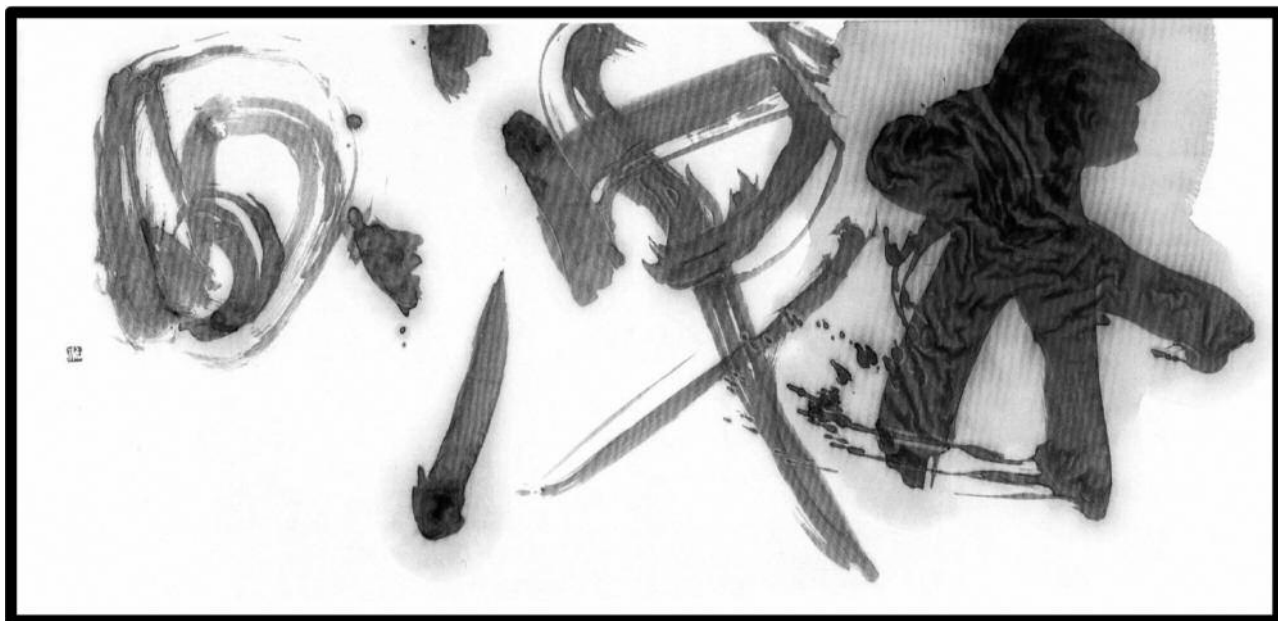


《硯の積層》

器)が組まれていることも多い。当然のことながら従来あった固形墨はない奇妙な用具セットが採用されている。つまり、筆で文字を黒く書くことだけに特化した商品になってしまっているのである。現場の要望にそったものだと思うが、是非とも墨液は自分で墨を磨ってこしらえる経験を授業に組み込んで頂きたいと切に願う。

紙

日本の紙は和紙、中国の紙は唐紙という。一般的に書道の紙としては、半紙の名称がよく使われるが、厳密には原料や大きさ、用途、模様等の作成方法によって様々な呼び名があり複雑である。紙は漢時代にはすでに紙を漉いていたとされる。それまで木や竹の細長い札（竹簡・木牘）や絹に書かれていたものが紙の発明により、実用面においてその伝達、記録の手段として大変重宝された。さらに、手紙などの私的な自己表現の手段にも使用され始めると古典といわれる名作が数多く誕生していくのである。まさに書の美をつかさどる画期的な発明だったといえよう。しかし、十把一絡げに、紙といっても洋紙と漉き紙では原料や作り方は大きく異なる。前記の墨との相性は紙によって決まるといわれるが、洋紙では表面が圧着され滲まないことや、筆による紙触り、擦れや滲みが乏しく書としては不向である。また、原料に関していえば漉き紙が、その地域に自生する植物の長い皮繊維と自然由来の糊成分で結合させ乾燥成型して作られるのに対し、洋紙は原料が木材チップ（パルプ）を粉砕し短い繊維を原料に圧着ロール成型する工業生産であるところに大きな違いがある。よって、洋紙



《現代の書 新春展 2017》「木洩日」68×148cm セントラルミュージアム銀座

の耐久性は低く、野外に数か月放置しただけで極めてもろい状態に劣化してしまう。日本の紙の原料で代表的なのは楮、三桠、雁皮である。国内で生産されている書道半紙の原料は楮が多く、三桠はその優れた耐久性から日本紙幣の原料として混ぜられ、雁皮は加工され仮名の鳥の子紙に仕立てられる他、その薄さや透明感から転写にも優れていて重宝されている。その他、最近では反古紙（使用済み半紙）をリサイクル原料とした半紙＝再生半紙が商品化され環境教育の面でも注目され話題となっている。

おわりに

最近のニュースでは福岡県で弥生時代後期（1～2世紀）とみられる硯の破片が複数発見され、伊都国の外交文書の作成がなされていた可能性が高まったと報告された。日本において一部の知識人が、律令制度が整うかなり以前から文房四宝を用い文字を書き文書のやり取りをしていたことをしめ

す史料として注目された。学校教育においては、取上げなければ出合うことのない教材や経験することのない活動を子供たちに提供することも大切である。その意味では、その成長の時期に応じて文字そのものや手書き文字、筆文字の技能面だけでなく文房四宝（用具用材）について学ぶことは必要と考える。

書道の展覧会などで、文房四宝の簡単な職人体験ができる特別企画やワークショップがかなりの盛況を得ている。文字を「かく」ことよりも「うつ」ことが多くなりつつある今こそ、文房四宝にも注目し書写・書道（小中学校の国語

科・高校の芸術科）の授業において文房四宝や文字文化について「協調学習」や「アクティブラーニング」を取り入れた授業を研究することはこれから必要になるにちがいない。

さらに、書道教員を目指している諸君は、書を教育としてだけでなく是非とも国際的文化交流にも大いに役立てられるという希望をもって教職資格の取得に臨んでほしい。

参考：『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』平成28年8月26日中央教育審議会初等中等教育分科会・教育課程部会



《硯削り体験》



《書による国際交流》

教職課程



これからの国語科教師

—新学習指導要領施行を目前にして—

文学部 兼任講師 根本 欣哉

1. はじめに

春先四月の最初の講義で、私は国語科教師を目指す学生諸氏に対して、次のような問い掛けをしてみた。「『教育』という熟語がありますが、この語を訓で読むとすると、皆さんはどう読みますか？」と。唐突な発問に、学生達は異口同音に「教え育てる」「教え育む」と答えてくれた。「教師が児童生徒達に対して（国語を）教えるんだ。」「国語科教材を通して教師が子ども達を育てるんだ。」と、殆ど全ての学生達は「教育」を教師中心に展開されるものという理解をしていることに驚かされた。私はここに新しい国語科教育という様々な試みの原点があると考えている。

「師弟共流」という語がある。これは芦田恵之助が大正14年に、その著『第二読み方教授』の中で提唱した考え方である。^(注1)

「私は教師中心の読み方教授の中で育て、その欠点を自覚し、徐々に殻をぬいで来たものです。さうして所謂児童中心のずばぬけた読み方教授を行ってみたことのないものです。その意味はわからないのですけれども、虚心坦懐に見てゐて、児童を解放したような長所の裏側に、前に述べたやうな如何はしいふしも見えます。もし私に児童中心の読み方教授に理解がないやうに見えたら、それは実験を持たない私の経歴が然らしめてゐるので、自分の味愚をかなしむと共に、御寛恕を請ふ外はありません。たゞ児童中心の読み方教授研究者が、かつて教師中心の読み方教授に欠点を発見されましたやうに、児童中心の読み方教授にも本質的に欠点があるやうに見えます。引ずっても、教師の思ふ所に児童を引ばって行かうといふ、教師中心に欠点があるとしたら、児童の行くがまゝに、教師がついて行かうといふ、児童中心にも欠点がありませう。引くにも罪があれば、押すにも罪がありさうです。教育はそんなに引いたり、押したりしないで師弟共に向上の一路をたどるべきものではないでせうか。而もその間には、打てば火の出るやうな緊張が持続せられ、謙虚・満足・感謝の心持に運ばれるも

のではないでせうか。」と記している。

これこそが新時代の国語科教育に不可欠な教師の姿勢ではないだろうか。教師と生徒の間にある教材は、互いに協力し合って学ぶ事



によって、それぞれの自己啓培に繋がっていくことになる。したがって、単に「教え育てる」と訓じるのではなく、児童生徒に対して「教え育て」ながらも、教師自身が児童生徒からはもちろん、同僚や先達から、また保護者や地域住民といった様々な教育協力者から「学び教わり、一人の教師として成長する(育つ)」という柔軟で謙虚な姿勢が最も重要な資質であると確信している。

今、様々な教育（授業）方法が提唱されているが、新人教師はもとより熟練したベテラン教師もその豊富な経験に拘泥することなく頑なな姿勢を崩して、新しい時代に即した新しい試み（教育・授業）を、まさに柔軟かつ謙虚に学び受け入れていく事が肝要と言わざるを得ない。

2. 新しい教育活動について

近年取り沙汰されている新教育を、私は「A・I・G」と呼んでいる。アクティブラーニング・ICT活用教育・そしてグローバル教育である。次期学習指導要領においては、この三つの言葉が散見されることとなる。授業中、児童生徒が「集中して前を向いている。」「静かに教師の話に耳を傾けている。」「しっかりとノートを取っている。」といった旧来の古典的授業から脱却して、児童生徒の受動的学習から生徒主体・生徒参加型の能動的学習への転換が求められている。これま

でのような教師が一方向的に知識を伝え教えるという講義型の授業に対する反省と国際化・高度情報化といった社会環境の変化に対応すべき「生きる力」「21世紀型スキル」の育成という両面から、教師一人一人の授業のみならず教育活動全てに対する意識の改革が急がれているのであろう。国語科だけでなく各教科の授業の中で、PBL（Project Based Learning…課題解決型の授業）やPIL（Peer Instruction Lecture…対話導入型授業）を駆使して21世紀型教育（A・I・G）を実践していかなければならないということであろう。至極当然のことであり、速やかに現場教師は取り組まねばならないことといえる。

ただし、ここで明らかにしておかねばならないことは、戦後まもなく民主国家樹立に向け青雲の志を以て掲げられた戦後初の学習指導要領に、すでにこうした学校教育（授業）を提唱されているということである。

昭和22年3月20日、試案として戦後教育の根幹をなすものとして学習指導要領が発表されたが、すでにその第4章「学習指導法の一般」に、次のように記されている。^(注2)

「（学習指導とは）その意味をごく常識的に考えると知識や技能を教師が児童や青年に伝えることだと解するかも知れない。しかし、教育の目標としていることがどんなことであるかを考えてみれば、ただ知識や技能を伝えて、それを児童や青年のうちに積み重ねさえすればよいのだとはいえない。学習の指導は、もちろん、それによって人類が過去幾千年かの努力で作りに来てきた知識や技能を、わからせることが一つの課題であるにしても、それだけでその目的を達したとはいわれない。児童や青年は、現在ならびに将来の生活に起こる、いろいろな問題を適切に解決して行かねばならない。そのような生活を営む力が、またここで養われなくてはならないのである。それでなければ、教育の目標は達せられたとはいわれない。このような学習指導の目指すところを考えると、児童や青年は、現在並びに将来の生活に力になるよう

なことを、力になるように学ばなくてはならない。（中略）このような教材をこのような学び方で学んで行くように指導するには、まず「学ぶのは児童だ」ということを、頭の底にしっかりおくことがたいせつだということである。教師が独りよがりにならなければそれでよろしいと考えたり、教師が教えさえすればそれが指導だと考えるような、教師中心の考え方は、この際すっかり捨ててしまわなければなるまい。（中略）児童や青年は、まず自分でみずからの目的をもって、そのやり口を計画し、それによって学習をみずからの力で進め、更に、その努力の結果を自分で反省してみるような、実際の経験を持たなくてはならない。」

少し長く引いたが、すでに戦後まもなく、近年提唱されている新時代の新教育は、この時代に指摘され、綴られていることを我々は自覚せねばならないと思う。学習は生徒中心でなければならず、教師が一方向的に講義をするのではなく、学校教育（授業）の場で、児童生徒が主体的に、自ら学習の目的（道すじ）を見出し、計画的に自らの方法で学習活動を進め、そしてその結果を自ら振り返るという学習の中で、「生きる力」を培っていくことを、すでにその目標として掲げられているのである。にもかかわらず、教育現場では「偏差値教育」や「受験戦争」という名の下に、戦後日本の学校教育はその理念から徐々にかけ離れていってしまったのである。私は今、新時代にむけた新しい学校教育（授業）を考える前に、まずはこの原点に立ち戻らねばならないと痛感している。母国の新しい門出に際し、大きな教育改革を試み、教育者の自覚と責任の重さを説く、この戦後初の学習指導要領の理念をあらためて再確認することが何よりも急務ではないかと考えている。

昨年6月、時の文部科学大臣から「ゆとり教育からの決別」という宣言があった。1970年代、日本教職員組合の提唱に端を発した「ゆとり教育」（「学校5日制」を含む）は、その後30年間に及んだ。3度の学習指導要

領改訂に伴い、授業内容や授業時数の削減や学校5日制実施、「総合的学習の時間」の新設や「絶対評価」の導入など、様々な改訂がなされてきた。未だ「ゆとり教育」の成果を見届ける間もなく、文科省は「決別」とした。「宣言」したのも「決別」したのも文科省である。既定のものに対するアンチテーゼというのは、確かに耳障りが良かったやすく支持され受け入れられるものではあるが、その都度教育現場は混乱をきたす。決別宣言後の新指導要領には、また新たな様々な示唆がなされることであろうが、我が国の教育理念がまるで大きな振り子のように一気に揺れ動くことを私は懸念している。前述の昭和22年の学習指導要領の序論には、「これまでとかく上の方からきめて与えられたことを、どこまでもそのとおりに実行するといった画一的な傾きのあったのが、こんどはむしろ下の方からみんなの力で、いろいろと、作りあげて行くようになってきたということである。」^(注3)と記され、画一的な教育から個性を重んじる教育へ、そしてその実現には教師一人一人の創意工夫が不可欠である、と繰り返している。今まさに、その創意工夫がもたらすそれぞれの教師の個性（個々の能力）そのものが、数字では表せない学校資産というべきではなかろうか。一定のルールを尊重しながらも、教師の教育活動（授業・学級経営・課外活動・分掌業務等）に「自由」を取り戻し、新しい様々な試みを柔軟に受け入れ、各々が創意工夫・試行錯誤を繰り返しながら、目の前の児童生徒にとって、よりすぐれた教育活動を模索し続けることのできる学校環境を創出することが重要であり喫緊の課題となろう。文科省や教育委員会といった行政や学校管理職、そして現場教員の叡智を集める時節といえるのかもしれない。

教育行政に振り回され、その大きな流れに身を委ねるのではなく、一教師として飽くなき創意工夫をもって、各人個性豊かな教育活動が実践されることを切に願うところである。決して教師自身が「迷子」になってはな

らない。今こそ、行政から発信される短命な教育理念や指導法に関わる様々な手段に右往左往せず、それらをしっかりと見極めつつ、一人の教師として、自分自身の教育論という深い井戸を掘るべき時ではないかとあえて提言したい。（昭和26年に施行された学習指導要領には「学習指導要領は、どこまでも教師に対してよい示唆を与えようとするものであって、決してこれによって教育を画一的なものにしようとするものではない。…どうしたら最も適切な教育を進めていくことができるかについて、創意を生かし、くふうを重ねることが大切である。」^(注4)と記されている。）

3. グローバル時代の国語科教師の役割

周知の通り、今グローバル化の時代だといわれている。そうした流れの中で、国語科教師はいったい何を目指し、何を児童生徒達に伝えていかねばならないのだろうか。1990年代から盛んに叫ばれ始めた「グローバル化」とは、言うまでもなく国境を越えて、地球全体を一つの共同体とする考え方であり、民族・言語・肌の色や価値観・宗教観・生活習慣などの違いを認め合い、互いに助け合い協力し合って共に発展することを目指すものであろう。近年国際的な経済活動においては、一定の成果を得ているという向きもあるが、直近においては些か流れが変わってきているようである。「反グローバル」「アメリカ・ファースト」を唱えて米国大統領に就任したトランプ氏の出現、英国のEU離脱に始まる欧州の右傾化、アジアにおいても中国や朝鮮半島情勢、またTPP問題やフィリピンのドゥテルテ大統領の政治活動を鑑みても、世界情勢は「グローバル」から徐々に潮目が変わってきているようである。債務危機や難民移民の対応、それに伴う自国民の失業問題等、欧米各国は自国の利益優先という内向きの姿勢に転じ、グロテスクな国家エゴ表出の姿勢である。1930年代のブロック経済再来の様相を呈している。これはアジア・アフリカにおいても同様である。中近東諸国の政治

不安にも目を離せない状況である。

もちろん私はナショナリストでも右傾化した排他論者でもない事を断っておくが、そうした国際情勢の中で、我が国の国語科教育の使命という命題を再考し、あらためて認識しなければならないのではないかと提起したいのである。

結論から言うと、今こそ本来の国語科教育を取り戻さねばならないと考える。ナショナリズムに根ざしたグローバリズムでなければならない。つまり母国の言語や文化を正しく学び理解することが最優先であり、それをしっかりと後継者に繋いでいくという、従前の国語科教師に課せられた使命を再認識しなければならない時であるといえよう。本来「国語」の学習は日本語の言葉と文字を学ぶ言語の学習である。それによって意思の伝達やコミュニケーションを図り、知識の積み重ねとともに思考習慣を身に付け、ひいては新しい文化の創造につなげていくというものである。グローバルを語る前に、まずはローカルを学び知る事から始めなければならないであろう。日本語の正しい使い方を学び、自分自身が生まれ育った郷土を知り、母国の文化を愛することが何より大切なことである。児童生徒一人一人が生活しているローカルに誇りと自覚を持って「知る」ことこそ肝要なのである。そして同時に、他のローカルを受け入れ認め合うことが「グローバル」の第一歩といえよう。

ここに国語科教師の担うところが広く大きく存するのではないだろうか。「グローバル社会」と言われる今だからこそ、国語科教師はその本来の基本に立ち返り、日々の教育活動に活かしていかなければならないとあらためて痛感している。(昭和26年改訂発布の学習指導要領の第一章、国語科の目標「中学校・高等学校の国語学習指導の目標は何か」を再読することも大切であろう。)

場に応じた正しい言葉遣いや筆順や書写を含む正しい文字を習得することから、日本語を愛する心を培う、という本来の国語科学習

の目標を根幹にして、あらゆる教材を通して、科学的な論理的思考習慣や効果的な言語活用能力(真)、鋭い道徳感情(善)、高い芸術的感受性(美)を追究するという原点に軸足をしっかりと置かねばならないのである。ひいては母国の文化を愛し、そして社会の一員として権利・義務・責任感・礼儀・正義を重んじ、反戦(反核)の精神に満ちあふれた若者を世に輩出していくことが、今の「グローバル社会」において我々国語科教師に求められているものと確信する。

4. おわりに

「学ぶ事を止めた時、人は教えることを止めなければならない。」

これはロジェ・ルメール氏(サッカー元フランス代表監督)の有名な言葉である。我々は教職にある限り、生涯学び続けなければならない。今、様々な指導実践報告がなされている。前述したが、キャリア教育・アクティブラーニング・ICT活用教育・グローバル教育そして地元地域社会との交流と「21世紀型スキル」習得を目途に、現代社会は学校教育に大きな期待を寄せているといっても過言ではない。

我々は常に新しい時代にあった新しい教育を目指して研鑽し続けなければならないだろう。若い教師も老練な教師も、これまでの貴重な経験や実践を活かしつつ、不易と流行を見極めて、新しい試みに対し果敢に積極的にそして謙虚に学び理解し実践することが、教師としての最大の責務であるといえよう。

「やってみよう！」から始めてみませんか？

注1 芦田恵之助著『第二 読み方教授』(1925年刊、蘆田書店。1987年刊、明治図書出版『芦田恵之助国語教育全集』第7巻所収)による。

注2 1947年、第二次世界大戦直後に当時の文部省が告示した学習指導要領(試案)の第4章の学習指導法の一般「一、学習指導は何を目ざすか」による。

注3 同上、文部省告示の学習指導要領(試案)の「序論」による。

注4 1951年、文部省告示の第2次学習指導要領(試案)の「序論」による。

これからの時代に求められる特別活動

元東京都立高等学校校長 長船 孝明

はじめに

特別活動は、さまざまな集団の中で課題の発見や解決を行う場である。特別活動の自主的・実践的な活動を通して、人間関係の構築や自己実現を図る態度を養うことができるようになる。その結果、将来社会へ出てから、様々な人間関係の中でその能力が生かされていく。



高等学校学習指導要領では、特別活動の全体の目標として「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を活かす能力を養う。」ことを掲げている⁽¹⁾。特別活動は、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の三つの領域から構成され（中・高では部活動は含まれていない）、それぞれに目標、内容が定められているが、そのすべてにおいて「自主的・実践的な態度の育成」が目標として示されている。つまり特別活動の目標は、所属する集団の中での望ましい人間関係の形成、課題の発見・解決策の提示、自己実現の三つにまとめることができる。

学校生活を豊かなものにするとともに、自主的、実践的な態度を養い、生徒の社会性を育成する特別活動は、本来「教科・科目の学習」以上に重視しなければならない。しかし実際の学校現場では、これらの目的がねらい通りに実現できているのだろうか。残念ながら、後に触れるように、様々な理由でお座なりにされているのが現実である。

本稿では、学校現場で実際に行われている特別活動の問題点を指摘するとともに、これから求められる特別活動とは何かを明確にした上で、それを実現するためどうすべきか提言をしたい。なお、紙幅の関係上、筆者が長

年勤務した高等学校に限定して述べたい。

1. 特別活動の現状と課題

各学校の経営計画を見ると、自主・自律、成就感・達成感、コミュニケーション能力、協調性、協働、帰属意識、満足度、活動の活性化、豊かな人間性、リーダーシップ、社会性、規律性等の言葉が目立つ。少数ではあるが国際交流を特別活動として目標としている学校もある。また、2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックという言葉も目立つ⁽²⁾。

このように学校経営計画では、特別活動の担う役割が大きいことがわかるが、はたしてそれを担当する教員が特別活動の目標を踏まえ各活動・行事の目標を設定しているか。また、クラス、分掌、担当組織がそれぞれの活動のしっかりとした目標を定めていても、それらが学校全体に周知されているか、校長の学校経営方針に沿ったものとなっているかは疑問である。さらに、それぞれの活動・行事については時間をかけ検討し実施されているが、特別活動には所謂「専門家」は極少数であり、専門的知識を持った教員も少ない。そのため「特別活動の目標」を意識して指導しているとは言えない。

私の勤務した複数の学校でも1校を除き、学年会で学年全体のLHRの年間計画を作成することはあっても、そこで校長の学校経営計画を念頭に置いて計画したことは皆無であった。私自身初めての担任時代は、校長の学校経営計画に沿ったホームルーム活動という意識は全くなかった。

初めて担任を持った学年で、クラスの生徒に担任としての自分の気持ちを伝えたい、保護者には学校の様子を伝えたいという気持ちから週1回の学級通信を発行した。何か月かすると他のクラスでも発行されるようになり、担任同士が競い合い始め、2年目からは毎日の発行になった。当然、ネタ切れを生

じ、半ページを毎日交代で生徒に担当させた。それが功を奏し、生徒間の人間関係の構築に役立った。卒業後10年ほど経過したクラス会で、複数の生徒がこの学級通信のファイルを持ってきた。多くの生徒が成人しても大切に保存してくれたことに驚かされたと同時に感動した。この学級通信は、特別活動として意識したものではなかった。それでも学級経営には好影響をもたらし、結果的には特別活動の目標は概ね達成できていたということになる。

文化祭、体育祭等の学校行事については、多くの学校で経営計画に沿った目標、年間計画、役割分担等が設定され、学校全体に周知されているが、ホームルーム活動は当該学年の担任団あるいは当該クラスの担任のみであったり、全く設定されていなかったりする。また、委員・係決めや宿泊行事の部屋割りや係決め、体育祭の出場種目決め、定期考査前の自習時間等に多くの時間を費やし、本来のホームルーム活動がおろそかになっている現状がある。

クラスの委員・係決めが前後期で2時間、体育祭の出場種目決め1時間、文化祭の出し物決め・役割分担・準備で4～6時間、宿泊行事の班決め・部屋割り・コース決め等で2～3時間。考査前の自習、学年行事（球技大会等）、講演会等々で年間時数の半数を費やす例が多い。

生徒会活動については、年間活動計画はしっかりしているものの、生活指導部等の指導を担当する分掌に所属する教員と生徒会役員しか認識していないことが多い。職員会議、生徒総会で生徒会の年度目標や年間計画表を配布し説明は行いが、多くの場合は生徒会担当教員と生徒会役員の分掌であるという認識で、当事者意識がないのが現状である。そのため、生徒の情報が共有されていなかったり、活動や行事によって目標や方針がばらばらであったり、指導方針が異なることによ

り効率の悪い指導になっていることがある。また、極少数ではあるが、特別活動そのものが軽視されているのではないかとと思われる学校経営計画も散見できる。

あらためて高等学校学習指導要領の、特別活動の全体の目標を見てほしい。「望ましい集団活動を通して・・・人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を活かす能力を養う。」ことを掲げている。しかし現状の多くは前述のとおりである。

なぜ特別活動が本来の目標通りに行われないうか。原因はいろいろと考えられるが、例えば、学校の指導は教科指導と部活動指導が中心であるとする教員がいることである。また、この二つの指導に日々追われているということもある。学習指導要領に位置付けられているということはわかっている、その意識がない。中には、ホームルーム活動の計画を立てることができず、安易に教科指導の時間に使う教員もいる。さらにクラス・学年の和に力点を置きすぎ学年球技大会等の学年行事を過剰に実施することもある。

私の勤務経験の中で1校のみ学校経営計画に沿ったホームルーム活動が行われ、LHRを欠席した生徒に対しては確実に補習を行いカバーしていた学校があった。普段から生徒の関わりに重点を置く学校であったが、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに非常に有効であった。

昨今、コミュニケーション能力の育成が強く求められているが、特別活動はこの能力育成には欠かせない活動である。

さて、これまでに特別活動の現状は、学習指導要領を意識していない、また校長の学校経営計画を意識していないと述べてきたが、クラス・学年・生徒会といった単体で考えると、結果的には目標の達成に結びついている場合が多い。より効果的な指導が行えるよう、各教職員が自覚を持って今一度学習指導

要領に記された特別活動の目標を確認するとともに、学校全体で全ての行事や活動の目標や内容を再考する必要があるのではないか。

2. 中教審答申と特別活動

昨年12月、中央教育審議会は、平成32年度の小学校から順次全面実施される（中学校33年度、高校34年度から）新学習指導要領の改訂のため「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申）を出したが、そこで新たな特別活動の方向性が示された。同答申は、「特別活動において育成を目指す資質・能力について、幼児教育や他教科等との関係性も意識しつつ、『人間関係形成』、『社会参画』、『自己実現』という三つの視点を手掛かりとしながら、『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』の三つの柱に沿って整理を行った。これら育成を目指す資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校の系統性を考慮して特別活動の目標を示す必要がある。」としている⁽³⁾。また、「特別活動は、教育課程全体の中で、①特別活動の各活動において資質・能力を育む役割だけでなく、②学級活動を通じて学級経営の充実が図られ、学びに向かう学習集団を形成することや、各教科等において育まれる『見方・考え方』を特別活動の中で実践的な文脈で用いることによって、各教科におけるより『主体的・対話的で深い学び』の実現に寄与する役割や、③教育課程外も含め学級・学校文化の形成等を通じて学校全体の目標の実現につなげていく役割を担っており、これらをバランスよく果たすことが求められている。」としている⁽⁴⁾。

現行高等学校学習指導要領では、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容から構成されている。それぞれ全体の目標は示されているものの、網羅的に示されている内容について個々の目標は定められてい

ない。さらに、学習指導要領告示後数年が経過し指導が実施されるため、時代に合った指導がなされないこともある。たとえば、情報化の急速な進展、少子高齢化といった社会の変化に対応しきれていない。

今回の答申では、「知識・技術」、「思考力・判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を目指す資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校の系統性を考慮して特別活動の目標を示す必要があるとされている。

特別活動は、人間形成をするうえで欠かせない場であると同時に、各学校の教育目標を実現させるうえで教科指導以上に重要な役割を担っている。

各学校は、今後、これらのことを念頭に特別活動の目標を設定し、実践していくことが必要である。

3. これからの特別活動

最後に、これから行われるべき特別活動について提言しまとめとしたい。

第一に、特別活動の充実を図り、生徒が好ましい人間関係を築くとともに社会に参画する力を育成し、自己実現を図る能力を育成するための目標設定をする必要がある。これらの能力を育成するために、課題発見能力、課題解決能力の育成が重要であることは言うまでもない。

集団の中で役割を持たせ、自ら主体的に対応する場を設定し、思考力・判断力・表現力を育成するなど、指導者が計画的・意図的に指導することが有用である。ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動において、生徒自ら企画・立案をさせ実践させることにより、各学校が設定した特別活動の目標を達成することができる。

第二に、目標はあくまでも学校経営計画に則ったものになるようすることが必要であり、目標設定後は教職員・生徒に周知させることを忘れてはならない。さらにそれぞれの

活動・行事がちぐはぐにならないような調整が必要である。

たとえばホームルーム活動では、学校経営計画に示された「本校の目指す生徒像」等に則り学校全体で指導計画を検討し、さらに学年単位で、次いでクラス単位で年間目標あるいは3年間の目標を設定し、3年間の計画を検討して学年・学校がその目標及び年間計画を共有する必要がある。目標や年間計画の設定に際しては生徒に参画させ、クラス毎に生徒同士で検討をさせることによって、学習指導要領にある、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を活かす能力を養う。」という目標を達成させることにつながる⁽⁵⁾。

第三に、小学校では平成30年度、中学校は平成31年度に全面実施される「道徳」、さらに「総合的な学習の時間」や、高等学校の「奉仕」などの教育活動との重なり、近年重要視されている防災やSNSを含む「安全教育」も考慮して検討をする必要がある。

例えば東京都では平成19年度から27年度まで全校で履修していた教科「奉仕」であるが、これは社会貢献意識について18時間以上の体験を取り入れた授業を実施していた。しかし、社会貢献意識以外にも、道徳性を養う必要、体験活動で学んだことを生かし、主体的に選択行動する力、社会の変化での対応、課題解決力の育成が必要という観点から、平成28年度より教科「奉仕」を発展的に統合し、体験活動や演習を取り入れ、道徳教育とキャリア教育の融合を図ったことを特徴とする「人間と社会」を全校週当たり1単位時間必履修とした。この教科はアクティブラーニング形式を活用し「演習」による学習16単位時間、「体験活動」による学習19

単位時間で行われる。評価については文書記述によるものとしている。特別活動だけでは時間数が不足し十分に目標を達成することはできないが、このような教科等との関連を検討し指導することで、特別活動の充実が見込まれる。

いずれにしろ、特別活動はそれぞれの活動を単独で計画するのではなく、学校全体で目標を共有し、しっかりとした計画性を持って指導していくことが必要であり、また、効果的である。そのため、校長が定めた学校経営計画に基づき、校長・副校長（教頭）と各学年、教務、生活指導、進路指導をはじめとする各主任級教員で構成する「特別活動検討委員会」（仮称）等を設置し、前年度末までには特別活動の目標を設定すべきである。その目標・活動には、各学校の特色を織り込むことを忘れてはならない。

現時点では、今後発表される「高等学校新学習指導要領」がどのような内容になるかはわからないが、全教職員が特別活動の意義を再確認し、『人間関係形成』、『社会参画』、『自己実現』という観点から、教科・科目以上に充実させなければいけないということをしっかり認識すべきである。

（註）

- (1) 文部科学省「高等学校学習指導要領」平成21年3月294頁。
- (2) 東京都教育委員会；都立学校ホームページ <http://www.kyouiku.metro.jp/link-2.html>。
- (3) 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」平成28年12月21日230頁。
- (4) 同上。
- (5) 前掲註(1)。

<参考文献>

東京都教育委員会編集・発行「人間としての在り方生き方に関する教科『人間と社会』指導資料」平成28年3月

教師が生徒と関わるために、授業は最も重要なものの一つですが、仕事は授業だけではありません。そんなことは教師を目指している人なら誰でも知っていることですが、実際に教師になってみると、その重みが身にします。

例えば大きい行事は文化祭、体育祭、林間学校、修学旅行など、小さい行事では校外学習、保護者会、各種イベント、在校生に関わらずとも生徒募集など、そのどれも数ヶ月～数年のスパンで計画を立てますし、実行に移されます。学校外に出る仕事もありますし、色々な計画を同時に進めなければなりません。

校内 20 cm 望遠鏡の操作

放課後には部活動もあります。毎日部活がある場合もありますし、つきっきりで指導をしていれば、生徒を完全下校させるまで他の仕事をする事ができません。ほかにも、進路相談や推薦入試指導などがあります。担任をもっていればここにクラス運営が加わります。生徒や保護者との面談もありますし、誰よりも生徒を知り、生徒の変化に気を配る必要があります。

その中で授業をしていくのは、簡単ではありません。授業時間の3倍以上の時間を授業準備に使わなければいけない、とよく言われますが、行事が重なったりトラブルが発生したりした時には、準備時間がとれないまま授業に行かなければならないこともあります。もちろん、夏季・冬季休暇期間などを利用してあらかじめ授業を作成しておけば、直前の準備は短時間で済むでしょう。しかし、少なくとも私は授業以外の校務も行うようになってからこの1年半の間、必ずしもそのような理想的な状態でいることはできませんでした。

中途半端な準備で行う授業というのは、大抵うまくいきません。授業全体が完全には頭に入っていないので、どこか自信を持つことができず、一つ一つの言葉に力が入りませんし、展開を考えることに力を使ってしまうので、生徒一人ひとりの表情や反応への注意が疎かになってしまうからです。生徒は、教員が自信をもって話しているか、自分たちを見てくれているか、といったことに敏感です。教員と生徒との間にしっかりと人間関係が成立していなければ、形式的に授業を展開したとしても、生徒の学習は展開しないので

す。しかし同時にこの経験から、生徒とのその授業における人間関係が成立すれば、生徒の学習は自然に展開することがあることを知りました。私の担当する現代文では特にその傾向が強いと感じます。

生徒と人間関係を構築する上で重要なのは、生徒にとって身近な話をすること、対話をすることです。そのために教員が出来ることの第一は、とにかく普段から本を読み、外部へのアンテナを常にはっておくことでしょう。生徒の関心は、教科書の中身そのものよりも、その先にある現実に向いています。実際、それをしっかり捉えて提示してあげることで生徒の学習を展開することが出来ましたし、それがどの授業にも必要なことなのだと思います。その意味で、授業準備には一時間の授業計画をたてることだけでなく、教員がその生活において生徒に提示できる引き出しを作ることも含まれるのだと、今は理解しています。

そして、教員の作る引き出しは偏りすぎないほうが良いと思います。学校の授業は国語、数学…と各教科に分けられ、それに応じて教員免許も分かれています。生徒の興味は必ずしもその枠組みと一致しません。いわゆる理系の中にも物語が好きな生徒はいますし、文系の中にも理科が好きな生徒はいます。私は、一般的に理科のイメージのついている天文部の顧問をしていますが、天文といっても扱うことは宇宙物理から星座の神話まで様々で、神話は明らかに文学の領域と密接な関係があります。古典文学にも『明月記』など天文と関わるものもあります。あらゆる分野は、どこかで繋がっているのです。

教員が偏向的では生徒も関心を自由に発露できません。生徒に自由な選択をしてもらうために、まず教員が自由な選択肢を用意しなければなりません。そして生徒はその自由な選択肢から、更に新しい選択肢を考えてくれるでしょう。教員の面白みは、そこにあるのだと思います。



一番右手前が筆者

【はじめに】

皆さん、こんにちは。私は山梨県にある笛吹市立一宮中学校で教員をしている塚越と申します。教職を志し、日々学業に励んでいる皆さんに私の経験と感じたことを通して何かの役に立つことができたらい、お話しさせていただきます。

まず、学生時代は教員養成課程の先生方が開いていた教養ゼミナールに所属し、生田校舎と神田校舎を歩き来する中で、大学の講義以外にも教育に関わる知識や考え方を学ぶことができました。当時の先生方の支えもあり、専修大学卒業後は専門的な社会科教育を学ぶために大学院受験を行い、その2年後には山梨県の教師として教壇に立つことができました。採用試験では、知識や教養については「自分に足りないことを補うこと」。面接や作文では「自分のプラスの面、アピールできることを表現すること」を大切にしていきました。



【教師の仕事とは】

ところで、教師の仕事とは何でしょうか、私は「人間の育成」だと考えています。教科における授業、学級活動、生徒会活動、部活動、あらゆる活動が生徒一人一人を成長させる活動だと考えています。そこには教師が培ってきた知識、経験、教育観、生徒への愛情が大きな力となります。私もそうでしたが、教師になったばかりでは知識も経験も教育観もほとんど無いと思います。それでも続けていくことができるのは「生徒への愛情」、具体的には「教師として頑張っていきたい」、「目の前の生徒によりよくなってほしい」、「将来自分の力で活躍できる人間になってほしい」…などやる気と情熱だと思います。その力があればどのような環境においても、どのような生徒を受け持っても、どのような部活を持っても教師として続けることができます。

【ここまで頑張ることができた理由】

幸いにも私は教師を続けて今年で10年目を迎えることができました。しかし、全て順

調に歩むことができたわけではありません。授業の進め方に迷ったり、学級経営で難しいなと思うことや部活動が思った成果を上げることができなかったことも多々ありました。そんな時に支えて下さったのが周りにいる教師集団でした。互いの課題や改善点を出し合うこと、また連携と支え合いが成長する糧となりました。そして何より私の力になったのは、生徒たちの何事にも取り組もうとするパワーと明るい表情でした。教師は知識や情報を伝えることが仕事ではありません。ともに考え、ともに悩み、ともに喜び、ともに分かち合う。その中でともに成長することが教師を続けることのやり甲斐だと感じています。

【教師を目指す専修大学の皆さんに】

最後に教職課程を頑張っている皆さんにメッセージを送りたいと思います。まず、知識だけを伝えるのが仕事では無いと書きましたが、教師の仕事の大前提は授業になります。どのような教科や分野を教えるにしても専門的な力は必要になります。中学校の社会科では大学で学ぶ学問の入り口になる要素はたくさんあります。また、今はアクティブラーニングに代表されるような主体的な学習が中心となります。生徒とともに学ぶ学習、このことについて考えることは大切だと思います。次に、たくさんの経験をしてほしいと思います。サークル、部活、アルバイトでの経験、日本・海外を問わず旅行や研修、ワークショップ。こうしたたくさんの経験が血となり肉となり、豊かな表現力をもって生徒たちに伝えることができます。百聞は一見にしかず、大いに体で学んでほしいと思います。

結びになりますが、先日、私の勤務校に一人の教え子がやってきました。彼女は来年教育実習を行うそうです。尊敬できる多くの先生に出会ったことから決めたそうです。皆さんも教職課程を履修しているのは様々な理由があつてのことだと思います。彼女のように教壇に立てる日を夢見て夢の実現に向かって歩み続けてほしいと思います。ありがとうございました。



卒業生から（小学校）

江東区立数矢小学校 教諭 山口 亮（平成22年度法学部法律学科卒業）

私は、2012年4月に現任校で教員生活をスタートしました。教員としてまだ5年目の私が、教員志望者の皆さんへどんなことを伝えるべきかととても悩みました。悩んだ結果、自分が教員志望の学生だった頃に、「こんなことを聞いたら嬉しかったらうな」と思うことを必死に考えて書くことにしました。教員志望の学生が「聞きたくないだろうな」と思う話は書かないようにしています。「先生って大変なのだな」という話はいろんなところで聞いているだろうし、大変なのはどの仕事でも一緒のはずなので、学校の先生だけが特別厳しい仕事ではないと思うからです。この文章を読んで、「やっぱり学校の先生になりたい」と思える学生さんが少しでも増えてくれれば幸いです。

まず、教員志望の学生であるみなさんに、“今”してほしいと思うことについて書きます。それは、「教員になって何をしたいか」というような、自分の信念と原点をもってほしいということです。教員になり日々子ども達と向き合っていると、「指導しなくては」と思うことがたくさん見えてきます。それは、学習のことだったり、規律のことだったり、人間関係のことだったり、身の回りの整理や身だしなみといった生活面のことだったり…様々です。日々の忙しさと、目の前で起こる「指導しなくては」と思うことの多さで時々自分を見失うことが出てきます。そんなとき私は自分の信念と原点に立ち返るようにしています。私の原点は「子ども達がこの先どこへ行っても、信頼できる仲間をつくることのできる人間性を育てたい」というものです。これは教員になる前に、それまでの経験を通してじっくり考え、熱い情熱をもって導き出した自分の信念であり原点です。この原点に立ち返ることで、「自分の指導は間違っていない」と確認できたり、「今日の指導で良かったのであろうか」などと反省することができます。

教員になり、毎日仕事と向き合う中で、いろいろなことが見えるようになったり考えら

れるようになったりすることはとても大事だと思います。でも、教員になる前のものの見方や考え方、情熱もとても大事なものと、今になって私は感じます。教員志望者の皆さんも、今のうちに自分の信念と原点をつくってください。

次に、教員という仕事のいいところを書きます。教員生活の中では、鳥肌が立つような、心が温かくなるような、嬉しくて涙が出るような、そんな最高の瞬間に出会えます。しかも、一年の間に何回もです。

例えば最近こんなことがありました。水泳で10mも泳げなかった児童が、夏休みの間に一生懸命練習し、検定に臨みます。私はゴールの位置で待っていて、25m泳ぎ切って顔を上げたその子どもに「合格！！」と大きな声で言います。湧き上がる拍手とその子のはじける笑顔。まさに最高の瞬間でした。

行事も最高です。運動会、学芸会、宿泊行事等、子ども達が協力して様々なことをやり遂げます。達成感に満ち溢れた表情になり、そんな姿を見て成長を感じることが出来ます。中でも卒業式は格別です。この前、私が3・4年生を担当した子ども達が卒業しました。あんなに子どもらしかったのに、胸を張ってどこか大人びた表情で卒業証書を受け取る姿に感動しました。私はまだ6年生の担任になったことがありません。順調にいけば来年度担任をもてそうです。きっとこれまでにないぐらいの最高の瞬間に出会えるのではないかと楽しみにしています。

教員は最高の瞬間にたくさん出会える仕事です。大変なのはどの仕事でも一緒ですが、こんなに最高の瞬間に出会える仕事はそうないはずです。

教員志望のみなさん。「教員になって何をしたいか」という自分の信念と原点をもち、教員を目指して頑張ってください。教員は最高の仕事です。

〈はじめに〉

この度、私は平成29年度公立学校教員採用試験の高校国語を受験し、合格することができました。一例ではありますが、教員採用試験までに行ったことや、試験に対する自分の心構えを紹介します。

〈1次試験〉

私は大学3年生から友人と共に、大学の教員採用試験対講座を受講しました。講座は、試験のポイントや教育時事も教えてくれるので、非常に役立ちます。なにより早くから勉強を始める意識が持てるのでおすすめです。教職教養は講座を受け始めた頃から、穴埋め問題を繰り返し行っていたため、自分の得意分野にすることができました。暗記が必要なものは早くからコツコツやっておくことが重要だと思います。一般教養は参考書を使い、自分で穴埋め問題を作って繰り返し解き、復習として過去問に取り組みました。全ての教科を同じように勉強するのではなく、全く知識がなかった物理などは出題頻度が高い所だけをまとめました。一から学ぶことに時間をかけるのではなく、得意科目を伸ばし、得意分野で点数を稼ぐことも一つの方法だと思います。

教育実習が終わってからの約1ヵ月は、いままでやっていた穴埋めを再度行いました。専門教養も冬頃から高校の問題集で勉強していましたが、直前は古語単語や文法、文化史などの基本事項を覚え直すようにしました。不安になり、私は新しい問題集に手を伸ばしてしまいましたが、いままでの復習に力を入れることの方が大切だと試験を通して感じました。

試験では、自分では穴がないように勉強したつもりでも、わからない問題が出題されます。その際は、素直に諦めるか後回しにして、時間を効率的に使うことが重要だと思います。



面接対策に新聞記事をスクラップしてまとめたノート

す。難しい問題は他の人にとっても難しいはずなので、基礎問題や得意分野で点数を落とさないことを意識するといいかもしれません。

〈2次試験〉

私が受験した長野県は2次試験に適性検査と個人面接があり、面接の中でその場で配られた教材を使い、10分間模擬授業をするという試験でした。面接の対策としては、教育実習の指導教官だった先生に試験官をしていただき、面接練習を行いました。また、私は就職活動も行い、その際に面接対策ノートを作っていたため、そのノートを活用し、志望動機などの質問に対する応答や教育新聞に載っていた教育時事などをまとめました。定型文を作るのではなく、自分の考えをまとめただけの方が、質問に柔軟に対応できると思います。

模擬授業の対策としては、教育実習の際に言われた改善点や、科目の基礎知識を確認しました。教育実習で先生が授業でやっていたことや、自分が行った活動は模擬授業にも活用できるので、試験前には教育実習のノートなどを見直すといいと思います。

私は面接や模擬授業では、いかに堂々としていられるかが勝負だと思います。質問に困ることや焦ることもあると思いますが、一呼吸置き、試験官の顔を見て自分の意見を伝える、わからない時には素直に勉強不足だと言えることが大切です。私の場合は、就職活動で面接を何度もしていたため、2次試験ではあまり緊張しませんでした。就活をすることで、勉強ができないこともあります。私は就活の経験が2次試験では役に立ったと思っています。2次試験とは関係のない事です。教員を目指すか、就活をするか決めきれない人には、両方を一生懸命にやるという選択肢もあることを忘れずにいてほしいと思います。

〈おわりに〉

私は今体験記を書きながら、自分ひとりでは試験には合格できなかったと感じています。4年間共に教員を目指して励まし合った仲間や面接カードの添削や面接を指導してくださった先生方、応援してくれた家族、多くの人の手助けや支えがありました。教員を目指す人には、恥ずかしがらず、ぜひ多くの人の力を借りて頑張してほしいと思います。

はじめに

私が教員を目指しはじめたのは大学4年次です。教職課程も当時は受けていなかったため、卒業後に科目等履修生として大学で勉強しました。そして、科目等履修生2年目に東京都教員採用試験を受験し合格することが出来ました。約1年半の間、私がどのように採用試験対策をしたのかを書きたいと思います。参考にできそうな部分は参考にし、行動に移してくれば幸いです。

一次試験（教職教養・専門教養・論作文）

科目等履修生になった直後は「教員」「学校」「子ども」などのキーワードがタイトルに入った新書を読んでいました。そうすることで教員についてのイメージを掴もうとしました。また、採用試験までの流れが分かる本なども読みました。その他、教養的な本も出来るだけ多く読むことにしていました。基礎を学ぶ期間だったと言えます。

具体的に一次試験対策を始めたのは採用試験の前年の10月くらいです。教職教養に関しては、家で勉強するためのサイズが大きい問題集、持ち運べる一問一答式の問題集、過去問で対応しました。決めていたのは、毎日少しずつでもいいので勉強するという事です。何度も何度も問題を解くことで知識が定着していくのが分かりました。

専門教養に関しては、持ち運べる一問一答式の問題集と過去問を購入して解いていました。過去問を解くと傾向を知ることが出来ます。私が実際に問題を解いて感じたのは、文章問題の本文が長いという事です。そう感じてから、インターネットの英字新聞や英語で書かれた本を出来るだけ速く読むという練習をしました。また、一次試験における大問1題は第二言語習得理論関連分野から英語の長文が毎年出題されているので、それに関する英語の文章を速く読むことを意識していま

した。このように、傾向を知り、具体的な対策を実行することを意識していました。

論作文については、論作文の問題集と過去問で勉強しました。どんなに難しいテーマでも捻り出して書くことを原則としていました。書き終えたら、そのテーマに関する知識をインプットし、自分で読み返し、「ここはこう書くべきだったな」と復習していました。また、友人からのアドバイスで、より多くのテーマに触れるようにしていました。あるテーマを見て、すぐに論作文の構成を5分から10分で書き、次のテーマに移るといった具合です。論作文を最後まで書き上げるのは5回に1回程度でした。

何よりも勉強になったのは、友人と問題を出し合ったり、論作文を添削し合ったことです。一人で学んだことをどのくらい覚えているのかを試せますし、出題をすることで復習にもなります。友人が書いた論作文を読むことも非常に参考になりました。

二次試験（集団面接・個人面接・英語面接）

二次試験は、面接と場面指導の問題集と過去問で対応しました。東京都の場合、集団面接は討論のような形式をとります。一次試験合格者には討論用のいくつかのテーマを与えられるので、それらについての考えをまとめました。また、ふだん会話をする際に、相手の言葉を拾って会話を繋ぐ意識もしていたと思います。

個人面接に関しては、どのような質問が来ても答えられるように質問に対する答えをワードに打ち込んで考えを整理しました。そして、友人たちと面接の練習をしたり、大学の面接対策講座を受講したりしました。友人たちとの練習、対策講座は非常に役立ちました。

私の場合、英語面接は免除でしたが（免除制度はぜひ活用した方が良いです）、友人は英検の二次面接に似ていたと話していました。

おわりに

勉強に行き詰ったとき、教員としてやっていけるのかと不安になるときは周囲の人にぜひ相談してください。自分に合った勉強法を模索し、実行してください。小さな積み重ねから得ることは必ずあります。自分なりの信念を大切に、進んで行ってください。最後になりますが、これを読んでくださった皆様のことを心から応援しています。



私が使用した本の一部

はじめに

「教師」という職に対する強い憧れは幼い頃から消える事なく、平成28年度実施の相模原市教員採用候補者選考試験に合格しました。4月から教壇に立つことのできる喜びは言葉に表すことのできないものです。「教員採用試験」というものは教師を目指す人にとって乗り越えなければならない大きな壁であり、私も大変苦労しました。合格に向けた一つの手立てとしてこれから述べる私自身の体験や経験が今後受験される皆さんの役に立てればと思います。

一次試験

教員採用試験の勉強を本格的に始めたのは大学3年生の春からでした。「今日から始めるぞ」と意



一次試験対策ノート

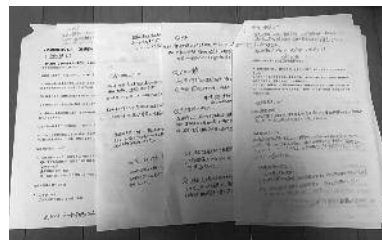
気込んだ私に待ち受けていたのは何から始めていいのかわからないという状況でした。そのためまず私は自身の学力を知ることが必要であると考え、模擬試験を受験しました。結果は散々であり最低位のE判定となりました。この現実を知った時、私の頭の中から「合格」という言葉は消え去り、呆然としたことを今でも覚えています。しかしそこで立ち止まることなく、こういった状況・現実を打破するためには計り知れない「努力」と「根気」、そして教師になるという強い心が必要不可欠であることを再確認できた瞬間でもあり、その後の学習を進める原動力となりました。そこから私が試みた事は教員採用試験とはこういった試験であるかを知ることでした。一次試験は一般教養・教職教養・専門教養の三つに分類されることから、これらをどの様に学習していくかを計画した結果、一般教養・教職教養は専修大学で実施されている教員採用試験対策講座を受講し、そこで配布された問題集・レジュメをベースに学習を進め、専門教養についてはまず、各自治体の出題傾向等に捉われることなく基礎的知識の定着を目標に学習を進めることにしました。しかし計画通りに進めるのは困難で、自身に適した学習方法を確認させるには試行錯誤の連続であり多くの時間を要しました。

教員採用試験を受験するにあたって各自治体の出題傾向を知るという事は合格する上で必要不可欠です。しかしそれはある程度の知識があつてこそその事だと私は思います。私が一次試験を突破する上で最も大切と感じる事は、一日も早く自身に適した学習方法を見出した上で各自治体の出題傾向を知り対策を考える事だと思います。また勉強を始めた大学3年生の春から試験当日までの約1年半、私は学習を怠った日は一日もありません。たとえ忙しくても勉強する時間は作ることができます。そういった「強い気持ち」を持ち継続する事が大切であると私は思います。

二次試験

対策を進めていくなかで一次試験は「個人戦」、二次試験は「団体戦」であると感じました。

私の場合は一次試験の合格発表から二次試験当日まで20日程あり日程的に恵まれていたと思います。一次試験を合格したという事実は大きな自信となり、夢が近づいているという高揚感は今でも忘れられません。二次試験の対策として大切なことは、「一人で対策はしない」という事です。私は共に一次試験を突破した同志と試験前日まで毎日会い、面接・模擬授業の練習を何度も行いました。そこでは一人では気付くことのできない問題点・癖・適した解答・馴れ等の様々な点に気づき、相手の良いところを吸収できる場となりました。お互いがお互いを高め合う事ができ、二次試験対策に熱を入れてくれました。その同志には感謝の気持ちでいっぱいです。 “同志”と共に作った2次試験対策の資料



終わりに

合格発表の日、私の受験番号を見つけた時、今までにない感情になりました。合格に向けて突き進んだ1年半は結果として大きな自信になりました。また、様々な面で支えてくれた家族・先生方・友人・同志に心から感謝し、それに恥じぬよう全身全霊で今後も頑張りたいと思います。最後になりましたが強い気持ちを胸に皆さんの夢が叶うことを心から願っています。

この度、平成28年度東京都公立学校教員採用候補者選考(29年度採用)で高等学校・商業で合格することができました。私の経験が少しでも皆様の参考になれば幸いです。

・一次試験 一教職教養一

私は大学3年の年に東京アカデミー学内講座を受講しました。レジュメをもとに講座が進んでいくので、先生の話をしっかり聞きたくさんメモを取りました。そのレジュメをひたすら読み、書き、暗記しました。ある程度暗記をした後に問題を解きました。最初は講座で配られる全国の試験をカテゴリー別にした過去問集を解いていました。教育実習中は全くできませんでした。実習を終えてから東京都の過去問集を購入し、毎日たくさん解きました。学内講座とは別に東京アカデミーの講座も受講しました。

・一次試験 一専門教養一

教員採用試験「商業」の参考書はありません。まずは過去問を5年分集めて何が出ているのか、もしくは昔出題されているけれど近年なくなっているものなどを分析しました。次に、絶対に落とさない部分を自分の中で決めました。私の場合は、学習指導要領・簿記・原価計算からの問題は絶対に落とさない決めました。その後は高校で使用する簿記・原価計算・マーケティング・商品開発・経済活動と法・情報処理の教科書で勉強しました。特に経済活動と法は範囲が広く勉強するのが難しいので、私は全商の商業経済検定の過去問を参考に範囲を絞って勉強しました。検定に出るということは科目の中でも重要な部分なのではないかと思ったからで、このように自分なりに問題を予想することも良いと思います。私は3問(12点分)予想的中

でした。学習指導要領は電車の中で何度も読んで暗記しました。他の教科については分かりませんが、商業は問題の出題方法など毎年度バラバラです。知識を持っていれば対応できます。繰り返し勉強するしかありません。

・一次試験 一論文一

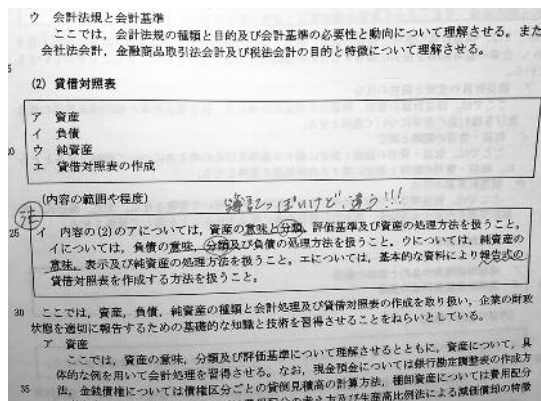
論文対策は、学内講座だけでした。6回ほど論文指導をしていただきましたが、最初は評価CやDばかりでした。先生から「高等学校なのだから、生徒の主体性を書かないといけない」とアドバイスをいただき、書き直しをしたものがAで返却され、そこから書き方がわかってきました。自分の意見、生徒の実態、そこからどのような指導をするのかを具体的に書きます。指導については生徒が話し合い、まとめ、発表することなどを入れて書きました。文字数が足りているのならまとめる必要はないと指導されてきましたが、本番の問題では「最後まとめなさい」となっていたので問題に従い、まとめました。

・二次試験 一集団討論・個人面接一

専修大学主催の講座、東京アカデミーの講座や母校でお世話になった先生方に指導していただきました。一次試験の結果が出るまでは、個人面接対策として自分の考えをノートにまとめていましたが、やる気がでませんでした。落ちている可能性もあるからです。そのため、合格を知ってから本番までの2週間は正直きつかったです。2キロ痩せました(笑)。色々な方の意見を聞くと逆の意見もあるので、どれを参考にすべきか迷うこともありましたが、最後に決めるのは自分です。私は堂々と自分が思うように取り組みました。今は、色々な先生方の意見が聞けたので本番で対応できたのではないかと思います。

・最後に

私は、自分が先生に向いていると思ったことは一度もありません。それ以上に高校の先生になりたいという思いが大きかったので頑張れたと思います。一次試験・二次試験ともに母校の先生方には大変お世話になりました。実習中に試験の相談に乗ってもらったことも大切です。教科書も欲しいなら遠慮せず言うべきです。本気なら助けてくれます。全てにおいて共通することは、分析する、繰り返し勉強する、諦めないことです。頑張ってください!



学習指導要領にポイントを書き込み暗記

・はじめに

私が小学校教員を目指す決心をしたのは、学部三年生の十二月でした。当時私は教職課程をとっていませんでしたが、同年春から参加していたボランティア活動の影響でその思いが日に日に強まっていました。企業の就職活動をするか、一から教職の道を目指すか大変悩みましたが、企業のインターンシップや就活対策講座にも熱心に足を運ぶことで、自分の気持ちに決着をつけることができました。その後、大学院の教育研究科に進むと同時に通信で教職に必要な単位を取得し始めました。人よりも遠回りをした私ですが来年度から教壇に立てることが決まり、今は諦めないでよかったと心から思っています。この体験記を読んでいただくことで、同じ夢を持つ方の力に少しでもなれば幸いです。

・一次試験

一次試験対策は、まず受験する県の過去問の傾向をつかむことが重要です。試験内容の分野ごとの出題配分やよく出る範囲を把握し、効率よく得点につなげるための学習計画を立てます。全体をバランスよく学習するのではなく、配点の高いところや苦手とする分野（出題数がそれなりにある場合）に学習時間を割きました。学習する参考書・問題集は、受験する県の方式（択一式や記述式）・傾向に合ったもの、そして自身が使いやすいものを選び同じものを繰り返し使い込むのが良いと思います。

論作文は、もっと早くに対策しておくべきだったと反省しました。受験目前になると、暗記の詰め込みに時間を割いてしまいたくなるので、余裕のあるうちから今日の教育課題に目を向け、概要や自分の考えをまとめておくのが良いです。論作文は、教職課程担当の先生に添削していただき完成したものを暗記するほど読み返すことで、本番でもスムーズに記述できるようにしました。

自分一人では、学習方法や内容に不安も出てくると思います。そういう時は一人で悩まずに、教職課程の先生方に相談してみてください。きっと新しい情報やアドバイスをいただくことができ、より自信をもって集中した学習ができるようになると思います。

・二次試験

二次試験（個人面接・集団面接）対策は、一次試験終了後に始めました。

個人面接の面接表は、自分のこれまでの経

験や教育への思いをできるだけ簡潔に記入しました。自分のことを面接官に知ってもらう重要な書類なので、ぎっしり文字で埋めてしまいがちですが、それだとかえってアピールポイントを見落とされてしまいます。そのため、面接表は箇条書きにして見やすくなるよう記入しました。

面接対策は、大学の二次試験対策講座に参加しました。個人面接については、演習の回数を重ねることで自分の軸や改善点がはっきりと見えてきて、面接表もそれに応じて修正を加えることができました。また、複数の人に面接官役として見ていただくことで、本番の面接官も雰囲気や質問の仕方が様々であることをイメージしやすくなり、臨機応変に答える練習をすることができました。集団面接演習では、複数名の受験者の中で自分をよりよくアピールする方法を試行錯誤することができました。全体として、受け答えの内容ももちろんですが自身の話し方や動作の癖も知ることができ、本番への対策ができる大変貴重な機会でした。

当日は、これまでのどの演習よりも落ちていて自分を表現することができました。演習中はうまく自己アピールができず恥ずかしく思うことも多々ありましたが、本番につながることができて本当に良かったです。

・おわりに

今回合格という結果をいただけたのは、大学の先生方をはじめ教務課の皆様、共に対策講座に参加した学生の方々のご助力のおかげです。一人ではとても学びきれなかったことを、たくさん学ばせていただきました。本当にありがとうございました。これから採用試験に向かうみなさんも、先生方や教務課のみなさんに可能な限りご支援いただき、仲間と共に合格を手になさってください。私自身も心から応援しております。



学習のノルマ内容を週ごとに書き出し、終わり次第スケジュール帳に貼り付けていた

教育実習を終えて（国語）

神奈川県立弥栄高等学校 文学部日本文学文化学科4年 永井 清花

母校である神奈川県立弥栄高等学校での三週間の実習を通して感じたことは、教材研究の大切さと生徒と向き合うことの喜びです。私は大学一年次から実習校で部活動インストラクターをしており、緊張や不安はあまりありませんでした。しかし、そうした中でも自分が目標としている場所でどれだけ多くのことが学べるだろうかという期待と慣れ親しんだ場所だからといって甘えることなくけじめをつけて取り組むという点での緊張感を持って臨みました。

授業を行うにあたって、私がとても重要だと感じたのは授業準備です。つい実際に授業をした時の内容や雰囲気目がいってしまいがちですが、教師が目標への道筋を与えた中でより活発に生徒を動かし簡潔でわかりやすい授業を行うには、事前の教材研究などの準備が重要だと痛感しました。

私の場合、事前の打ち合わせで初めから授業を任せると言われていたので実習前に数回指導教諭の授業を見学してもらい、授業準備をしました。指導教諭の授業もこれから求められていく授業も私が今まで体験したことのない授業だったので、どのようにして授業を作っていくか何度も試行錯誤をしました。しかし、生徒の思考を促すための発問が曖昧でわかりにくかったり、あれもこれもと欲張った結果その授業で何を学んでももらいたいかを明確に示せず教師も生徒も目標が見えなくなってしまったりと最初は反省点ばかりでした。その原因は教材研究の不足と単元や授業目標に向けての簡潔な授業づくりができていなかったからだと思います。生徒は一生懸命授業に取り組んでくれているのに、伝えたいことが伝えられず疑問に答えてあげられないもどかしさを感じとても悔しかったです。

板書の時間を減らすためにプリントや模造紙などを用いて事前に準備をし、グループワークなどの時間を確保しました。また、視覚化し常に見られるようにすることで目標を

見失わず、授業の方向性も明確になりました。授業のイメージを何度もし、生徒の突発的な疑問や意見に対応できるよう教材研究を重ねました。教材研究をやればやるだけ、生徒への発問が明確になり、生徒が思考し発言し共有する時間を増やすことができました。また授業をやるうえでの自信がつき、安心して授業が行えるようになりました。

生徒と向き合う点については、授業の中でももちろんですがそれ以外の時間も積極的に生徒と関わるよう心がけました。私は美術専攻のクラスを受け持っていたのですが、生徒たちは空き時間や放課後には自分の課題の作品作りに取り掛かります。彼らがどんな作品を作っているのか空いた時間を使って把握し話題づくりをすると向こうもそれに応えてくれるようになり、生徒との距離感を感じることが少なくなりました。それに加え、自分の得意なことや夢中になっていることを話するときの生徒は本当に輝いて見えました。そういった姿を見られるのは教師の特権であり喜びの一つではないかと感じることができました。

教科指導や生徒指導、部活動、体育祭なども含め、実習中の三週間全体を通してこれらのことを学べたことは、私が教師を目指すことのさらなる土台になったと思います。

教員を志望しこの大学で学んでいく中で、先生方や資格課程の皆様のサポートがとても厚く、実習には自信を持って取り組むことができました。さらに実習を終えて改めて人を育てることの喜びや困難さも学ぶことができました。これから教育実習を控えたみなさんが楽しく充実した実習ができることを願っています。



研究授業で使用した資料
(美術専攻実習生の作)



担任として関わった2年8組美術専攻の生徒たち

教育実習を終えて（英語）

私立星野高等学校 文学部英語英米文学科4年 笹田 翼

私は、平成28年5月23日から6月11日までの18日間、母校である星野高等学校へ教育実習に行っていました。担当科目は、コミュニケーション英語Ⅱで、二年生の3クラスの授業を受け持ちました。初めて実践的な指導を経験させていただけたことで、自分を見つめ直すと同時に、教師という職業の大変さと楽しさを知ることができた三週間となりました。

一週目は、テスト週間や球技大会や体力測定などの学校行事が重なり、早速生徒たちと親しむ機会があり



教育実習生仲間と

ました。私が担当したホームルームクラスは、素直で真面目な生徒が多いようで、私に英語の勉強の方法を聞いてきた生徒もいました。教師として、生徒の立場から見たアドバイスはどういうものかを考えることができました。二週目の火曜日から、実際に教壇実習が始まりました。いざやってみると、私が発問した際、生徒の回答に対して工夫した対応がないことが頻繁にありました。指導の先生から、生徒の和訳や考えを拾い、そこからフィードバックやヒントを与えて生徒に最後まで考えさせることが重要であるということ学びました。生徒たちにとって発言を意味のあるものにするために、教師がどのような工夫をするかで、授業展開が大きく左右することに気付いたのです。

さらに、細かい計画のないまま、指導案の板書計画にある単語やフレーズを書くだけの作業を行ってしまったこともありました。字の大きさや色分け、補足説明の区分け、様々な記号といったものを考慮して、よりの確な板書が出来上がるというアドバイスをいただきました。そして、それらを組み合わせて、いかに生徒に単調に感じさせない授業を作ることがポイントであるということに気付かされました。例えば、重要語句を紹介するときの例文提示や、物語の解説を行う時の内容の膨らませ方など、生徒にとって単純に教科書に書かれている意味を訳すだけの作業とならないような工夫は、幅広く存在するのです。それらを教師が取捨選択をして授業に取り入れることで、生徒が授業に主体的に参加できる

機会を作れることがわかりました。

また、私自身の課題として、問の取り方が挙げられました。研究授業の際、私が綺麗な板書を意識することに気を取られすぎたため、沈黙の時間が長くなってしまい、多くの先生からそのことについてのフィードバックをもらいました。また、解説をこま切れにしながら板書を行ってしまい、生徒の集中力を続かなくしてしまうことがありました。生徒が見やすい板書を心がけるだけでなく、一回の説明を区切らずに行って注意を向けさせること、そして無駄な時間を作らないようにメリハリやペースを配分することといった数々の点を考慮することで、生徒にとってわかりやすい授業を作ることができるのだと思いました。

この実習を振り返ってみると、授業の進め方や生徒への反応の仕方など、なかなか円滑に行かない部分が多々あり、悔しさを痛感したときもありました。時には自信を失くしそうになりましたが、指導の先生から、教師の「自信を持つことの大切さ」についてアドバイスをいただき、教師である自分が弱気な姿を生徒に見せてはいけないと学びました。最後の教壇実習後には、指導の先生から「板書の大きさや、時間配分、生徒の様子確認が今までで一番よかった」というコメントをもらい、また数人の生徒から「先生の授業おもしろかったです」という感想を聞くことができ、教える喜びを実感できたように思いました。しかし、これで満足するのではなく、これからも生徒の立場から見たよりよい授業は何か、という問題を試行錯誤しながら考えていく必要があります。これから皆さんが行う教育実習では、様々な問題に直面するかと思いますが、それに挫けて自信を失わないようにしてください。あきらめずに挑戦をすることで、素晴らしい経験ができることを祈っています。



HRクラスの生徒たちと

1. はじめに

私は、5月30日から6月16日までの3週間、東京都立文京高等学校で教育実習を行わせていただきました。ホームルームクラスは2年D組、実習科目は地理歴史科（世界史A）でした。教育実習の始まる1か月前に担当教諭との事前打ち合わせがあり、教える範囲が古代中国であることや、3クラス担当すること、授業数などを教えていただきました。世界史Aの教科書では古代は見開き1ページのうちにどんどん進んでいきます。担当教諭からは、自分で自由に内容を膨らませつつ、ストーリーや流れをぶつ切りにしないで組み立てに注意して授業を作るように言われました。

2. 教壇実習での失敗と改善

1週目は、主に授業見学を行いました。2週目は、体育祭の準備で生徒の様子を観察することが多かったです。3週目は、教壇実習や授業見学、研究授業などが主でした。

1回目の教壇実習では、生徒に発問を投げかけ、生徒の発言の多い授業をすることができました。しかし、説明不足や緊張のために言葉尻を言い間違えることが多く、「この先生大丈夫かな」という不安を生徒に感じさせてしまいました。しっかり準備した！と思っていた教材研究が十分でなかったことを痛感しました。担当教諭からも、もっと世界史の中で起こる一つ一つの事象の裏を読んで、それをどのように活用して授業すれば良いかを考えるように、という指摘をいただきました。例えば「中国春秋時代から戦国時代への移行において、鉄製農具が普及されるようになった」「そのことが生産能力の向上につながった」ということを授業の一部で取り上げたけれど、その背景にある「鉄の製造法の移行」を見落としている、というものでした。改めて概説書や参考書、資料集とにらめっこして教材研究をし、授業改善に努めました。授業をするたびに新たな課題が出てくるので、その都度できなかったことを箇条書きにしてその改善方法を書いたり、実習生に模擬授業を行ってアドバイスをもらったりしました。授業中は、大きめの自分用ノートの左側に当日使うワークシートを張り、右側に自分の話すことや生徒への発問などを書き、空白の部分

には小ネタとして使えそうな話（語源や覚え方等）を書きまとめました。また、緊張して話がとんだので、授業前にクラスに行って生徒とたくさん喋るようにしました。

3. 教育実習で学んだこと

最初、どのクラスでも同じテンションで授業をしたのですが、それぞれのクラスの違いに驚きました。それぞれに合わせて授業をする必要があると感じました。そのためには、日々の生徒とのコミュニケーションによる信頼作りがとても大事であるということに気付きました。始めは自分が授業をすることで手一杯でしたが、授業を重ねることで生徒の様子を見ることができてきました。

そして、教師は教壇の上で授業をするだけではいけないということも学びました。ただ注意するのではなく、生徒の気持ちを押し量ること、行事の際の生き生きとした様子をしっかりと見て、いつもと違う生徒の様子を生徒に話すこと、清掃や部活動での様子を見て声をかけること、そのような些細なコミュニケーションから、生徒と教師の信頼関係を作っていけるのだと思いました。

教育実習に行って、自分の力不足を痛感し落ち込みましたが、真剣に勉強、部活、行事に取り組む生徒を見て元気をもらい、「落ち込んではいられない！学ぶことがいっぱい！」と気持ちを切り替えることができました。これから教育実習に行く皆さんも、実習で落ち込んでしまうことがあるかと思いますが、そんな時はぜひ、担当教員、他の実習生、そして生徒と様々な会話をしてください。きっとたくさんのことを発見し、有意義な教育実習になると思います。



教壇実習用のノート

教育実習を終えて（商業）

静岡県立静岡商業高等学校 商学部マーケティング学科4年 中村 早希

・はじめに

私は5月30日から6月10日までの2週間、母校である静岡県立静岡商業高等学校で、教育実習を行わせていただきました。実習科目は1年生の簿記を担当しました。教壇に立ち、教師として生徒に教えつつ、現場の先生方からご指導をいただき、ともに教育実習を行った実習生たちと情報交換やアドバイスをしあいながら、教育実習を行いました。母校ということもあり、当時お世話になった先生方が多く、たくさんの指導をいただき大変勉強になる2週間を過ごすことができました。

・実習期間について

初めの1週間は、朝の会議への参加から帰りのHRまでの一日の流れをつかみながら、授業見学や教材研究をすることが主でした。教壇実習だけでなく、学級担任の仕事でもある、朝と帰りのHR、朝学習・朝読書の指導や清掃の指導なども経験させていただきました。授業だけでなく、学校経営や生徒指導、保護者との関わりなど、教員という仕事がどれだけ大変なものか、ほんの一部かもしれませんが、身をもって体験することができました。

教壇実習は、1週目の金曜日からスタートする予定でしたが、実習3日目に1時間いただけたことになり、初めての授業を行いました。結果は、授業の進め方や、授業中の声の大きさや話し方など、緊張と準備不足もあり、課題だらけでした。実習科目である簿記は他の科目とは違い、高校で一から学び始めるものなので、生徒の中には苦手意識を持っている子も少なくないことや、自分の授業の声が小さいこと、時間配分など、課題がはっきりしたので、金曜日からの教壇実習に向けて、さらに準備をしました。特に、慣れていないということで授業をスムーズに進めることができなかったため、授業の構成を考えて、時間を計りながら、実際に授業しているのと同じように話し方や黒板の使い方を意識して、終わった後も黒板の写真を撮ってさらに板書の工夫を考え、何度も何度も練習をしました。時には、実習生や先生方に模擬授業を見ていただき、アドバイスをもらい、どうしたら時間内に範囲をわかりやすく教えるこ

とができるか考えました。そして、金曜日から教壇実習を行いました。授業の準備はもちろんですが、教壇実習が終わった後にも、指導教員に指導していただき、更に生徒たちにも、どこが分かりにくかったのか、どこが理解できたのか質問をして、次の授業に生かせるようにしました。



研究授業では、多くの先生方が見に来てくださいました。実際の授業を想定した練習を何度もしていたので、話し方や目配り、声の大きさなどについてはお褒めの言葉をいただくことができました。実習での課題は、生徒が受け身になることが多い授業になってしまい、アクティブラーニングが少ないということでした。高校1年生にとって簿記は新しく学ぶ教科であり、また検定取得もしなければならず、教師は教えなければいけないことが多くあります。その中でもどうやってアクティブラーニングを取り入れていくかを考えていくことが課題だと感じました。

・最後に

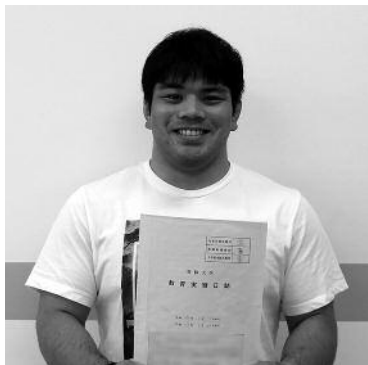
授業は生徒と作るものだと感じた教育実習でした。そのためには生徒たちとのコミュニケーションが大切になってきます。教材研究だけでも良い授業はできません。これから教育実習に行く方は、実習前に、教材研究や授業準備などできることは全て準備をしておくと思います。実習期間中も準備の時間は大切ですが、HRや清掃、お昼休みなどなるべく生徒たちと関わる時間を作るように心がけてみてください。実習は大変なことが沢山あると思いますが、先生方の指導や生徒たちの笑顔や、共に頑張る実習生との時間は、大学では得ることのできない時間です。後輩の皆さんが、素敵な実習期間を過ごせることを願っています。

教育実習を終えて（情報）

沖縄県立浦添工業高等学校 経営学部経営学科4年 与那覇 竜太

はじめに

まず、教育実習を終えて、教育実習2でお世話になっている北澤先生をはじめ、諸先生方、資格課程係の職員の皆様、浦添工業高校の先生方、生徒のみんな、その他お力添えいただいたすべての方に感謝申し上げます。この15日間で、自分自身の物事の見方、考え方において大きな成長を感じています。本当にありがとうございました。



1. 教育実習に参加するにあたって

教育実習に参加するにあたって、大学一年次からの教職課程での取り組みや、模擬授業も回数を重ねるごとに良いフィードバックをもらえるようになったことで、大きな自信がありました。同時に、北澤先生から、「教育実習は、受け入れ先の教員からすると手間でもある。」という話を聞いて、どこか後ろめたさのようなものを感じていました。

しかし、実際に教育実習が始まってみると、先生方は授業の空き時間などに、個々人の持つ人生観や教育観についてのお話を多々してくださり、大変充実した15日間となりました。

2. 工業高校の教員として

私の指導教諭を担当していただいた与儀先生は熱意があり、私自身、人生観や指導観にも大変影響を受けました。与儀先生の考え方の根底にあるのは、「生徒は工業高校に来たからには、2年間で、企業が欲しいと思う人材にならなければならない。」ということでした。これは私が生徒の時には考えもしなかったことでしたが、現在、周囲の友人が就活に苦しんでいる中、中学卒業後は義務教育が終わっていることもあり、そのような考え方をもって進学するのは至極当然のように思いました。

しかし、高校1年生というのは、ほんの少し前には中学生だったこともあり、そのような考えには至らないと思います。そして、こ

れを教員が一度伝えたとしても、ほとんどの生徒は危機感を持つことはないと思います。与儀先生は、勉強をする意味、服装を整える意味、挨拶をする意味、掃除をする意味など、あらゆる場面で生徒に想いを伝え、行動することを喚起していました。

3. さくら並木清掃

さくら並木清掃での出来事は私にとって非常に印象深い出来事です。なぜなら、生徒が私の要求に応じてくれなかった、もっと言えば、生徒に反抗的な態度を取られたからです。

浦添工業高校にはさくら並木があり、日ごとクラスごとにさくら並木清掃を行うのは浦添工業高校の伝統です。端的に言えば、割り振られた日にさくら並木清掃を行うのは当たり前のことだという感覚があります。

私が担当した1年1組がさくら並木清掃の当番になった日、私はさくら並木で出席確認をしていました。すると、二人ほど遅刻してきた生徒がおり、そのうちの一人がそのまま校舎に向かって歩いて行こうとしました。私は「今日はさくら並木清掃だよ。」と声をかけましたが、その生徒は「もういいよ。」と言って校舎への歩みを止めませんでした。その行動が私には理解できず、困惑するばかりでその後の対応もできませんでした。その生徒が育った背景や、思春期特有の態度もあるのですが、そこにどうアプローチすればよかったか、今でも答えは見つかっていません。15日間の教育実習で、最も印象深い出来事でした。

4. 今後私が目指すもの

私は大学卒業後大学院進学を考えています。今回の教育実習を経て、研究内容として「やりたいことがわからない」という学生、生徒の意思決定に関わる研究がしたいと考えようになりました。これは、進路指導の先生にお話を伺った際に、「やりたいことがわからない」という生徒の特徴として、目の前のことに一生懸命取り組む姿勢がないことを挙げていたからです。それが所属する組織に起因するものなのか、生徒自身の育った背景に起因するものなのか、年齢による発達段階に起因するものなのか、とにかく、学生、生徒が何かを頑張るきっかけを見つける手助けをしたいと考えています。

教育実習を終えて（数学）

茨城県立古河第一高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 大城 斉彬

私は5月20日から6月10日まで3週間、母校の茨城県立古河第一高等学校で教育実習を行った。実習科目は数学で、商業科の1年生を担当し、3組でHRを担当した。3週間の教育実習で、様々なことを感じた。

まず、授業について。最初の2週間は、指導教諭の授業を中心に、授業見学を行った。授業の見学をして感じたことは、授業には、先生方それぞれの色があるということである。大きく分けると、講義形式の授業と生徒参加型の授業に分けることができる。講義形式の授業は、生徒が飽きないよう、膨大な知識量と巧みな話術が必要であると感じた。生徒参加型の授業は、生徒を指名する際に、問いの難易度と生徒の力量を合わせるなど、生徒それぞれの個性を把握することが必要であると感じた。ここに、先生方の個性が加わることで、それぞれの色になっていくのだと感じた。最後の1週間は、教壇実習を行った。授業を行って感じたことは、実際の授業と模擬授業とでは、全く違うということである。大学などで行う模擬授業では、ある程度数学ができる人たちを生徒として授業を行っていたので、発問に対する反応などが想定しやすく、授業準備の段階で想定していた時間配分に近い形で授業を進めることができたが、実際に現場で行う授業では、数学の得意不得意にばらつきがあり、生徒に答えてもらうためにヒントを出していたら、想定よりも時間が経過してしまい、授業時間内に説明が終わらないということがあった。教材研究や板書計画だけでなく、数学の得意不得意など、生徒の個性の把握も、授業準備の一環なのだと感じた。

次に、部活動について。部活動に参加して感じたことは、技能指導以外にも必要なことがあるということである。私は将来、サッカー部の顧問になって、指導していきたいと考えているので、サッカーの指導について学ぶ必要があるが、他にも学ぶ必要があることがあった。例えば、怪我人が出たときの対応。他の教育実習生から、部活動に参加していたときに、生徒が大怪我をしてしまい、病

院に連れて行く必要があり、その対応が大変だったと聞いた。サッカーは接触が多く、怪我人が出る可能性が高いので、怪我人が出たときの対応はできなくてはならない。他にも学ぶべきことはあるので、それらについても学んでいきたいと考える。

次に、研究授業について。研究授業はHR担当の1年3組で行った。研究授業は、指導教諭の先生以外の先生方の意見を聞くことができ、貴重な機会となった。説明が早口で抑揚が無いので、生徒に説明が伝わりにくいと指摘していただいた。他にも指摘していただいたこともあったが、良かった点として挙げただけだった部分もあったので、自信になった。

次に、教育実習全体について。教育実習を充実させるためには、授業の準備を入念にすることや、部活動に参加することもあるが、一番は、生徒と関わり、生徒のことを知り、自分のことを知ってもらうことが大切であると感じた。生徒のことを知ることができれば、授業もしやすくなる。そして何より毎日が楽しくなるので、多少日程的に厳しいことがあっても、苦ではなくなる。自分から積極的に生徒と関わっていれば、より充実した教育実習になったと考える。

教育実習を終えて、教師になりたいという気持ちが強くなった。今後も様々なことを学びながら、向上心をもって過ごしていきたい。



生徒からもらった色紙

教育実習を終えて（小学校）

中央区立明石小学校 文学部環境地理学科4年 飯島 瑠玖

1. はじめに

私は、9月12日から30日までの3週間、母校の中央区立明石小学校で教育実習を行いました。これより早く、6月に中等教育学校で教育実習を行っていたため、実習の流れは分かっていましたが、今回は実習生が私1人であり、これまで小学生と関わる機会も少なかったため、やや不安でした。しかし、指導教諭の先生をはじめ多くの先生方から手厚いご指導をいただき、日々成長できたと思います。

2. 事前指導

実習前に2回事前指導が行われ、児童の実態や実習教科の範囲を教えてくださいました。また、夏休みの水泳指導にも参加させていただき、事前に児童の様子や学校の雰囲気を把握することができました。



3. 児童との交流

私がお世話になった3年生のクラスは、男女の仲も非常によく、穏やかでクラスメイトのだれにも優しい学級でした。配慮や支援を要する児童も数名いましたが、それらの仲間に対しても温かく受け止められる子どもが多いと感じました。

私が実習中、特に意識したことは、とにかく子どもと遊ぶことです。一緒に遊ぶことで、子どもたちに自分の存在を理解してもらい、教壇実習においても子どもを惹き付けられると考え、実践しました。これは中学校や高等学校での教育実習とは大きく違います。遊ぶわけではないという義務的なものではなく、一緒になって遊びを楽しめる先生を子どもたちは求めています。

実習中は天気が悪く、校庭で遊ぶことはなかなかできませんでした。実習2週目の運動会に向けた「花笠音頭」の練習を通して、子どもたちとのコミュニケーションを図りました。実習初日1時間目の体育の時間を皮切りに、毎日授業や中休み、昼休みの時間に子どもたちと一緒に練習しました。苦手な子どもに教えてあげたり、逆に子どもから教えてもらったりしながら、信頼関係を築くことができたと思います。

4. 教壇実習

小学校は、中学校や高等学校とは異なり、全教科の授業を行わなくてははいませんが、実習中は運動会練習や他学年の授業参観、様々な領域の講話を行ってくださったため、国語と算数を中心に教壇実習を行いました。小学校は同じ学習内容の授業を自分の学級で1回しか行えないのも特徴です。そのため、分かりやすい発問や展開の仕方、予想される児童の回答を事前によく検討しておく必要があります。例えば、研究授業では算数の「 23×3 （2桁 $\times$ 1桁）」の計算の仕方を考える授業を行いました。予想される回答は7通り考えていましたが、「 $3+3+\dots+3$ 」と、3を23個地道に数える方法までは考えていませんでした。このように予想外の回答が毎時間多く出てきます。

「なぜ?」「どういうこと?」と深く聞いていくと、次第に発言の意図が読み取れます。日々の子どもの様子からどんな発問をすれば、どこで資料の提示をすれば、こんな反応を示し、学びにつながるかを検討することが重要です。そして、その場に応じて適切に対応することや、上手に褒めることで子どもはさらに自信を付け、伸ばすことができると思います。

小学校の授業は、子どもたちがつくるものであると考えます。学習のねらいに即しながら、協同的な学びの活動を取り入れることも大切です。



5. おわりに

これから教育実習を受ける皆さんへのアドバイスとして、実習中は特に体調管理を徹底することです。私は普段体調を崩すことはほとんどないのですが、実習中は学級で溶連菌感染症が流行り、一時体調を崩してしまいました。「自分は大丈夫」と思っていた、慣れない環境で生活すると体も弱っているようです。

児童一人一人の個性が分かり、授業づくりの基本を少しずつ抑えてきた段階で実習最終日になります。一日一日を大切にして、子どもたちの笑顔を楽しみながら実習に臨んでください。

1. 特別支援学校

「ここでの2日間を何となく過ごすのか、有意義な時間にするのかはみなさんの心構え次第です。」こう体験前のオリエンテーションで担当の先生から言われ、私は必ず有意義な2日間にしようと心に決め、この体験に臨みました。

1日の流れ

多摩川の児童発達支援センター

9:00	朝のミーティング
9:30	施設担当者以外：作業室での準備 水分補給等：お茶、お水、ゼリー、手洗い、消毒、乾拭きなど用意 クッション敷き替え
9:40	施設担当者以外：作業室での準備 水分補給等：お茶、お水、ゼリー、手洗い、消毒、乾拭きなど用意 クッション敷き替え
10:00	水分補給 お茶の会 フジテレビ観戦
10:30	AMH観戦開始（10:30）
11:00	食事介助
11:30	給食開始（11:30）
12:00	給食終了（12:00）～12:30（12:30）
12:30	お茶の会（12:30）
13:00	水分補給
13:30	お茶の会
14:00	お茶の会（14:00）～14:30（14:30）
14:30	お茶の会（14:30）～15:00（15:00）
15:00	お茶の会（15:00）～15:30（15:30）
15:30	お茶の会（15:30）～16:00（16:00）
16:00	お茶の会（16:00）～16:30（16:30）
16:30	お茶の会（16:30）～17:00（17:00）
17:00	お茶の会（17:00）～17:30（17:30）
17:30	お茶の会（17:30）～18:00（18:00）
18:00	お茶の会（18:00）～18:30（18:30）
18:30	お茶の会（18:30）～19:00（19:00）
19:00	お茶の会（19:00）～19:30（19:30）
19:30	お茶の会（19:30）～20:00（20:00）
20:00	お茶の会（20:00）～20:30（20:30）
20:30	お茶の会（20:30）～21:00（21:00）
21:00	お茶の会（21:00）～21:30（21:30）
21:30	お茶の会（21:30）～22:00（22:00）
22:00	お茶の会（22:00）～22:30（22:30）
22:30	お茶の会（22:30）～23:00（23:00）
23:00	お茶の会（23:00）～23:30（23:30）
23:30	お茶の会（23:30）～24:00（24:00）
24:00	お茶の会（24:00）～24:30（24:30）
24:30	お茶の会（24:30）～25:00（25:00）
25:00	お茶の会（25:00）～25:30（25:30）
25:30	お茶の会（25:30）～26:00（26:00）
26:00	お茶の会（26:00）～26:30（26:30）
26:30	お茶の会（26:30）～27:00（27:00）
27:00	お茶の会（27:00）～27:30（27:30）
27:30	お茶の会（27:30）～28:00（28:00）
28:00	お茶の会（28:00）～28:30（28:30）
28:30	お茶の会（28:30）～29:00（29:00）
29:00	お茶の会（29:00）～29:30（29:30）
29:30	お茶の会（29:30）～30:00（30:00）
30:00	お茶の会（30:00）～30:30（30:30）
30:30	お茶の会（30:30）～31:00（31:00）
31:00	お茶の会（31:00）～31:30（31:30）
31:30	お茶の会（31:30）～32:00（32:00）
32:00	お茶の会（32:00）～32:30（32:30）
32:30	お茶の会（32:30）～33:00（33:00）
33:00	お茶の会（33:00）～33:30（33:30）
33:30	お茶の会（33:30）～34:00（34:00）
34:00	お茶の会（34:00）～34:30（34:30）
34:30	お茶の会（34:30）～35:00（35:00）
35:00	お茶の会（35:00）～35:30（35:30）
35:30	お茶の会（35:30）～36:00（36:00）
36:00	お茶の会（36:00）～36:30（36:30）
36:30	お茶の会（36:30）～37:00（37:00）
37:00	お茶の会（37:00）～37:30（37:30）
37:30	お茶の会（37:30）～38:00（38:00）
38:00	お茶の会（38:00）～38:30（38:30）
38:30	お茶の会（38:30）～39:00（39:00）
39:00	お茶の会（39:00）～39:30（39:30）
39:30	お茶の会（39:30）～40:00（40:00）
40:00	お茶の会（40:00）～40:30（40:30）
40:30	お茶の会（40:30）～41:00（41:00）
41:00	お茶の会（41:00）～41:30（41:30）
41:30	お茶の会（41:30）～42:00（42:00）
42:00	お茶の会（42:00）～42:30（42:30）
42:30	お茶の会（42:30）～43:00（43:00）
43:00	お茶の会（43:00）～43:30（43:30）
43:30	お茶の会（43:30）～44:00（44:00）
44:00	お茶の会（44:00）～44:30（44:30）
44:30	お茶の会（44:30）～45:00（45:00）
45:00	お茶の会（45:00）～45:30（45:30）
45:30	お茶の会（45:30）～46:00（46:00）
46:00	お茶の会（46:00）～46:30（46:30）
46:30	お茶の会（46:30）～47:00（47:00）
47:00	お茶の会（47:00）～47:30（47:30）
47:30	お茶の会（47:30）～48:00（48:00）
48:00	お茶の会（48:00）～48:30（48:30）
48:30	お茶の会（48:30）～49:00（49:00）
49:00	お茶の会（49:00）～49:30（49:30）
49:30	お茶の会（49:30）～50:00（50:00）
50:00	お茶の会（50:00）～50:30（50:30）
50:30	お茶の会（50:30）～51:00（51:00）
51:00	お茶の会（51:00）～51:30（51:30）
51:30	お茶の会（51:30）～52:00（52:00）
52:00	お茶の会（52:00）～52:30（52:30）
52:30	お茶の会（52:30）～53:00（53:00）
53:00	お茶の会（53:00）～53:30（53:30）
53:30	お茶の会（53:30）～54:00（54:00）
54:00	お茶の会（54:00）～54:30（54:30）
54:30	お茶の会（54:30）～55:00（55:00）
55:00	お茶の会（55:00）～55:30（55:30）
55:30	お茶の会（55:30）～56:00（56:00）
56:00	お茶の会（56:00）～56:30（56:30）
56:30	お茶の会（56:30）～57:00（57:00）
57:00	お茶の会（57:00）～57:30（57:30）
57:30	お茶の会（57:30）～58:00（58:00）
58:00	お茶の会（58:00）～58:30（58:30）
58:30	お茶の会（58:30）～59:00（59:00）
59:00	お茶の会（59:00）～59:30（59:30）
59:30	お茶の会（59:30）～60:00（60:00）
60:00	お茶の会（60:00）～60:30（60:30）
60:30	お茶の会（60:30）～61:00（61:00）
61:00	お茶の会（61:00）～61:30（61:30）
61:30	お茶の会（61:30）～62:00（62:00）
62:00	お茶の会（62:00）～62:30（62:30）
62:30	お茶の会（62:30）～63:00（63:00）
63:00	お茶の会（63:00）～63:30（63:30）
63:30	お茶の会（63:30）～64:00（64:00）
64:00	お茶の会（64:00）～64:30（64:30）
64:30	お茶の会（64:30）～65:00（65:00）
65:00	お茶の会（65:00）～65:30（65:30）
65:30	お茶の会（65:30）～66:00（66:00）
66:00	お茶の会（66:00）～66:30（66:30）
66:30	お茶の会（66:30）～67:00（67:00）
67:00	お茶の会（67:00）～67:30（67:30）
67:30	お茶の会（67:30）～68:00（68:00）
68:00	お茶の会（68:00）～68:30（68:30）
68:30	お茶の会（68:30）～69:00（69:00）
69:00	お茶の会（69:00）～69:30（69:30）
69:30	お茶の会（69:30）～70:00（70:00）
70:00	お茶の会（70:00）～70:30（70:30）
70:30	お茶の会（70:30）～71:00（71:00）
71:00	お茶の会（71:00）～71:30（71:30）
71:30	お茶の会（71:30）～72:00（72:00）
72:00	お茶の会（72:00）～72:30（72:30）
72:30	お茶の会（72:30）～73:00（73:00）
73:00	お茶の会（73:00）～73:30（73:30）
73:30	お茶の会（73:30）～74:00（74:00）
74:00	お茶の会（74:00）～74:30（74:30）
74:30	お茶の会（74:30）～75:00（75:00）
75:00	お茶の会（75:00）～75:30（75:30）
75:30	お茶の会（75:30）～76:00（76:00）
76:00	お茶の会（76:00）～76:30（76:30）
76:30	お茶の会（76:30）～77:00（77:00）
77:00	お茶の会（77:00）～77:30（77:30）
77:30	お茶の会（77:30）～78:00（78:00）
78:00	お茶の会（78:00）～78:30（78:30）
78:30	お茶の会（78:30）～79:00（79:00）
79:00	お茶の会（79:00）～79:30（79:30）
79:30	お茶の会（79:30）～80:00（80:00）
80:00	お茶の会（80:00）～80:30（80:30）
80:30	お茶の会（80:30）～81:00（81:00）
81:00	お茶の会（81:00）～81:30（81:30）
81:30	お茶の会（81:30）～82:00（82:00）
82:00	お茶の会（82:00）～82:30（82:30）
82:30	お茶の会（82:30）～83:00（83:00）
83:00	お茶の会（83:00）～83:30（83:30）
83:30	お茶の会（83:30）～84:00（84:00）
84:00	お茶の会（84:00）～84:30（84:30）
84:30	お茶の会（84:30）～85:00（85:00）
85:00	お茶の会（85:00）～85:30（85:30）
85:30	お茶の会（85:30）～86:00（86:00）
86:00	お茶の会（86:00）～86:30（86:30）
86:30	お茶の会（86:30）～87:00（87:00）
87:00	お茶の会（87:00）～87:30（87:30）
87:30	お茶の会（87:30）～88:00（88:00）
88:00	お茶の会（88:00）～88:30（88:30）
88:30	お茶の会（88:30）～89:00（89:00）
89:00	お茶の会（89:00）～89:30（89:30）
89:30	お茶の会（89:30）～90:00（90:00）
90:00	お茶の会（90:00）～90:30（90:30）
90:30	お茶の会（90:30）～91:00（91:00）
91:00	お茶の会（91:00）～91:30（91:30）
91:30	お茶の会（91:30）～92:00（92:00）
92:00	お茶の会（92:00）～92:30（92:30）
92:30	お茶の会（92:30）～93:00（93:00）
93:00	お茶の会（93:00）～93:30（93:30）
93:30	お茶の会（93:30）～94:00（94:00）
94:00	お茶の会（94:00）～94:30（94:30）
94:30	お茶の会（94:30）～95:00（95:00）
95:00	お茶の会（95:00）～95:30（95:30）
95:30	お茶の会（95:30）～96:00（96:00）
96:00	お茶の会（96:00）～96:30（96:30）
96:30	お茶の会（96:30）～97:00（97:00）
97:00	お茶の会（97:00）～97:30（97:30）
97:30	お茶の会（97:30）～98:00（98:00）
98:00	お茶の会（98:00）～98:30（98:30）
98:30	お茶の会（98:30）～99:00（99:00）
99:00	お茶の会（99:00）～99:30（99:30）
99:30	お茶の会（99:30）～100:00（100:00）
100:00	お茶の会（100:00）～100:30（100:30）
100:30	お茶の会（100:30）～101:00（101:00）
101:00	お茶の会（101:00）～101:30（101:30）
101:30	お茶の会（101:30）～102:00（102:00）
102:00	お茶の会（102:00）～102:30（102:30）
102:30	お茶の会（102:30）～103:00（103:00）
103:00	お茶の会（103:00）～103:30（103:30）
103:30	お茶の会（103:30）～104:00（104:00）
104:00	お茶の会（104:00）～104:30（104:30）
104:30	お茶の会（104:30）～105:00（105:00）
105:00	お茶の会（105:00）～105:30（105:30）
105:30	お茶の会（105:30）～106:00（106:00）
106:00	お茶の会（106:00）～106:30（106:30）
106:30	お茶の会（106:30）～107:00（107:00）
107:00	お茶の会（107:00）～107:30（107:30）
107:30	お茶の会（107:30）～108:00（108:00）
108:00	お茶の会（108:00）～108:30（108:30）
108:30	お茶の会（108:30）～109:00（109:00）
109:00	お茶の会（109:00）～109:30（109:30）
109:30	お茶の会（109:30）～110:00（110:00）
110:00	お茶の会（110:00）～110:30（110:30）
110:30	お茶の会（110:30）～111:00（111:00）
111:00	お茶の会（111:00）～111:30（111:30）
111:30	お茶の会（111:30）～112:00（112:00）
112:00	お茶の会（112:00）～112:30（112:30）
112:30	お茶の会（112:30）～113:00（113:00）
113:00	お茶の会（113:00）～113:30（113:30）
113:30	お茶の会（113:30）～114:00（114:00）
114:00	お茶の会（114:00）～114:30（114:30）
114:30	お茶の会（114:30）～115:00（115:00）
115:00	お茶の会（115:00）～115:30（115:30）
115:30	お茶の会（115:30）～116:00（116:00）
116:00	お茶の会（116:00）～116:30（116:30）
116:30	お茶の会（116:30）～117:00（117:00）
117:00	お茶の会（117:00）～117:30（117:30）
117:30	お茶の会（117:30）～118:00（118:00）
118:00	お茶の会（118:00）～118:30（118:30）
118:30	お茶の会（118:30）～119:00（119:00）
119:00	お茶の会（119:00）～119:30（119:30）
119:30	お茶の会（119:30）～120:00（120:00）
120:00	お茶の会（120:00）～120:30（120:30）
120:30	お茶の会（120:30）～121:00（121:00）
121:00	お茶の会（121:00）～121:30（121:30）
121:30	お茶の会（121:30）～122:00（122:00）
122:00	お茶の会（122:00）～122:30（122:30）
122:30	お茶の会（122:30）～123:00（123:00）
123:00	お茶の会（123:00）～123:30（123:30）
123:30	お茶の会（123:30）～124:00（124:00）
124:00	お茶の会（124:00）～124:30（124:30）
124:30	お茶の会（124:30）～125:00（125:00）
125:00	お茶の会（125:00）～125:30（125:30）
125:30	お茶の会（125:30）～126:00（126:00）
126:00	お茶の会（126:00）～126:30（126:30）
126:30	お茶の会（126:30）～127:00（127:00）
127:00	お茶の会（127:00）～127:30（127:30）
127:30	お茶の会（127:30）～128:00（128:00）
128:00	お茶の会（128:00）～128:30（128:30）
128:30	お茶の会（128:30）～129:00（129:00）
129:00	お茶の会（129:00）～129:30（129:30）
129:30	お茶の会（129:30）～130:00（130:00）
130:00	お茶の会（130:00）～130:30（130:30）
130:30	お茶の会（130:30）～131:00（131:00）
131:00	お茶の会（131:00）～131:30（131:30）
131:30	お茶の会（131:30）～132:00（132:00）
132:00	お茶の会（132:00）～132:30（132:30）
132:30	お茶の会（13

1. はじめに

文科省は2015年3月27日に「道徳」を「特別な教科 道徳」として位置付けることを告示した。今回の専修大学教育学会では、道徳教育についての文科省の方や現職の先生方の実践について話をうかがえる貴重な機会であった。

2. 参加前の道徳教育についての疑問点

私が参加前に道徳教育に関して疑問に思っていた点は2点ある。1点目は「道徳教育を行えばいじめは減るのか」という点である。事前の学習で、道徳教育が重視されるようになった背景のひとつには、いじめを防止する目的があると学んだ。教育という営みは一朝一夕に結果や成果が出るわけではないことは重々承知しているが、道徳教育を積極的に実践されている現場の先生方の実感として、道徳教育を行うことで児童生徒の変化はあったのか気になった。

2点目は道徳教育について学校として目標や評価の基準があるのか、一貫した道徳教育が行われているのかということである。これも事前の学習で学んだものだが、文科省は教師間で道徳教育の差があるのは望ましくないというスタンスであったため、学校や教師間で連携や一貫した対応ができているのか疑問に思った。

3. 疑問点に対しての先生方のご意見

1点目の疑問に関しては、いじめが減ったとは断言できないが、日常生活の中で相手を否定することが少なくなり、他者の意見を尊重するようになったと仰っていたので、道徳教育は「他者の尊重」という点で一定の意義があると感じた。

2点目については文科省の赤堀氏が詳しく解説していた。赤堀氏は講演の中で、学校として道徳教育の目標を設定して、その目標にたどり着くように学校の教育活動全体とし

て実践することが必要であると論じていた。この点については、各小中学校の取り組みとして、廊下に「別葉」

（道徳教育の目標を道徳の時間だけでなく学校全体で取り組むために整理した表）を張り出し、常に教員が道徳の目標を意識して教育活動を行えるように工夫していることが紹介されていた。

4. 先生方の発言で最も印象に残ったもの

最も印象に残ったものは、中学校の菅先生の「先生が生徒の意見を守ることが大事」という言葉である。生徒が安心して自分の意見を言える環境を作るために、他の生徒の発言を馬鹿にしたり、見下したりする生徒には毅然とした指導を行うことが必要であると仰っていた。私は生徒が自由に考え、発言できる授業や失敗を恐れない学習環境を整えたいと考えているので、この点はとても大事にしていきたい。

5. 新たに生じた疑問

率直に言えば、他の教科ではなく、なぜ道徳でなければならないのか疑問が残った。赤堀氏や先生方の話の中で、道徳の成果として「他者の意見を尊重するようになった」や「議論することで、答えが1つではないことを生徒が感じられる」という発言が多くあったが、これは道徳でなければならないことなのであろうか。私は「他者の意見の尊重」や「答えが1つではないこと」は道徳よりむしろ、国語科や社会科、公民科が得意とする分野であると考えてるので、それらの教科を充実させたほうが生徒の成長に資するのではないかと感じた。

6. おわりに

教育学会に出席し、先生方は道徳だけでなく様々な模索の中で授業や教育活動をされていることを最も学んだ。道徳についても授業のやり方は1つではなく、何が正解かもわからない中で、どうしたら児童生徒が楽しく学べるだろうか、力がつくだろうかと常に考えながら取り組んでいらしゃった。私も教壇に立った時には、生徒ひとりひとりをよく観察し、常に指導方法や授業を改善しながら取り組んでいく決意である。



屋久島にて



教職課程の仲間たちと（右から2番目が筆者）

はじめに

入学時から4年間かけて履修してきた教職課程の総仕上げとして、教育実習を終えた4年後期から教職実践演習を履修することになっており、私は神山安弘先生の講義を履修しました。この講義のねらいは、変化の激しいこれからの社会において、時代の変化や子どもの変容を適切にとらえ、学校教育が抱える様々な課題に対して協働的に向き合うことのできる基礎能力を育成することです。

90分の講義では、前半において教育課題の一つ取り上げてその現状を理解し、後半ではグループに分かれて討論を行います。そして、それを踏まえて最後は全体での発表を行い、先生によるまとめで講義が締めくくられました。講義の中では実際に現職の校長先生にいらしていただき、お話を伺う機会もあり、総仕上げにふさわしいより実践的なトピックを取り扱っていただきました。

取り上げる内容は、学級経営から道徳教育、主体的・協働的な学習活動、教員に求められる資質、能力など、非常に様々でしたが、毎回の講義では履修者各々が今まで教育実習やボランティアなどで見てきた学校現場の状況も踏まえたうえで議論が行われ、様々な意見が飛び交っていました。

教職実践演習の講義から得たもの

私がこうした教職実践演習の講義を半年間受けて得たものとして、一番大きいと感じているのは、教員になるという「志」です。講義の中で様々な教育問題を考えていく中で、すべてにおいて共通して先生がおっしゃっていたのが、「目の前の生徒がどうなってほしいのか」、「どんな人間に育ってほしいのか」、「どんな学級にしたいのか」という想いを持つことでした。この言葉を聞いて、私は教員として様々な課題に直面したときに、知っておくべき知識、指導や生徒理解のために必要な技能はたくさんあるけれども、何よりも必要なのは、目の前の生徒たちにどうなってほしいか、という自らの熱い想いを持つことではないかと感じました。そして、そのために自分はどんな教員であるべきなのか、という一人の教員としての志を持つことが必要であると痛感しました。

この講義を受けるまで、教育実習やボランティアでの経験を経て、教員になりたいと思ってはいたものの、「自分はこんな教員になりたい」と胸を張って言えるほどの志を

持っていなかったのではないかと思います。しかし、神山先生のお話やお言葉の一つ一つに込められている熱い想いを聞いて、そして共に教員を目指す仲間たちと議論をする中で、自分の目指す教師像をはっきりと思い描くことができるようになりました。

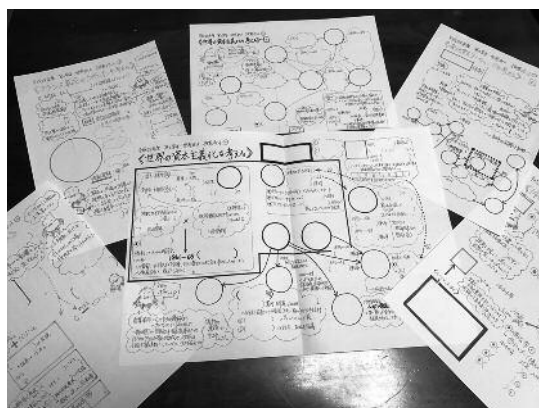
そして、どんな教員になりたいのか、という問いに関連して、私がこの講義の中で印象的だったのが、生徒にとっての「居場所」と「出番」を作ってあげる、という言葉でした。私自身、生活保護受給家庭の子供たちを対象に学習支援をする中で、学校にも家庭にも居場所を見つけられない子供たちの実態を見てきました。こうした経験と重なって、神山先生の「居場所」と「出番」を作ってあげる、というお言葉は非常に心に響くものでした。ニュースを見ていても、学校に居場所を見つけられずに不登校になってしまう子供がたくさんいると感じます。私は、講義の中で何度も繰り返して先生がおっしゃった言葉を忘れず、学校という場が子供たちにとって安心できる居場所になるように、そしてそこには必ず自分が活躍することのできる出番があるようにしてあげたいと思います。

最後に

教職実践演習の講義を通して、ここには書ききれないほどの多くのことを学ばせていただきました。そして、同時に自分の目指す教師像、教員として熱意をもって生徒に接すること、教員としての志を持つことの大切さを強く再認識することができました。教員を目指す私たち学生に、熱い言葉で語りかけ、教員という職の素晴らしさを教えてくださった先生方に心より感謝申し上げます。この半年間の教職実践演習、そして4年間の教職課程の多くの講義の中で得た自分の目指す教師像と、教員を目指す志を忘れずに、今後も励んでいきたいと思います。



私は2016年9月から専修大学附属高等学校にて、毎週金曜日の1、2、4、6時限目に世界史Aの授業に参加させて頂いています。基本的には、教室の後ろに立ち、授業を見学させて頂くという研修内容ですが、授業プリントなど教室全体で話し合いながら作業する時には、「ここが分からない」、「教えてください」と話しかけてきてくれる生徒に対して助言をすることもあります。HRに参加したりすることは無いので、生徒とのコミュニケーションは主に授業中のみですが、授業変更で時間割が変わった際には「今日は1限じゃなくて6限です」と教えてくれたり授業の前後の時間に会話することもあり、話しかけてきてくれた時は非常に嬉しく思います。



授業で配布されたプリント

担当の先生の授業を見学するだけでも授業の構成や話し方、生徒への気配りの仕方など勉強になることは尽きませんが、この教科研修生において、教師を志す私にとって最も勉強になる時間は、担当の先生が授業の無い空き時間（主に3時限目）に設けて下さる一対一での話し合いの時間です。ここでは単にその日の授業の内容について話し合うだけでなく、生徒との接し方や大学での模擬授業の相談、ひいては将来教師になった時に「どのような教師であるべきか」といったような踏み込んだ内容まで含まれます。担当の先生曰く「本来の教科研修生のプログラムには組み込まれていないオプションの相談」とのことです。他の先生方も同様の相談を受けて下さるかは定かではありませんが、お忙しい中、3時限目の時間を全て相談に費やして下さいたり、放課後にもお時間を作って下さるなど、本

当に親身になって相談に乗って頂いています。当初は、「教科研修生」という名前なので、授業の指導方法や授業中の教師のあり方を学ぶものだと考えて参加しました。実際に、授業を見学して、授業時間が余れば模擬授業をやらせてもらい、それで終了、という学生も少なくないとのことでしたが、私の場合は授業だけでなく「教師の何たるか」についても深く考える事ができています。

授業に関すること、それ以外の教師に関すること、この教科研修生で学んだことは数えきれませんが、気持ちの面で大きく変わったことが一つあります。それは、「教師になる」という夢がより現実味を帯びてきたということです。大学に入る前から教師を志し、入学後も教職課程を履修し、授業をこなしてきましたが、教科研修生で実際の学校を先生の立場から見るとまでは「教師になりたい」と漠然と思っていただけでした。しかし、担当の先生に話を聞いて頂き、相談に乗って頂く中で、私自身の考えの甘さを深く痛感させられました。と同時に「教師になる」とはどういうことか、考える機会も頂きました。教育実習に行く前の段階でこのような経験を出来たことは非常に有意義であったと思います。この経験を生かして教育実習及び教育実践演習に臨みたいです。

最後になりますが、これを読んで下さっている皆さんには結局のところ教科研修生がどのようなものであるか、全くと言っていいほど伝わっていないと思います。しかし私はそれでいいと思っています。授業のあり方、教育の在り方は千差万別で、先生一人一人によって異なるからです。それは皆さんが今まで受けてこられた学校教育を振り返ってもらえば分かると思います。ただ、一言だけ付け加えるとすれば、この教科研修生という素晴らしいプログラムはやりたいていと思ってもらう簡単な何処でもできるものではないということです。専修大学に通う皆さんには、是非とも参加することをお勧めします。週に一度一時間だけでも参加することで、教職の道に進まなくとも将来に資する経験ができると思います。

1. はじめに

夏休みの期間中、南菅中学校にて夏休み学習会と部活動の見学・サポートをさせていただきました。私は、教育に興味を持ち教職課程を履修していましたが、実際の教育現場ではどうなのだろう？教職課程の授業で習い得た知識を実際の教育現場で見て確かめてみたい！と思い、この学校教育ボランティアに参加しました。今回の体験を通して、気づいたこと、学んだことはたくさんありました。

2. ボランティアの活動内容

まず、夏休み学習会は日替わりで学年ごとに教科別で開かれていました。1年生は同じ教科でも、夏休みの宿題を進める学習会があれば、1学期に習った単元のプリントを配布して復習をする学習会もありました。2年生はテストなどで記述問題の点数が取れるようにスキルを身につけるといったポイントを絞った学習会、3年生は過去問を用いて入試問題にチャレンジする学習会が行われていました。このように各教科の先生たちが用意した学習会を生徒たちが自分で選んで学習していました。先生が主導で学習会を進め、私は机間指導をしながら生徒たちのサポートをさせていただきました。

そして部活動では私が小・中学生の時にバスケットボールをしていたことを考慮してくださり、女子バスケットボール部を主に見学させていただきました。顧問の先生に南菅中学校の女子バスケットボール部はとても強いチームだとお聞きして、強いチームにはどのような秘密があるのかを探りながら、技術練習や練習試合に参加もさせていただきました。

3. 学校教育ボランティアを通して

夏休み学習会で気が付いたことは大きく分けて2つあります。1つ目は、先生は問題を解いていて分からない生徒がいた時にすぐに答えを教えるのではなく、答えに辿り着けるようなヒントを出しながら生徒自身が考えるようにサポートをしているということです。大学の教職課程の授業で、先生が生徒に答えを教えるのは簡単だが、それでは生徒の知識は定着しづらい、問題の解き方や正解への導き方を教えるのが先生の役目だと習った事があります。実際の教育現場でまさにそれが行われていて、私の中で強く印象に残りました。

2つ目は、先生は生徒が勉強中に飽きてしまわない様に生徒をよく見ながら話し掛けているということです。問題を解いている時に、生徒の手が少し止まりかけたら先生が、「いや～。さっきの応用問題よく解けたね！」と声を掛けて褒めました。すると、その生徒はまるで先生の魔法がかかったように「そうでしょ～！」と得意気に勉強を再開し、解き進めていました。そして、生徒が「先生～、まだやるの？」と先生に聞いたら、「ここまでやったら、終わりにしよう！この後は〇〇くんの大好きな部活が待っているもんね！」と元気づけて、生徒は「それじゃあ早く終わらせよう！！」と勉強のラストスパートをかけていました。先生が生徒の様子を気にかけ、よく見ていることでこれらの声掛けが出来るのだろうと感じました。以前から、先生は生徒のいろいろなサインに注意するべきであり、これは当たり前だという考えを持っていましたが、改めて大切なことだと気付かされました。

4. 終わりに

私は今回のボランティアで初めて実際の教育現場を「客観的」に見ることが出来ました。大学の教職課程の授業で習ったものを肌で感じる事が出来たり、改めて大切なことに気付かされました。今回得た経験や考え方を4年次に行う教育実習に役立てたいと思います。

実際に現場に触れることで得られることはたくさんあります。積極的にいろいろなところに向いて「実際に肌で感じる」ということを大切にしていきたいです。

最後に貴重な経験をさせていただいた、南菅中学校の先生方、生徒さんたち、そして様々な協力をしてくださった教務課資格課程の方々に感謝しています。ありがとうございました。



南菅中学校バスケットボール部

1. はじめに

私は、今年度より専修大学附属高等学校国語科教諭として勤務しています。大学の学部を卒業してほどなく、教員1年目としてのキャリアを歩み始めたため、初めはわからないことばかりでした。とはいえ、現場においては当然、4月の勤務開始と同時に「一教員」としての業務が与えられます。より具体的に言えば、授業や学級副担任、校務分掌、部活動指導などです。周りの多くの先生にご指導頂きながら、1学期を終えることができました。このように、教員としての経験が浅い私ではありますが、実際に現場に立ってみて、わかったことや思ったことをお伝えできればと思います。

2. 学校を知り、生徒を知る

私は今年度、第1学年の国語総合（古典）と、第3学年の国語表現という授業を担当しています。4月に本校へ着任し、まもなくして授業を行うにあたり戸惑ったことは、本校の生徒を知らないということでした。全体として、どれほどの学力層で、どのような雰囲気の子が多いのかわからず、これはすなわちどんな生徒に対して授業を行うのかわからないということでした。年間を通じての授業方針やどういった授業の工夫が目の前の生徒たちには効果的なのかなどは、生徒を知らずして決められないように感じます。私はこの問題に対し、周りの先生に聞いたり、初回の授業でアンケートを取ったり、生徒と対話する機会を大切にしたりするなど解消に努めました。着任1年目だからこそ、相対することになる生徒の様子をあらかじめ知ることは困難なことでした。

生徒の様子を知るとまではいかなくとも、生徒の様子を想像するうえで大きなヒントになるのが、その学校を知ることです。学校パンフレットやホームページ、受験案内などの資料で研究することや、実際に足を運んで

みることで、その学校に対してより詳細なイメージを抱くことができるでしょう。学校の校風やカリキュラムを把握する、つまり学校を知ることが、より早い段階で生徒を知ることへ繋がっていくと私は考えています。

3. 指導方針と教員像

「作品を越えて古典を教え、古典を越えて国語力を磨き、国語という教科を越えて人生を語る」。これは、母校である私立高校の恩師から教わった言葉を、一部自分なりにアレンジしたものです。情報化社会の進展が著しい現代、我々が社会から享受している恩恵は計り知れません。そのような社会を高校生として生きる彼らに身に付けて欲しい学力は、決して現時点における大学受験に合格するために必要な知識だけではないように思います。自ら考え、主体的に行動し、自立して自己実現に向けて歩んでゆける力が必要なのだと、現場に立ち改めて感じました。そのため、私は言語活動の充実を大きな軸として日々の授業を展開しています。4技能をバランスよく導入し、知識伝授型の授業形態に偏らないよう心掛けています。その中で、生徒各人がそれぞれに古典を学ぶ意義を見出し、思想の1つとして身に付けてくれれば、と願っています。

学ぶのは、何も生徒に限ったことではありません。教員は、生徒以上に学び続けていなくてはならないのだと確信しています。日常において、専門分野・担当科目はもちろん、幅広い教養と知識を自身で習得し、他者へ発信できるような態度でいるべきです。生徒は教員の姿を鋭い視線で見えています。私自身もまだまだ相当な時間がかかりますが、生徒に生き様を見せ、人生を語ることができる教員を目指しています。

4. おわりに

ここまで、私の拙い経験の中から、これから教育現場へ飛び立つであろうみなさんにお伝えしたいことを述べさせて頂きました。私自身も例外ではなく、教員という職業は多くの人が「なりたくてなる」職業だと思っています。私の場合、中学3年生の時から、教員を将来の夢として掲げていました。肉体的・精神的に少々つらい時があっても、「教員になることができたのだ」と心に唱えるだけで、勇気がわきます。みなさんも熱い気持ちを忘れず、夢の実現に向かって日々励んでください。僥越ながら、成功をお祈り申し上げます。



授業風景

司書・司書教諭課程



人と情報資源との出会いをサポートするために情報資源と真っ向からじっくりと向き合う授業

ネットワーク情報学部 兼任講師 榎本 裕希子

はじめに

私は司書課程で「情報資源組織演習 1」と「情報資源組織演習 2」の 2 科目を担当しております。これらの科目では図書館で行われている「情報資源」を「組織化」する作業を学生のみなさんに演習してもらいます。でもこれでは科目名を単にいい直しただけで、「なにを学ぶ授業なのかさっぱりわからないぞ!」とみなさんからお叱りを受けてしまいそうですね。そこで「情報資源」を「組織化」することについてもう少し詳しくみていきましょう。

1. 「情報資源」を「組織化」するとは

これまでの図書館では「形があるもの」(＝物理的形態をもつもの：例 印刷資料、非印刷資料等)を収集対象としていましたが、それらに加え現在は「形がないもの」(＝物理的形態をもたないもの：例 ネットワーク情報資源)へと収集範囲を広げています。従来は前者のことを「図書館資料」と呼んでいましたが、収集範囲が拡大したことを受けまして現在は「図書館情報資源」と呼び方が改められました。つまり情報資源とは世に存在するさまざまなモノ(形態は問わず)に情報を固定化したもののことを呼ぶ用語なのです。

そして「組織化」とは一般的には「ばらばらの物や人を、一つの体系のもとにまとめること」(『大辞林』三省堂)を意味しますが、図書館の組織化はこれとは少々意味が異なり「一定のルールにもとづき整理しあとで取り出しやすく蓄積する」¹⁾ 作業のことを組織化と呼んでいます。この組織化の対象とするものがさまざまな情報資源です。

このように情報資源が組織化されますと図書館で収集されているさまざまな情報資源が整理され、取り出しやすい環境＝図書館情報資源が検索できる環境が整えられます。これが情報資源を組織化する目的です。図書館の利用者が求めている情報資源の検索から実物を入手するまでの一連の流れをいかに効率的に、かつ時間をかけずに行えるかどうかは的確な組織化作業が行われているか否かに左右されます。現在図書館で提供されているさまざまなサービスは情報資源の検索からサービスがスタートすることが多いことからみまると、情報資源の組織化は図書館サービスそのものを支える屋台骨となる作業であるともいえます。

以上のような情報資源組織化の目的や意義をふまえ、私の授業では情報資源組織化の具体的な作業である目録作業や分類作業を学生

の皆さんに取り組んでもらいます。



2. 「情報資源組織演習 1」

それでは実際にどのような講義内容になるのかをシラバスをもとに見ていきましょう。「情報資源組織演習 1」では目録作業の演習を行います。講義内容は次の通りです。

(1) ガイダンス・『日本目録規則 (NCR) 1987 年版改訂 3 版』概説、(2) 記述に関する総則①書誌階層と書誌レベル、単行レベルでの記述など、(3) 記述に関する総則②記述の精粗など、(4) 図書の記述①タイトルと責任表示に関する事項：本タイトル、(5) 図書の記述②タイトルと責任表示に関する事項：その他のタイトル、(6) 図書の記述③タイトルと責任表示に関する事項：責任表示、(7) 図書の記述④版に関する事項、出版・頒布等に関する事項、(8) 図書の記述⑤形態に関する事項、シリーズに関する事項、(9) 図書の記述⑥注記に関する事項、(10) 図書の記述⑦標準番号、入手条件に関する事項、(11) 演習問題実施および解説、(12) 標目および標目指示①タイトル標目、(13) 標目および標目指示②著者標目、件名標目、分類標目、(14) 演習問題実施および解説、(15) 授業内テスト。

「演習 1」ではオリジナルカタロギング(自館で受け入れた情報資源に対してその図書館自身が目録作成作業を行うこと)を中心とした演習内容となっています。現在はコピーカタロギング(他の機関等が作成した目録データを自館の蔵書データベースに登録(コピー)し、自館の目録として利用、提供すること)による目録整備が多くの図書館において実施されています。そのため図書館の業務としてオリジナルカタロギングを行う機会は少ないのが現状です。しかしまったくオリジナルカタロギングを行わないわけではありませんし、オリジナルカタロギングの演習を通じて記述がどのような情報で構成されているのか、どのように記録(入力)されてい



るのかなどの知識や経験が登録された目録データを有効に活用することにつながると私は考えています。

3. 「情報資源組織演習 2」

つぎに「情報資源組織演習 2」の講義内容を見てみましょう。本講義では分類作業等の演習を行います。

(1) ガイダンス・主題目録法概説、(2) 『日本十進分類法 (以下 NDC と略)』概説、(3) 主題分析およびその演習、(4) 一般補助表①形式区分およびその演習、(5) 一般補助表②地理区分・海洋区分およびその演習、(6) 一般補助表③言語区分 固有補助表①言語共通区分およびその演習、(7) 固有補助表②文学共通区分、その他の固有補助表およびその演習、(8) 分類規程①一般分類規程 1) 主題の観点 ～3) 原著作とその関連著作、(9) 分類規程②一般分類規程 4) 複数主題～6) 新主題、(10) 分類規程③分類規程の演習および解説、(11) 『基本件名標目表 (以下 BSH と略)』概説、(12) 件名標目付与の実際①音順標目表等、(13) 件名標目付与の実際②件名規程等、(14) 総合演習、(15) 授業内テスト。

「演習 2」では分類記号の付与を中心とした演習内容となっています。分類記号や件名標目の付与は情報資源の主題分析 (分析対象とする情報資源がどのような主題 (中心的なテーマ) を扱っているのかを明らかにすること) を起点としています。授業を行っていると主題分析を苦手とする学生さんは少なく、「主題分析がうまくできないです」と相談されることがよくあります。そのようなとき私は「時間に余裕があるときに NDC の本表を眺めたり、図書館の書架を眺めたり、本屋さんに行ったときに本棚をじっくり見るでも構いません、世の中にどのような主題があるのかを少しでも把握すると主題分析に役立ちますよ」というアドバイスをよくします。主題分析では個人の知識力を要求される一面

があります。しかしこれは長年にわたり培われるものであり受講中に身につけるのは困難です。そこで少々付け焼刃的な対策ですが、どのような主題があるかをまず知ることから始めるよう勧めています。日頃から関心をもったものや少し気になるものなど自分が知らないこと、分からないことがあればすぐに調べる

ようにすることも知識力を高めることができます。主題分析に役立ちます。「分からなければ即座に調べる」という姿勢は司書として職務を遂行していく上での基本ですし、司書以外の職業であっても何らかの形で役に立つことあると思いますので是非積極的に取り組んでいただきたいと思います。

おわりに

情報資源組織演習は演習作業を通じて情報資源そのものと真っ向から向き合う絶好の機会であると私は考えています。さまざまな視点から「この情報資源はどういう情報資源なのだろう」とじっくりと紐解き、理解していく時間を持つことは、日常生活でも図書館の現場であっても決して多くはありません。本講義を通じて悩みながら情報資源と向き合った時間は、学生のみなさんが将来図書館の司書になったときも、それ以外の職業に就いたときであっても良き糧となるものであると私は信じています。

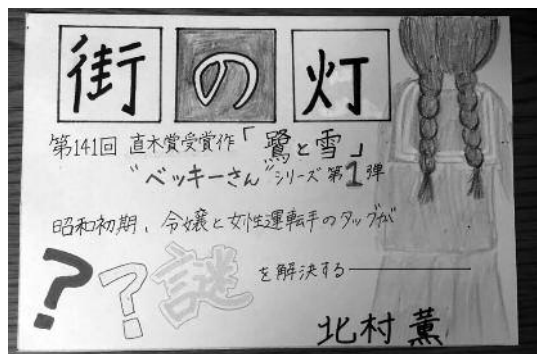
- i 榎本裕希子 [ほか] 『情報資源組織論』(ベリック司書講座・図書館の基礎と展望 3) 学文社, 2012 年, p. 6 参照
ii 同上

図書館実習を終えて

和歌山県立図書館 文学部人文・ジャーナリズム学科3年 川端 亜依

私は8月17日から21日までの5日間、地元の和歌山県立図書館で実習をさせていただいた。和歌山県立図書館は、「きのくに志学館」という建物の1Fに入っており、2Fは和歌山県立文化情報センターと和歌山県立文書館である。この建物だけであらゆる情報が入手できる場所となっている。

和歌山県立図書館の開館時間は10時である。9時半に朝礼を行った後、職員は利用者を迎えるために開館準備を行わなければならない。主な業務としては、返却ポスト内の図書の回収及び返却・配架作業、新聞綴じである。実習期間中はこの作業を毎日行った。



実際に作ったPOP（北村薫著『街の灯』）

1日目、2日目にはイベントがあった。1日目は、季節ごとに開催している「季節のおはなし会」がタイミングよく重なっていたこともあって、児童室で職員の方が児童向けに読み聞かせを行う姿を見学した。絵本や紙芝居、言葉遊びなど5つ用意されており、時間は20分程度であったが、子どもの集中力はすごいもので、熱心に聞き入っていた。

2日目は、児童を対象とした「図書館で涼もう！2016」というイベントがあり、そのサポートを行った。絵の具やクレヨンを用いたのドローイングが今回の内容であった。司会者の指導を聞き、指示に従いながらも自由に表現し、楽しそうにしている子どもの様子を見て、図書館とはただ資料を提供する場だけではないのだと思った。

3日目は、図書館における情報収集業務を中心に行った。図書館の業務として重要なものはいくつかあるが、そのひとつが新聞で行う調査であり、2つの目的を持って行われている。

ひとつは全国紙における出版情報調査である。和歌山県立図書館の場合は、和歌山の情報に絞って行っている。ここでいう出版情報

調査とは、和歌山出身の作家や和歌山に関する出版物の調査である。和歌山県立図書館では、郷土史料棚の近くに、和歌山県出身作家の出版物のコーナーを設けている。

もうひとつは＜読書＞＜図書館＞に関する記事を抽出してクリッピングするというものである。全国紙で毎週日曜日に掲載されている書評もその対象である。

双方とも記事をすべてチェックしなければならない労力に加え、普段の業務の隙間を探して、職員さん一人でこれを行っているという。地道な作業の上に図書館の情報提供サービスが成り立っているのだと思った。

4日目は、館内にある図書に限定して、POP作成を行った。図書選びの際に気づいたのが、図書館は万能な本棚ではないということ。描きたいと思った図書を検索にかけてもヒットしないということが数回あった。図書館は各々の方針に基づいて、限られた資金のなかで図書を選書しているのだということを実際に目の当たりにした気がする。

最終日の5日目は、実習生によるおはなし会を行った。私が選んだ絵本は、『おべんとう』。色鮮やかな食材が美しく描かれている絵本である。児童は耳で聞いて目で認識するため、読み聞かせの際の重要なポイントは、ゆっくり読むことと数拍待ってページをめくることである。その2点に注意して当日までに練習を重ね、本番は今までの中で一番出来が良かった。読み進めていくたびに児童が反応する様子がとても嬉しかった。

今回の実習を通して、図書館は表の仕事と裏の仕事があるということを知った。利用者は見ることがない裏での職員の仕事を日々こなすことで、カウンター業務やレファレンス業務といった表の仕事を通して利用者に情報や資料を提供できるのである。そこに図書館司書という仕事の魅力を感じた。

最後に、多忙な業務の中、実習指導をしてくださった和歌山県立図書館の職員の皆様には感謝でいっぱいである。



最終日のおはなし会

■図書館の概要

埼玉県川口市には、文庫・分室を合わせて9つの図書館があります。その中でも私が現在働いている川口市立中央図書館は、川口駅付近に立地する中央館になります。複合施設の中に入っていることもあり、入館者数は多く、幅広い年齢層の方々に利用されています。また当館は“公共図書館”として地域行政資料の収集はもちろん、市内全域にサービスが行き届くように図書館から遠く、利用しにくい方々に向けて、移動図書館車あおぞら号の巡回を行っています。



■業務について

現在の私の担当業務は文学書籍、広報、点字・音声情報サービスになります。その中でも今回は、点字・音声情報サービスの業務についてご紹介します。内容は、主として視覚障害者向け資料の製作、提供、来館・電話での利用者対応、音訳・点訳研修会の運営などがあります。このサービスの特筆すべき点のひとつが、ボランティアとの連携です。対面朗読や音訳・点訳資料の製作はボランティアの協力のもと行われており、隔月で発行している「音声版図書館だより」も音訳の勉強をされているボランティアの方々に録音をお願いしています。担当になって初めてこのサービスに関わるボランティアの方々の協力を知り、人と人の繋がりを感じると共に、多くの人によって支えられているサービスであると実感しました。また、音訳・点訳資料を郵送貸出しているため、利用者と直接やり取りをする機会が多いサービスであるとも言えます。例えば借りたい資料のリクエスト受付や、次に何を借りるかの相談を電話で行うのがその一例です。その際に利用者から「気になっていた本だから、音訳してもらえて嬉しい」「次のシリーズも楽しみ」というお声を頂くことがあり、このときがサービスを通して特にやりがいを感じる瞬間です。点字・音声情報サービス、いわゆる障害者サービスは座学で勉強をしたこと以上に得られるものが多く、“図書館”という存在の意義について

考えさせられます。

この他に、職員が持ち回りでカウンター業務も行っています。カウンターでの業務は、レファレンス対応や複写受付、予約資料の貸出、館内案内など多岐に渡ります。どのサービスでもいえることですが、利用者一人一人のニーズを汲み取り、それに的確に応えることの難しさを日々痛感するばかりです。しかしながら、図書館にある資料を用いて利用者が求める情報を提供できたときには大きな達成感があり、より求められるものに応えるだけの力を高めていきたいという思いが湧き上がります。

■おわりに

司書として勤務してから三年目になりますが、上記で挙げた担当の他にも雑誌や実用書など、様々な業務を経験させて頂きました。その新しい業務に取り組む度に、司書という職の奥深さや細やかさ、そして新たな知識を身につけていくことの面白さを感じています。そして、司書課程で勉強した事柄が実際の業務内容に結びつき、座学で学んだ知識が生きることを実感しています。

正職員として司書という職業に就くことは、私自身、就職活動を通して簡単な道ではないと感じました。また、働き始めてからも利用者から様々な問い合わせがあり、模索する毎日です。ですが、図書館という場所で本に向き合い、本を通して人と繋がるこの仕事はやりがいにあふれています。図書館についての知識だけではなく、ふと自分が日常生活や勉強で知ったことが鍵となり、対応に繋がる事もあります。司書課程の講義はもちろんですが、その他の知識もどんどん吸収し、自分の目指す司書像に向けて、視野を広げてほしいと思います。そして、是非いろいろな図書館に足を運んで頂き、その館独自のサービスや空間づくりなどを体感してみてください。



点字・音声サービスコーナー。対面朗読室の他、拡大読書器、音声パソコンも設置されている。



學藝員課程



他分野との交流・連携・協業

経営学部 兼任講師 水本 和美

1. 自己紹介

今年度、学芸員資格課程の博物館実習を担当しました。本学以外では、他大学での考古学の講義や発掘調査・保存科学など、考古学・文化財科学・博物館に関する仕事をしています。専門は中近世の考古学で、特に都市の歴史や陶磁器に関心があります。

私は、大学院修士課程で考古学を専攻する傍ら、豊島区遺跡調査会で遺跡調査に携わり、その後、新宿区生涯学習財団（新宿歴史博物館 埋蔵文化財課）の非常勤職として、埋蔵文化財の発掘・整理調査から報告書刊行にタッチしてきました。さらに、学芸課に移って博物館の現場も経験することになりました。千代田区教育委員会では、埋蔵文化財の調査指導員として発掘調査に関わりつつ、四番町歴史民俗資料館という小さな資料館から現日比谷図書文化館（旧都立日比谷図書館）への移転と新館オープンを経験しました。

現在、これらの経験に加え、新たに文化財科学のジャンルで経験していることなどは、すべて本学の博物館実習の授業にも、生きてつながっているように感じます。

そこで、これらの関連する分野との連携についてお話してみます。

2. 他分野について

(1) 考古学と関連諸科学

江戸遺跡を発掘するとき、まず、その場所がどういう場所であるのか、情報の有無を含め、文献史学の援用をしながら調べます。江戸では『御府内場末往還其外沿革図書』など、多くの文献が存在し、すでに刊本になっています。武家であれば、『寛政譜』などで家や当主を調べることもできます。こうして拝領者のある程度まで特定しながら（*考古学は相対年代を出すため特定までにはいたらない場合もあります）、発掘調査を進めます。地面を掘り進めると、宝永山の火山灰（1707年〔宝永4〕噴火による降灰）が出てきたり、火災の痕跡が出てきたりします。火災の履歴でも年代が特定できることがあります。

また、ある遺物の使用法がわからない場合、絵画資料や民俗学的手法によっても確認できることがあります。

近世考古学は、歴史学、社会学、自然地理学、歴史地理学、地盤工学、人類学、建築史、美術史、自然科学、などの非常に多様な学問とのつながりがあるのです。また、これら関連諸学問から方法や成果を借りるだけでなく、出土文字資料、土木建築の遺構、土

壌と土層、墓や葬法に関わる社会的関係史の痕跡、など返せるだけのものを蓄えつつあります。今後もこれらの諸学問や研究者と連携を深め、研究をより進展させていくでしょう。そのためには、自身の分野の学術的な用語と各分野の用語をよく知り、問題点を共有するという課題があります。



石切丁場

(2) 博学連携（博物館と学校教育）

博物館では、学校教育との連携が盛んに行われています。考古学と博物館の関係の中では、発掘体験・土器づくり・勾玉づくりなどの体験型の学習のほか、小学校などの授業に土器などを持ち込んでの出前授業があります。この場合にも、博物館学芸員が授業を行う場合と、先生方が授業を行う場合の両方があります。こうした連携を担うのは、各地の教育委員会、文化財行政、博物館、埋蔵文化財事業団などの担当者です。

いずれの場合においても、考古学（学芸員）の側では、学校教育者との密な連絡が必要になります。なぜなら、日々、児童・生徒の教育にあたっている先生方は、彼らの発達段階、学習の到達度を熟知しており、発する単語一つにも神経を注いでいるためです。授業に臨む前には、こうした点についても打ち合わせを行うことで連携を強化できます。ただし、学校の先生方は実に多忙ですので、あまりに負担になるようなことは避ける方が全体の教育の質の向上には寄与するのではと思います。研究授業や現在先生方に行われている研修などで、先生方と共同でプログラムを開発してそれを広めることは有効でしょう。私の在職時に新宿区では、新任の先生方への研修の一環として、博物館と館の資料・プログラムの紹介を行い、生活や社会科などの授業に活かしてもらっていました。

私も実際に学校の授業に縄文土器・弥生土器を持って授業をしたこともあり、次のようなことを実感しました。

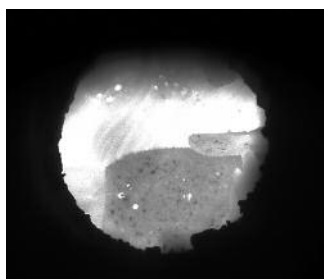
現在の子どもを取り巻く環境は、受験やインターネットによる検索などある「設問」が

あたえられ、そこに「答え」があるという世界がほとんどです。これに対して考古学では、設問を自身で設定する力と、資料から答えを導く力の2つが必要です。ところが、例えば縄文土器と弥生土器の順番を語る前に、子どもたちに彼らの考える順番を尋ねると、実にオリジナリティあふれる答えが返ってきます。教科書に載っている（あるいは載っていない）資料の実物を肌で触って感じる体験そのものは貴重です。同時に学校教育とは異なる特別な授業だからできることもあったかと思えます。

(3) 文理融合（理系分野との連携）

最近、鉄素材についても勉強する機会を得て、理系の方々との交流をしています。きっかけは、鉄文化財を研究する先生らと出会い、「たたら製鉄」の実験操業を体験したことでした。

生来文系体質の私にとっては、理系の方々との対話はなかなか難しいところがあります。言葉一つとっても、理系でいうところの鉄なら Fe、銅なら Cu という元素記号で定義されるのは当然のこと、会話にも定性的・定量的なところが求められます。つつい感覚的な物言いをしてしまい、気を付けなければ、と思っています。理研の研究ノートや注意書きなどみると、私が発掘現場で記録してきた野帳との違いに驚きもします。



たたら操業実験（鉄の粒がおちる瞬間）

3. 交流・連携・協業

さて、異分野との交流・連携・協業では、いろいろな留意点があります。

まずは、自身の立脚するところ（あるいは立脚しようとするところ）が必要です。出発時に、自分の位置というものがないと、相手も交流のしようもありません。

交流であれば、お互いに情報交換をして、相互に有益な点があれば成立します。連携においてはそれぞれの目的のもとで合致するところで勝負をして益を得ます。

協業ともなると、相互に組んで互いの方法的な良さを出し合い、互いに成果を得るという対等な関係が望めます。目的の共有が必要であり、それが片側の要請でしかなければ、難しくなります。そして、その一方で、互いの利ある着地点が、本当は社会的に意義

のあるものでなければならないことを、職業として専門職に就いたものであればおさなりにしてはならないと思います。相互の目的が最終的には社会に寄与するかどうか、そこに哲学・理念があるかが試されます。

4. おわりに

豊島区遺跡調査会の頃、文献史学・自然科学・博物館などとの連携の種をいただいております。ずっと大事に持っていたその種は、次第にその数も増えて、いま少しずつ大きく育っています。

この種は、最近でこそ自分で取りに行くこともありますが、多くのものは先輩方から半ば強引に（笑）渡されたものだったと思います。

今回、恥ずかしげもなく、私事を書かせていただいた理由は、専修大学のみなさんが、これからきっと得ていく「未来の種」の中にはきっと、そのときには素晴らしいものとは気が付かない、あるいは、その時には「芽」が出るかもわからないものがきっとあると思っています。多少なり気が進まずとも、いずれ芽が出たり、機が熟したり、といった時がくるものもあるのではないかと、いうことをちょっと先にお伝えしたかったのです。

これから、ぜひ、いろいろな「種」を集め、育てるべく「芽」を育て、さらに、「花」や「実」を得て欲しいと思います。そして、「種」でも「花」でも「実」でも惜しまずに、他者に与えられる人物になっていただきたいのです。私もそのような世界を目指して奮闘中です。

生意気にも意見しましたが、自分の世界を広げる体験は、本当に面白いのでお勧めします。それでは、本日も、明日の種を見つけに行きましょう！



高輝度放射光施設スプリング8

博物館実習を終えて

弥生美術館・竹久夢二美術館 商学部マーケティング学科4年 岩下 愛海

私は、8月22日から9月4日までの14日間、東京都文京区弥生にある弥生美術館・竹久夢二美術館で実習を行いました。この2館は、弁護士・鹿野琢見によって創設・開館され、彼のコレクションである高島華宵・竹久夢二を中心とした出版美術資料を多く収蔵する美術館です。弥生美術館は縦に3つの展示室があり、1・2階の展示室では、明治末から戦後にかけての出版美術をテーマに企画展を開催しています。3階展示室は高島華宵の常設展示室で、3ヶ月ごとにテーマをかえながら、華宵作品を公開しています。竹久夢二美術館は、夢二を研究する美術館として様々な視点で深く掘り下げ、希少な資料と併せて展示紹介をしています。

今回の実習では、2館の学芸員の仕事の補佐という形で、その時点、館で進行している様々な仕事を体験させていただきました。弥生・夢二美術館はとても小規模な館で学芸員も2館合わせて6人しかいません。企画展のテーマが決定すると1年間かけて担当学芸員1人で開催までの準備を行います。そういった館の学芸員の補佐という形で実習を行えたことで、幅広い仕事内容を間近にすることができ、学芸員にとって重要なことが、「徹底的な調査」と「人との関わり方」であることを改めて理解し、これからの自分の課題を認識することができました。

「徹底的な調査」の重要性は、弥生美術館で2017年7月に開催予定の企画展の調査作業をやらせていただいている際に感じました。私は大正から昭和初期にかけて刊行された雑誌の中から、展示の対象となっている人物の記事を探す作業を行いました。企画展に向けた調査では、参考書籍だけではなくその年代の雑誌や書籍も同時に調査します。その過程で、これまでの調査の間違いを発見することができるので展示内容の信憑性を高めるためにとても重要な作業だそうです。

この経験で、自分が卒論を書くことのない学部において、大学にいながら徹底的に一つのものを掘り下げて調査するという経験が全くないことに気が付きました。そのため学芸員に必要な不可欠な、調査や集めた情報を再構築する能力が身につけておらず、これらを課題として身につける努力をしていかななくてはな



弥生美術館・竹久夢二美術館

らないと認識しました。

「人との関わり方」は、2館に出入りする来館者以外の関係者の多さ、そしてその方々に対する学芸員の対応を身近で見させていただき重要性を感じました。私の実習中には、開催中の企画展で外部の方を招いてのミュージアムトークが実施されていたり、次期企画展の図録の校正として、外部関係者と学芸員の方が会議をなさっていたりと、企画展関係者の対応をする学芸員の姿を何度も見ることができました。そこで来館者の満足度の高い企画展を実現するには、良い意味で周囲を巻き込んでいくことが必要だと感じ、それと同時にその場の学芸員の方の対応の迅速さや立ち振る舞いを見て、巻き込むためにはやはり高いコミュニケーション能力が必要なのだと考えました。

私は、アパレル販売員の仕事を在学中に3年程度やってきました。そこで得た接客能力には少々自信がありましたが、学芸員の方の対応は全く別種類のもので、徹底的な調査で裏付けられた知識が前提としてなければできないものでした。ここでもやはり私の課題は、徹底的な調査の能力を身につけることだと実感しました。

この他にも今回の実習では、大学講義内では気が付くことが出来なかった、私自身の今後の課題をいくつも見つけることができました。私は、油彩絵画に関係する学芸員を目指しています。そのため専門的な知識を身につけるべく専修大学卒業後、美術大学に入学しようとして以前から考えていました。実習を行い調査の能力を身につけるなど明確な課題を認識することができ、美術大学入学への思いがより一層強くなりました。これから頑張っていきたいと思います。

博物館実習を終えて

福島県歴史資料館 文学部歴史学科3年 齋藤 愛玲

私は8月1日(月)から8月6日(土)までの約一週間、福島県にある福島県歴史資料館で実習を行いました。福島県歴史資料館は主に地元、福島の歴史資料を調査研究し、管理・収集・保管している資料館で、今回の実習では、史料の扱い方や整理の方法、遺跡調査部の見学、そして展示作成など、様々なことを体験させていただきました。

遺跡調査部の見学では、山下分庁舎と渡利分室施設という二つの施設に行きました。山下分庁舎は、遺跡発掘調査に携わり、また、発掘調査の情報の整理、報告書の作成を行っている施設で、遺物の出土品の実測図などの情報を、手作業またはパソコンや専用の機械を使って記録したり、整理したりといった様子を見せていただきました。

渡利分室施設は、遺物、特に木製品や金属製品の遺物の整理・保管や保存方法の研究を行っている施設で、実際に木製品や金属製品の保存方法や、文化財をより良い方法で保存しようと文化財保存科学という研究に関して詳しく教えていただきました。特に、現在、保存技術は十分に発達していると思っていた私にとって、まだより良い方向に技術が進化し得る、またはその研究をしているというのは新知見であり、大変興味深いものでした。

歴史資料館での実習として所蔵されている史料の中から実際に使わせていただいたのは古文書、典籍、掛物、卷子、屏風でした。古文書以外の史料に関しては名称などの基礎知識や、展示に際しての扱い方、保管の仕方、そして史料そのものの見方などを教えていただきました。

古文書は、主に分類・整理の方法を教えてくださいました。初めは担当の方の手伝いのような形で古文書と目録との照らし合わせや内容確認の実習を行い、その後、実際に自分が興味の持った行政文書の整理実習を行いました。整理する際に読み取らなければならない情報は、主にその史料の表題と年代、発信者、受信者、そして簡単な内容というように文字に起こせば30字もいかないようなものですが、表題や内容は何が一番大事な情報なのかを見極めて書く必要があり、読み解いて分類整理する作業は思ったよりも難しいものでした。

でした。

実習の中で最も自分の力を試されたものは、展示制作でした。私は企画展示であった「描かれた江戸時代の伊達郡」の後期展示で展示される作品の一つである(旧)長倉村の村絵図を担当させていただきました。名前の通り村の絵と絵の中にいくつかの単語・文章が描かれたもので、地名辞典のような辞典を使って、その村絵図のキャプションを作るという実習でしたが、読み解くのは難しく、辞典やネット、そして担当の方にアドバイスをいただきながらやっと約200字のキャプションを作成することができました。

6日間の実習を通して一番に感じたのは、どの作業も主観だけでなく客観的に考えなければならないということでした。どの立場の視点に立って史料を見るのか、その史料を必要としているのはどのような人なのか、史料を整理・分類した後、誰がどのような目的で見るのか、というように、見る側の視点を常に持つということが学芸員にとって重要であると実感しました。また、他館との連携、学芸員以外の職業の方との連携、そして、地元住民との関わりというように、自分の館だけ、自分だけ、では成り立たない、人と人との関わり大切さも知ることができました。

そしてこのことは学芸員だけでなく、他の仕事においても少なからず求められることであると思います。学芸員として働くということとは、そもそも働くこととはどういうことなのかということを学ぶことができ、6日間という短い時間ではありましたが確実に私自身のためになる貴重な体験となりました。



展示制作実習で担当した村絵図



データ編



平成28年度 教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修者数

教職課程

平成 28 年 5 月 1 日 現在

区分	学 部	学 科 [専 攻]	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	22(1)	48(5)	73(11)	45(2)	188(19)
		国 際 経 済 学	12(3)	22(1)	10(4)	56(19)	100(31)
	法 政	法 政 学	34(10)	41(13)	29(6)	14(2)	118(31)
		政 治 学	23(5)	21(4)	11(1)	8(1)	63(11)
	商 務	経 営 学	12(0)	40(2)	27(6)	29(4)	108(12)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	19(5)	45(7)	41(11)	27(8)	132(31)
	文 学	会 計 学	7(5)	15(3)	17(5)	15(4)	54(17)
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	0	0
		[日 本 語 学]	—	—	—	0	0
		[日本文学文化]	—	—	—	0	0
		日 本 語 本 文	27(10)	33(12)	16(10)	26(13)	102(45)
		日 本 文 学 文 化	28(15)	34(16)	21(14)	20(14)	103(59)
		英 語 英 文	27(4)	21(8)	23(8)	17(6)	88(26)
		人 文 [哲 学 人 間 学]	—	—	—	0	0
		[歴 史 学]	—	—	—	0	0
		[環 境 地 理 学]	—	—	—	0	0
二 部	経 済	経 済 学	10(5)	13(7)	12(4)	5(2)	40(18)
		環 境 地 理 学	43(17)	45(15)	34(11)	51(19)	173(62)
	法 政	法 政 学	11(2)	6(1)	10(3)	9(2)	36(8)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	8(3)	4(1)	7(1)	2(0)	21(5)
	商 務	経 営 学	—	—	—	0	0
		マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
	文 学	会 計 学	10(5)	13(7)	12(4)	5(2)	40(18)
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	0	0
		[日 本 語 学]	—	—	—	0	0
		[日本文学文化]	—	—	—	0	0
		日 本 語 本 文	27(10)	33(12)	16(10)	26(13)	102(45)
		日 本 文 学 文 化	28(15)	34(16)	21(14)	20(14)	103(59)
		英 語 英 文	27(4)	21(8)	23(8)	17(6)	88(26)
		人 文 [哲 学 人 間 学]	—	—	—	0	0
		[歴 史 学]	—	—	—	0	0
		[環 境 地 理 学]	—	—	—	0	0
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	24(9)	26(4)	30(10)	22(6)	102(29)
		心 理 学	5(4)	3(0)	2(1)	1(1)	11(6)
	人 間 科	社 会 学	13(8)	9(4)	9(4)	2(1)	33(17)
		計 算 機 学	325(106)	426(112)	372(110)	305(87)	1,428(415)
	小 学	経 済 学	4(0)	13(2)	10(1)	6(0)	33(3)
		法 政 学	4(1)	12(0)	7(2)	4(1)	27(4)
	二 部	法 政 学	2(2)	4(1)	6(1)	3(3)	15(7)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	10(3)	29(3)	23(4)	13(4)	75(14)
	合 計	目 等 履 修 生	335(109)	455(115)	395(114)	318(91)	1,503(429)
	大 学	学 校 院 生	—	—	—	—	18(3)
	大 学	合 計	335(109)	455(115)	395(114)	318(91)	1,529(434)

司書課程

区分	学 部	学 科 [専 攻]	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	7(4)	5(1)	5(2)	4(2)	21(9)
		国 際 経 済 学	2(1)	1(1)	2(2)	0	5(4)
	法 政	法 政 学	7(5)	4(2)	9(7)	5(3)	25(17)
		政 治 学	2(2)	2(0)	3(2)	0	7(4)
	商 務	経 営 学	3(2)	3(1)	3(1)	1(1)	8(5)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	4(4)	3(1)	3(2)	5(4)	15(11)
	文 学	会 計 学	0	3(2)	1(1)	0	4(3)
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	0	0
		[日 本 語 学]	—	—	—	0	0
		[日本文学文化]	—	—	—	0	0
		日 本 語 本 文	17(13)	6(4)	10(9)	4(3)	37(29)
		日 本 文 学 文 化	30(24)	32(25)	31(27)	10(9)	103(85)
		英 語 英 文	0	0	5(5)	2(2)	7(7)
		人 文 [哲 学 人 間 学]	—	—	—	0	0
		[歴 史 学]	—	—	—	0	0
		[環 境 地 理 学]	—	—	—	0	0
二 部	経 済	経 済 学	1(1)	9(3)	10(9)	6(2)	26(15)
		環 境 地 理 学	15(9)	31(17)	12(7)	6(4)	64(37)
	法 政	法 政 学	3(1)	3(2)	1(0)	0	7(3)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	3(2)	4(4)	10(9)	3(3)	20(18)
	商 務	経 営 学	—	—	—	0	0
		マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
	文 学	会 計 学	1(1)	8(6)	8(7)	1(1)	18(15)
		日 本 語 日 本 文	1(0)	3(4)	1(1)	5(4)	10(8)
		[日 本 語 学]	2(1)	10(6)	4(2)	4(4)	20(13)
		[日本文学文化]	—	—	—	0	0
		日 本 語 本 文	98(70)	125(78)	118(93)	56(42)	397(283)
		日 本 文 学 文 化	1(1)	1(0)	2(1)	3(0)	7(2)
		英 語 英 文	2(1)	3(0)	2(2)	4(2)	11(5)
		人 文 [哲 学 人 間 学]	0	1(0)	1(0)	9(4)	10(4)
		[歴 史 学]	3(2)	5(0)	4(3)	16(8)	28(11)
		[環 境 地 理 学]	—	—	—	0	0
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	101(72)	130(78)	122(96)	72(48)	425(294)
		心 理 学	—	—	—	—	3(3)
	人 間 科	社 会 学	—	—	—	—	0
		計 算 機 学	—	—	—	—	0
	合 計	目 等 履 修 生	101(72)	130(78)	122(96)	72(48)	425(294)
	大 学	学 校 院 生	—	—	—	—	0
	大 学	合 計	101(72)	130(78)	122(96)	72(48)	428(297)

司書教諭課程

区分	学 部	学 科 [専 攻]	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	3(1)	2(1)	4(2)	2(1)	11(5)
		国 際 経 済 学	0	2(2)	1(1)	0	3(3)
	法 政	法 政 学	2(2)	2(1)	2(1)	0	6(4)
		政 治 学	0	1(0)	0	0	1(0)
	商 務	経 営 学	1(0)	0	0	0	1(0)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	1(1)	1(0)	0	1(0)	3(1)
	文 学	会 計 学	0	0	0	0	0
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	0	0
		[日 本 語 学]	—	—	—	0	0
		[日本文学文化]	—	—	—	0	0
		日 本 語 本 文	2(2)	2(2)	2(0)	4(4)	10(8)
		日 本 文 学 文 化	11(8)	9(8)	9(7)	2(2)	31(25)
		英 語 英 文	1(0)	0	0	0	1(0)
		人 文 [哲 学 人 間 学]	—	—	—	0	0
		[歴 史 学]	—	—	—	0	0
		[環 境 地 理 学]	—	—	—	0	0
二 部	経 済	経 済 学	0	4(2)	2(2)	0	6(4)
		環 境 地 理 学	6(4)	5(4)	2(0)	0	13(8)
	法 政	法 政 学	2(1)	0	0	0	2(1)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	0	3(3)	1(1)	1(1)	5(5)
	商 務	経 営 学	—	—	—	0	0
		マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	0	0
	文 学	会 計 学	2(2)	2(0)	3(2)	2(1)	9(5)
		日 本 語 日 本 文	0	0	1(1)	2(2)	3(3)
		[日 本 語 学]	2(1)	3(1)	0	0	5(2)
		[日本文学文化]	—	—	—	0	0
		日 本 語 本 文	33(22)	36(24)	27(17)	14(11)	110(74)
		日 本 文 学 文 化	0	1(0)	0	0	1(0)
		英 語 英 文	0	0	0	0	0
		人 文 [哲 学 人 間 学]	0	0	0	0	0
		[歴 史 学]	0	0	0	0	0
		[環 境 地 理 学]	0	0	0	0	0
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	33(22)	37(24)	27(17)	14(11)	111(74)
		心 理 学	—	—	—	—	0
	人 間 科	社 会 学	—	—	—	—	0
		計 算 機 学	—	—	—	—	0
	合 計	目 等 履 修 生	33(22)	37(24)	27(17)	14(11)	111(74)
	大 学	学 校 院 生	—	—	—	—	0
	大 学	合 計	33(22)	37(24)	27(17)	14(11)	111(74)

学芸員課程

区分	学 部	学 科 [専 攻]	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	2(1)	1(0)	4(0)	1(0)	8(1)
		国 際 経 済 学	0	0	0	0	0
	法 政	法 政 学	0	0	5(4)	0	5(4)
		政 治 学	0	1(0)	3(3)	0	4(3)
	経 営	経 営 学	1(1)	1(1)	2(0)	0	4(2)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	0	3(1)	6(1)	3(2)	12(4)
	商 務	会 計 学	0	0	0	0	0
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	0	0
		[日 本 語 学]	—	—	—	0	0
		[日本文学文化]	—	—	—	0	0
		日 本 語 本 文	3(1)	6(6)	1(1)	0	10(8)
		日 本 文 学 文 化	6(5)	8(8)	4(3)	2(2)	20(18)
		英 語 英 文	1(1)	0	2(2)	0	3(3)
		人 文 [哲 学 人 間 学]	—	—	—	0	0
		[歴 史 学]	—	—	—	0	0
		[環 境 地 理 学]	—	—	—	0	0
[社 会 学]	—	—	—	0	0		
文 学	哲 学	4(4)	5(1)	5(5)	1(1)	15(11)	
	歴 史 学	32(16)	32(16)	27(18)	6(2)	97(52)	
	環 境 地 理 学	4(1)	5(2)	4(1)	1(1)	14(5)	
	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	1(0)	2(1)	7(7)	0	10(8)	
	心 理 学	—	—	—	0	0	
	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報 学	0	0	2(1)	0	2(1)	
	人 間 科 学	1(0)	3(3)	0	1(1)	5(4)	
	社 会 学	2(2)	4(4)	1(0)	0	7(6)	
	小 計	57(32)	71(43)	73(46)	15(9)	216(130)	
	経 済	経 済 学	0	1(1)	0	0	1(1)
法 政	法 政 学	0	0	0	1(0)	1(0)	
	政 治 学	0	0	0	1(1)	1(1)	
商 務	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	0	0	
	小 計	0	1(1)	0	2(1)	3(2)	
合 計	目 等 履 院 修 生	57(32)	72(44)	73(46)	17(10)	219(132)	
大 学 合 計	目 等 履 院 修 生	—	—	—	—	2(2)	
大 学 合 計	目 等 履 院 修 生	—	—	—	—	2(0)	
大 学 合 計	目 等 履 院 修 生	57(32)	72(44)	73(46)	17(10)	223(134)	

平成28年度 教育職員免許状取得件数

区分	学 部	学 科 [専 攻]	取得人数	中学1種		高校1種		中学専修		高校専修		合 計
				教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	
一 部	経 済	経 済	14(1)	社 会	8(1)	地 理 歴 史	9(0)	—	—	—	—	25(1)
		国 際 経 済	1(0)	社 会	0	公 商 地 理 歴 史	7(0)	—	—	—	—	1(0)
	法	法 律	9(2)	社 会	6(1)	地 理 歴 史	7(1)	—	—	—	—	20(4)
		政 治	6(1)	社 会	3(0)	公 商 地 理 歴 史	7(2)	—	—	—	—	13(2)
	経 営	経 営	6(0)	社 会	1(0)	公 商 地 理 歴 史	4(1)	—	—	—	—	7(0)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	10(5)	社 会	1(0)	公 商 地 理 歴 史	6(1)	—	—	—	—	14(6)
	文	会 計	6(2)	—	—	公 商 地 理 歴 史	3(0)	—	—	—	—	6(2)
		日 本 語 日 本 文	0	国 語	0	公 商 地 理 歴 史	2(0)	—	—	—	—	0
		[日本文学文化]	0	国 語	0	公 商 地 理 歴 史	1(0)	—	—	—	—	0
		日 本 本 語	21(10)	国 語	14(5)	公 商 地 理 歴 史	9(5)	—	—	—	—	35(15)
		日 本 文 学 文 化	16(11)	国 語	13(9)	公 商 地 理 歴 史	2(1)	—	—	—	—	31(22)
		英 語 英 米 文	10(4)	外国語(英語)	9(4)	公 商 地 理 歴 史	2(2)	—	—	—	—	18(7)
		[哲学会同学]	0	社 会	0	公 商 地 理 歴 史	0	—	—	—	—	0
		[歴史学]	0	社 会	0	公 商 地 理 歴 史	0	—	—	—	—	0
		[環境地理学]	0	社 会	0	公 商 地 理 歴 史	0	—	—	—	—	0
		[社会学]	0	社 会	0	公 商 地 理 歴 史	0	—	—	—	—	0
		哲	2(0)	社 会	2(0)	公 商 地 理 歴 史	0	—	—	—	—	6(0)
		歴 史	45(18)	社 会	34(14)	公 商 地 理 歴 史	2(0)	—	—	—	—	108(46)
		環 境 地 理	6(1)	社 会	6(1)	公 商 地 理 歴 史	2(0)	—	—	—	—	14(2)
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	1(0)	社 会	1(0)	公 商 地 理 歴 史	1(0)	—	—	—	—	3(0)
		心 理	0	社 会	0	公 商 地 理 歴 史	1(0)	—	—	—	—	0
	人 間 科	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	7(3)	数 学	5(1)	公 商 地 理 歴 史	5(2)	—	—	—	—	11(4)
		心 理	0	社 会	0	公 商 地 理 歴 史	1(1)	—	—	—	—	0
	小	社 会	0	社 会	0	公 商 地 理 歴 史	0	—	—	—	—	0
		計	160(58)	—	103(36)	—	209(75)	—	—	—	—	312(111)
二 部	経 済	経 済	2(0)	社 会	1(0)	地 理 歴 史	1(0)	—	—	—	—	4(0)
	法	法 律	2(1)	社 会	0	公 商 地 理 歴 史	1(0)	—	—	—	—	3(1)
科 目 等 履 修 生	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1(1)	社 会	0	地 理 歴 史	0	—	—	—	—	1(1)
	小	計	5(2)	—	1(0)	—	7(2)	—	—	—	—	8(2)
大 学 院 生	国 語	国 語	13(1)	国 語	0	国 語	0	—	—	—	—	20(1)
		外国語(英語)	2(0)	外国語(英語)	2(0)	外国語(英語)	2(0)	—	—	—	—	20(1)
小	社 会	社 会	3(0)	社 会	3(0)	公 商 地 理 歴 史	6(1)	—	—	—	—	20(1)
		数 学	0	数 学	0	公 商 地 理 歴 史	1(0)	—	—	—	—	20(1)
大 学 院 生	国 語	国 語	13(1)	国 語	5(0)	国 語	15(1)	—	—	—	—	20(1)
		外国語(英語)	7(4)	外国語(英語)	—	外国語(英語)	—	3(3)	1(0)	3(3)	1(0)	14(8)
小	社 会	社 会	—	社 会	—	社 会	—	3(1)	—	—	—	14(8)
		公 民 学	—	公 民 学	—	公 民 学	—	—	—	—	—	14(8)
合 計	計	計	7(4)	—	—	—	—	7(4)	—	—	—	14(8)
		計	185(65)	—	109(36)	—	231(78)	—	7(4)	—	7(4)	354(122)

- 1 () 内は、女子で内数である。
2 この表は、教員免許状一括申請をした数である。

平成28年度 司書・司書教諭・学芸員資格単位取得者数

区分	学 部	学 科 [専 攻]	司 書	司 書 教 諭	学 芸 員
一 部	経 済	経 済	3(3)	0	0
		国 際 経 済	0	0	0
	法	法 律	5(4)	0	1(0)
		政 治	0	0	0
	経 営	経 営	0	0	1(1)
		マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	2(2)
	文	会 計	0	0	0
		日 本 語 日 本 文	0	0	0
		[日本文学文化]	0	0	0
		日 本 本 語	8(7)	3(3)	1(1)
		日 本 文 学 文 化	30(30)	3(3)	6(5)
		英 語 英 米 文	2(2)	0	0
		[哲学会同学]	0	0	0
		[歴史学]	0	0	0
		[環境地理学]	0	0	0
		[社会学]	0	0	0
		哲	4(1)	0	1(1)
		歴 史	8(7)	0	19(13)
		環 境 地 理	0	0	1(1)
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	4(4)	0	0
		心 理	0	0	0
	人 間 科	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	1(1)	0	0
		心 理	2(2)	0	3(2)
	小	社 会	2(2)	0	0
		計	69(63)	6(6)	35(26)
二 部	経 済	経 済	1(0)	0	0
	法	法 律	2(0)	1(0)	0
小	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1(0)	1(1)	1(1)
	計	計	4(0)	2(1)	1(1)
科 目 等 履 修 生	国 語	国 語	0	0	1(1)
		外国語(英語)	0	0	2(0)
大 学 院 生	社 会	社 会	—	—	—
		公 民 学	—	—	—
合 計	計	計	73(63)	8(7)	39(28)

() 内は、女子で内数である。

平成28年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
北海道・東北	北海道	白樺学園高等学校	商業	経営	経営	
	岩手県	岩手県立盛岡第一高等学校	国語	文	日本語	
	宮城県	仙台市立仙台青陵中等教育学校	地理歴史(世界史)	経済	経済	
	宮城県	宮城県石巻商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	宮城県	宮城県仙台北高等学校	地理歴史	文	歴史	
	宮城県	石巻市立石巻中学校	社会	文	歴史	
	秋田県	秋田県立能代高等学校	地理歴史	文	歴史	
	秋田県	秋田県立秋田北高等学校	地理歴史	文	歴史	
	山形県	天童市立第一中学校	国語	文	日本文学文化	
	山形県	山形県立米沢東高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	福島県	会津若松市立河東中学校	国語	文	日本文学文化	
	福島県	相馬市立中村第一中学校	英語	文	英語英米文	
	福島県	福島県立湯本高等学校	英語	文	英語英米文	
	福島県	福島県立郡山高等学校	地理歴史	文	歴史	
	福島県	いわき市立中央台南中学校	社会	文	環境地理	
関東	茨城県	茨城県立古河第一高等学校	商業	商	会計	
	茨城県	茨城県立鬼怒商業高等学校	商業	商	会計	
	茨城県	阿見町立竹来中学校	社会	文	歴史	
	茨城県	茨城県立水海道第一高等学校	地理歴史	文	歴史	
	茨城県	茨城県立古河第一高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	栃木県	栃木県立茂木高等学校	地理歴史	文	歴史	
	栃木県	那須塩原市立三島中学校	社会	文	歴史	
	群馬県	桐生市立商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	埼玉県	埼玉県立川越南高等学校	国語	文	日本語	
	埼玉県	埼玉県立不動岡高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	星野高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	埼玉県立久喜北陽高等学校	地理歴史	文	歴史	
	埼玉県	さいたま市立土合中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	流通経済大学付属柏高等学校	地理歴史	経済	経済	
	千葉県	千葉県立柏高等学校	地理歴史	経済	経済	
東	千葉県	専修大学松戸中学・高等学校	社会・公民	経営	経営	
	千葉県	東京学館船橋高等学校	商業	商	マーケティング	
	千葉県	習志野市立習志野高等学校	商業	商	会計	
	千葉県	千葉県立検見川高等学校	国語	文	日本語	
	千葉県	千葉県立柏中央高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	千葉県立船橋東高等学校	公民	文	歴史	
	千葉県	千葉県立千葉南高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	白井市立南山中学校	国語	文学研究科		日本語日本文学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	八王子学園八王子中学・高等学校	地理歴史	経済	国際経済	

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
関東	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	東京都立大田桜台高等学校	商業	商	マーケティング	
	東京都	町田市立町田第三中学校	社会	商	マーケティング	
	東京都	東京都立大田桜台高等学校	商業	商	会計	
	東京都	駒込高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	東京都立上野高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	八王子学園八王子高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	世田谷区立桜丘中学校	国語	文	日本語	
	東京都	八王子学園八王子高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	宝仙学園中学・高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	淑徳巣鴨中学・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	関東第一高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	桜美林中学・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	松蔭高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	世田谷区立千歳台小学校	全科	文	英語英米文	
	東京都	多摩大学附属聖ヶ丘高等学校	英語	文	英語英米文	
東	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	安田学園高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立町田総合高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	城西大学附属城西高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東亜学園高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	豊島学院高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	目黒区立目黒中央中学校	社会	文	歴史	
	東京都	八王子学園八王子高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	足立区立第十一中学校	社会	文	歴史	
	東京都	東京都立文京高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	杉並学院高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立狛江高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京農業大学第一高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	桜美林中学・高等学校	社会・地理歴史	文	歴史	
	東京都	蒲田女子高等学校	地理歴史	文	環境地理	
神奈川	東京都	千代田区立九段中等教育学校	社会・地理歴史	文	環境地理	
	東京都	中央区立明石小学校	全科	文	環境地理	
	東京都	専修大学附属高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	福生市立福生第一中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	明法中学・高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	日本大学第三高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	川崎市立枳形中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	川崎市立有馬中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	横浜市立末吉中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	藤沢市立大清水中学校	社会	経済	経済	

平成28年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	神奈川県	茅ヶ崎市立鶴が台中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立小田原総合ビジネス高等学校	商業	商	会計	
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	藤沢市立善行中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立藤沢清流高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横浜市立永田中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横浜隼人中学・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立中川中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立港北高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立追浜高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	平塚市立神明中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立大磯高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立港北高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立弥栄高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	川崎市立西高津中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立上溝高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立橋本高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	座間市立栗原中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	茅ヶ崎市立第一中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	立花学園高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	公民	文	哲	
	神奈川県	神奈川県立追浜高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	藤沢市立秋葉台中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	藤沢市立片瀬中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	海老名市立海西中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	相洋高等学校	地理歴史(日本史)	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立藤沢清流高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立藤沢西高等学校	地理歴史(世界史)	文	歴史	
	神奈川県	藤沢市立大庭中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	横浜英和女学院中学高等学校	社会・地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立厚木北高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	藤沢市立善行中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	小田原市立橋中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立荏田高等学校	公民	人間科	社会	
	神奈川県	神奈川県立市ヶ尾高等学校	英語	文学研究科		英語英米文学
	神奈川県	藤嶺学園藤沢中学校・高等学校	公民	文学研究科		哲学
	神奈川県	聖園女学院中学校・高等学校	国語	文学研究科		日本語日本文学
甲信越	新潟県	新潟県立新潟西高等学校	公民(政治経済)	経済	経済	
	新潟県	関根学園高等学校	国語	文	日本語	
	新潟県	新潟市立山潟中学校	英語	文	英語英米文	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
甲信越	新潟県	新潟市立五十嵐中学校	英語	文	英語英米文	
	新潟県	新潟県立高田北城高等学校	公民(政治経済)	文	哲	
	新潟県	新潟市立西川中学校	社会	文	歴史	
	新潟県	長岡市立小国中学校	社会	文	歴史	
	新潟県	柏崎市立第二中学校	社会	文	環境地理	
	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	山梨県	山梨県立甲府東高等学校	国語	文	日本語	
	山梨県	河口湖南中学校組合立河口湖南中学校	社会	文	哲	
	山梨県	山梨県立甲府南高等学校	地理歴史(世界史)	文	歴史	
	山梨県	山梨県立山梨高等学校	公民	文	IT・ジャーナリズム	
	山梨県	山梨県立甲府南高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	長野県	上田市立第一中学校	社会	経済	経済	
	長野県	長野県野沢北高等学校	国語	文	日本文学文化	
	長野県	長野県諏訪二葉高等学校	国語	文	日本文学文化	
	長野県	上田市立第二中学校	社会	文	歴史	
	長野県	松商学園高等学校	地理歴史	文	環境地理	
北陸	富山県	富山県立小杉高等学校	公民	経営	経営	
	富山県	富山県立南砺福野高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	福井県	福井県立福井商業高等学校	商業	商	マーケティング	
東海	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	商業	経営	経営	
	静岡県	静岡県立静岡商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	静岡県	藤枝明誠高等学校	国語	文	日本語	
	静岡県	焼津市立大井川中学校	国語	文	日本語	
	静岡県	富士宮市立西富士中学校	国語	文	日本語	
	静岡県	島田市立金谷中学校	国語	文	日本文学文化	
	静岡県	静岡県立静岡城北高等学校	地理歴史	文	歴史	
	静岡県	菊川市立菊川西中学校	社会	文	歴史	
	静岡県	静岡県立島田高等学校	地理歴史	文	歴史	
中国	広島県	呉市立昭和中学校	社会	経済	経済	
	広島県	北広島町立大朝中学校	社会	経済	国際経済	
	広島県	崇徳高等学校	公民	商	マーケティング	
	広島県	広島県立三次高等学校	国語	文	日本語	
	山口県	誠英高等学校	商業	経済	経済	
四国	愛媛県	愛媛県立宇和島東高等学校	商業	商	マーケティング	
九州・沖縄	長崎県	海星中学・高等学校	社会	経営	経営	
	長崎県	長崎県立松浦高等学校	商業	商	会計	
	宮崎県	鵬翔中学校・高等学校	社会・地理歴史	文	環境地理	
	沖縄県	豊見城市立豊見城中学校	社会	経済	経済	
	沖縄県	沖縄県立浦添工業高等学校	情報	経営	経営	
	沖縄県	那覇市立神原中学校	社会	文	歴史	

平成28年度 教育実習先一覧（一部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	北海道	北海道深川西高等学校	公民	法	法律
	北海道	札幌光星高等学校	公民(現代社会)	法	政治
	秋田県	明桜高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
	宮城県	仙台市立三条中学校	社会	法	政治
	福島県	福島県立磐城高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
関東	埼玉県	東野高等学校	公民(倫理)	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	法	政治
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	自由学園 高等科	公民(政治経済)	法	政治
	東京都	東京都立三田高等学校	地理歴史(日本史)	法	政治
	神奈川県	横浜市立戸塚高等学校	公民(現代社会)	法	法律
	神奈川県	横浜高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
甲信越	山梨県	山梨県立韮崎高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
	長野県	長野県屋代高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
東海	静岡県	静岡県立浜松南高等学校	公民(現代社会)	法	政治
近畿	大阪府	堺市立旭中学校	社会	法	政治
	奈良県	天理高等学校	地理歴史	法	法律

平成28年度 教育実習先一覧（二部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	宮城県	仙台市立第一中学校	社会	法	法律
関東	茨城県	茨城県立結城第一高等学校	公民	科目等履修生	
	東京都	岩倉高等学校	商業	経済	経済
	東京都	立川市立立川第四中学校	社会	経済	経済
	東京都	東京都立第五商業高等学校	商業	商	マーケティング
	東京都	日本体育大学荏原高等学校	英語	科目等履修生	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	科目等履修生	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	神奈川県	神奈川県立神奈川工業高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	川崎市立栞形中学校	社会	法	法律
北陸	福井県	福井県立武生商業高等学校	地理歴史	科目等履修生	
東海	静岡県	静岡県立富岳館高等学校	地理歴史	法	法律
中国	山口県	山口県立熊毛南高等学校	英語	科目等履修生	
	福岡県	沖学園高等学校	商業	商	マーケティング

平成28年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北 関東	福島県	いわき総合図書館	文	人文学部	
	栃木県	栃木市藤岡図書館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	府中市立中央図書館	文	英語英米文	
	東京都	千代田区立千代田図書館	文	哲	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東 近畿	神奈川県	専修大学図書館	法	法律	
	神奈川県	横浜市中心図書館	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜市旭図書館	文	哲	
	和歌山県	和歌山県立図書館	文	人文学部	

平成28年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	秋田県	秋田県立博物館	文	歴史	
	福島県	白河市歴史民俗資料館	文	歴史	
	福島県	福島県歴史資料館	文	歴史	
	福島県	いわき市暮らしの伝承郷	文学研究科		歴史学
関東 東	茨城県	坂東市立資料館	文	歴史	
	茨城県	古河歴史博物館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	栃木県	佐野市郷土博物館	経営	経営	
	栃木県	足利市立美術館	文	歴史	
	栃木県	小山市立博物館	文	歴史	
	群馬県	館林市第一資料館	文	歴史	
	群馬県	群馬県立自然史博物館	文	人文学部	
	埼玉県	蓮田市文化財展示館	文	哲	
	千葉県	千葉県立房総のむら	法	法律	
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	文	日本文学文化	
	千葉県	袖ヶ浦市郷土博物館	文	歴史	
	千葉県	茂原市立美術館・郷土資料館	文	歴史	
	千葉県	白井市郷土資料館	文	歴史	
	千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館	文	歴史	
	東京都	紙の博物館	法	法律	
	東京都	東京都井の頭自然文化園	法	法律	
	東京都	府中市郷土の森博物館	法	政治	
	東京都	東京都多摩動物公園	文	日本文学文化	
	東京都	東京おもちゃ美術館	文	英語英米文	
	東京都	進化生物学研究所	文	哲	
	東京都	東京都江戸東京博物館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	
	東京都	ふれあい下水道館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東 東	東京都	昭和のくらし博物館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	
	東京都	大田区立郷土博物館	文	歴史	
	東京都	古代オリエント博物館	文	環境地理	
	東京都	進化生物学研究所	文	環境地理	
	東京都	日本カメラ博物館	文	人文学部	
	東京都	青梅市郷土博物館	人間科	心理	
	東京都	弥生美術館・竹久夢二美術館	商	マーケティング	
	神奈川県	三溪園	法	法律	
	神奈川県	はまぎんこども宇宙科学館	法	政治	
	神奈川県	シルク博物館	商	マーケティング	
	神奈川県	横浜市三殿台考古館	文	哲	
	神奈川県	平塚市博物館	文	歴史	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	歴史	
	神奈川県	箱根町立郷土資料館	文	歴史	
	神奈川県	電車とバスの博物館	文	環境地理	
	神奈川県	藤沢市湘南台文化センターこども館	人間科	社会	
	甲信越	新潟県 上越科学館	文	日本語	
	甲信越	新潟県 長岡市寺泊水族博物館	文	歴史	
北陸 東海	福井県	大野市歴史博物館	文	歴史	
	静岡県	沼津港深海水族館	文	日本文学文化	
	静岡県	清水港湾博物館	文	日本文学文化	
	静岡県	島田市博物館	文	哲	
	静岡県	浜松市博物館	文	歴史	
	静岡県	静岡市立日本平動物園	文	人文学部	
	愛知県	博物館明治村	文	歴史	
	中国	岡山県 岡山県立美術館	文	人文学部	
	中国	福岡県 北九州市立自然史・歴史博物館	文	人文学部	
	中国	福岡県 北九州市立自然史・歴史博物館	文	人文学部	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成24年度	平21 経済・経済	厚木市立戸室小学校	専 任	全 科
	平21 経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	専 任	特支小全科
	平24 経済・経済	学校法人淑徳学園（淑徳SC 中等部・高等部）	非 常 勤	社 会
	平24 経済・経済	鴨川市立鴨川中学校	臨時的任用	社 会
	平20 経済・国際経済	学校法人大乗淑徳学園（淑徳巣鴨中学高等学校）	常 勤	英 語
	平23 法・法律	江東区立数矢小学校	専 任	全 科
	平23 法・法律	下妻市立下妻東部中学校	非 常 勤	社 会
	平23 法・法律	川口市立青木中央小学校	臨時的任用	全 科
	平24 法・法律	流山市立八木中学校	非 常 勤	社 会
	平24 法・法律	射水市立小杉中学校	臨時的任用	社 会
	平24 法・政治	横浜市立緑が丘中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	高崎市立中尾中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	宇都宮市立清原中学校	非 常 勤	社 会
	平21 経営・経営	足立区立洲江小学校	専 任	全 科
	平16 商・商業	学校法人佐野日本大学学園（佐野日本大学中等教育学校）	専 任	社 会
	平21 商・商業	船橋市立習志野台中学校	専 任	社 会
	平24 商・マーケティング	千葉市教育センター	家庭訪問相談員	全 科
	平24 商・会計	静岡県立相良高等学校	非 常 勤	商 業
	昭62 文・国文	神奈川県教育委員会	専 任	特支小全科
	平21 文・日本語日本文	日の出町立平井小学校	専 任	全 科
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立寒川高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	川崎市立宮前平中学校	専 任	国 語
	平23 文・日本語日本文	神奈川県立大和南高等学校	専 任	国 語
	平23 文・日本語日本文	練馬区立南が丘中学校	専 任	国 語
	平24 文・日本語日本文	沼津市立大岡中学校	専 任	国 語
	平24 文・日本語日本文	町田市立小山田中学校	期 限 付	国 語
	平24 文・日本語日本文	君津市立八重原中学校	そ の 他 (指導補助教員)	
	平24 文・日本語日本文	学校法人加藤学園（加藤学園高等学校）	非 常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	新潟県立羽茂高等学校	常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	長野県磯ヶ崎高等学校 長野県松本美須ヶ丘高等学校	非 常 勤	国 語
	平22 文・英語英米文	学校法人豊昭学園（豊島学院高等学校）	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	神奈川県立山北高等学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	茨城県立盲学校	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	神栖市立波崎第三中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	横浜市立庄戸中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	学校法人矢野学園（八王子実践中学・高等学校）	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	学校法人富田学園（岐阜東中学校・高等学校）	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	茅ヶ崎市立赤羽根中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	英 語
	平23 文・人文	千葉市立朝日ヶ丘中学校	専 任	社 会
	平24 文・人文	菊川市立菊川西中学校	専 任	社 会
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	千葉県立袖ヶ浦高等学校	専 任	情 報
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人玉川学園（玉川学園中・高等部）	常 勤	数 学
	平24 院経済・修士	神奈川県立生田高等学校	非 常 勤	公 民
	平22 院経営・修士	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専 任	情 報
	平24 院文・修士	学校法人早稲田高等学校（早稲田中学校・高等学校）	非 常 勤	社 会
	平24 院文・修士	神奈川県立平塚湘風高等学校	非 常 勤	国 語
平成25年度	平23 経済・経済	青梅市立今井小学校	専 任	図 工
	平24 経済・経済	茂原市立南中学校	非 常 勤	社 会
	平25 経済・経済	千葉県立我孫子東高等学校	専 任	公 民
	平25 経済・経済	須賀川市立西袋第二小学校	臨時的任用	全 科
	平23 法・法律	学校法人武陽学園（西武台高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史・公民
	平23 法・法律	大田区立徳持小学校	専 任	全 科
	平25 法・法律	相模原市立相陽中学校	非 常 勤	社 会
	平24 法・政治	神奈川県立横浜南養護学校	専 任	社 会
	平23 経営・経営	学校法人日本体育大学（柏日体高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平25 経営・経営	学校法人白樺学園（白樺学園高等学校）	非 常 勤	商 業
	平25 経営・経営	学校法人田中学園（水戸葵陵高等学校）	非 常 勤	公 民

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成25年度	平23 商・マーケティング	北九州市立青葉小学校	専 任	全 科
	平25 商・マーケティング	石川県立宝達高等学校	常 勤	地理歴史・公民
	平25 商・マーケティング	栃木県立高根沢高等学校	常 勤	商 業
	平25 商・マーケティング	茨城県立水戸商業高等学校	常 勤	商 業
	平25 商・マーケティング	長野県阿智高等学校	非 常 勤	情報・商業
	平22 文・日本語日本文	長崎県立国見高等学校	常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	町田市立小山田中学校	専 任	国 語
	平25 文・日本語日本文	川崎市立末長小学校	指導補助教員	
	平25 文・日本語日本文	学校法人中延学園（朋優学院高等学校）	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	富山県立高岡工芸高等学校	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	静岡市立高松中学校	常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	能美市立辰口中学校	常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	神奈川県立愛川高等学校	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	神奈川県立横須賀大津高等学校	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	那須町立黒田原中学校	期 限 付	国 語
	平25 文・日本語日本文	学校法人成田山教育財団（成田高等学校）	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	長崎県立波佐見高等学校	常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	群馬県立富岡東高等学校	常 勤	国 語
	平19 文・英語英米文	神奈川県立城山高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	東京都立国際高等学校	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	川口市立仲町中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	品川区立東海中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	新潟県立十日町高等学校	専 任	英 語
	平25 文・英語英米文	横浜市立鶴ヶ峯中学校	専 任	英 語
	平23 文・人文	横浜市立上白根小学校	専 任	全 科
	平24 文・人文	神奈川県教育委員会	専 任	地 理 歴 史
	平25 文・人文	静岡市立長田西中学校	常 勤	社 会
	平25 文・人文	学校法人國學院大學（國學院大学久我山中学・高等学校） 学校法人東洋高等学校（東洋高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史・公民
	平25 文・人文	川崎市立川崎中学校	非 常 勤	社会・特別支援
	平24 文・心理	大田区立馬込第二小学校	専 任	全 科
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立桶川高等学校	専 任	数 学
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人大森学園（大森学園高等学校）	非 常 勤	数 学
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	東京都立東高等学校	非 常 勤	情 報
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	館山市立第二中学校	期 限 付	数 学
	平25 院経営・修士	学校法人立教学院（立教新座中学校・高等学校）	非 常 勤	情 報
	平23 院文・修士	神奈川県立小田原城北工業高等学校	専 任	英 語
	平24 院文・修士	学校法人向上学園（自修館中等教育学校）	常 勤	英 語
	平25 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	平25 院文・修士	川崎市立南加瀬中学校	非 常 勤	社 会
平成26年度	平26 経済・経済	真岡市立真岡中学校	常 勤	社 会
	平23 法・法律	蕨市立北小学校	専 任	全 科
	平24 法・法律	松田町立松田中学校	専 任	社 会
	平26 法・法律	南伊豆町立南伊豆東中学校	常 勤	社 会
	平24 法・政治	白山市立美川中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	伊勢崎市立あずま小学校	専 任	全 科
	平26 経営・経営	相模原市立相陽中学校	非 常 勤	社 会
	平26 経営・経営	大磯町立大磯中学校	常 勤	社 会
	平26 商・会計	福島県立福島商業高等学校	常 勤	商 業
	平24 文・日本語日本文	横浜市立寺尾中学校	専 任	国 語
	平25 文・日本語日本文	川北町立川北中学校	専 任	国 語
	平25 文・日本語日本文	東庄町立東庄中学校	専 任	国 語
	平25 文・日本語日本文	川崎市立川崎高等学校	非 常 勤	国 語
	平26 文・日本語	学校法人美萩野学園（美萩野女子高等学校）	常 勤	国 語
	平26 文・日本語	学校法人創志学園（クラーク記念国際高等学校）	常 勤	国 語
	平26 文・日本語	茅ヶ崎市立円蔵中学校	常 勤	国 語
	平26 文・日本文学文化	玉名市立伊倉小学校 玉名市立梅林小学校	臨時的任用	理科・算数 全 科
	平26 文・日本文学文化	富士宮市立富士宮第二中学校	非 常 勤	国 語
	平26 文・日本文学文化	岩手県立花泉高等学校	常 勤	国 語

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成26年度	平26 文・日本文学文化	川崎市立中野島中学校	臨時的任用	国 語
	平26 文・日本文学文化	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	平26 文・日本文学文化	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非 常 勤	国 語
	平26 文・日本文学文化	学校法人福島成蹊学園（福島成蹊学園中学校・高等学校）	常 勤	国 語
	平22 文・英語英米文	相模原市立相陽中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	伊勢原市立山王中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	南足柄市立南足柄中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	学校法人獨協学園（獨協中学・高等学校）	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	川崎市立中野島小学校	臨時的任用	全 科
	平26 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	非 常 勤	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人郁文館夢学園（郁文館高等学校）	常 勤	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常 勤	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人二松學舎（二松學舎大学附属柏中学校・高等学校）	非 常 勤	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人日本大学（日本大学鶴ヶ丘高等学校）	非 常 勤	英 語
	平25 文・人文	学校法人自然学園（自然学園高等学校 神奈川学習センター 栄真学園高等部）	常 勤	地 理 歴 史
	平26 文・哲	埼玉県立本庄特別支援学校	期限付（介護休暇代替）	
	平26 文・歴史	東京都立田柄高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	館山市立船形小学校	専 任	全 科
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人常磐大学（常磐大学高等学校）	専任（期限付）	情 報
	平26 人間科・社会	府中市立府中第六小学校	専 任	全 科
	平26 人間科・社会	相模原市立大沢中学校	専 任	社 会
	平26 人間科・社会	前橋市立箱田中学校	専 任	社 会
	平24 院文・修士	神奈川県立伊志田高等学校	専 任	国 語
	平25 院文・修士	川崎市立塚越中学校	専 任	社 会
	平27 経済・経済	学校法人徳心学園（横浜中学・横浜高等学校）	非 常 勤	社 会
平成27年度	平21 法・法律	武蔵野市立桜野小学校	専 任	全 科
	平25 法・法律	松戸市立第六中学校	専 任	英 語
	平26 法・政治	横浜市立日限山中学校	専 任	社 会
	平27 法・政治	学校法人堀井学園（横浜創英高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史
	平26 経営・経営	学校法人作陽学園（岡山県作陽高等学校）	非 常 勤	情 報
	平27 経営・経営	石川県立輪島高等学校	専 任	公 民
	平27 商・マーケティング	野田市立東部中学校	非 常 勤	社 会
	平27 商・マーケティング	座間市立西中学校	非 常 勤	社 会
	平27 商・マーケティング	岐阜県立各務原西高等学校	常 勤	情 報
	平27 商・マーケティング	長野県諏訪実業高等学校	常 勤	商 業
	平25 文・日本語日本文	川崎市立川中島中学校	専 任	国 語
	平27 文・日本語	川崎市立西高津中学校	臨時的任用	国 語
	平27 文・日本語	愛知県立犬山南高等学校	専 任	国 語
	平27 文・日本語	横浜市立上大岡小学校	専 任	全 科
	平27 文・日本語	神奈川県立大和高等学校	臨時的任用	国 語
	平27 文・日本文学文化	内灘町立内灘中学校	専 任	国 語
	平27 文・日本文学文化	横浜市立南高等学校附属中学校	専 任	国 語
	平27 文・日本文学文化	寒川町立旭が丘中学校	専 任	国 語
	平27 文・日本文学文化	静岡県立三島北高等学校	専 任	国 語
	平27 文・日本文学文化	伊那市立高遠中学校	非 常 勤	国 語
	平27 文・日本文学文化	山梨市立山梨南中学校	非 常 勤	国 語
	平22 文・英語英米文	東京都立墨田工業高等学校	臨時的任用	英 語
	平24 文・英語英米文	川崎市教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平24 文・英語英米文	静岡県立浜名高等学校	専 任	英 語
	平26 文・英語英米文	神奈川県立厚木北高等学校	専 任	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人日本大学（日本大学鶴ヶ丘高等学校）	専 任	英 語
	平27 文・英語英米文	埼玉県立所沢商業高等学校	期 限 付	英 語
	平27 文・英語英米文	学校法人立花学園（立花学園高等学校）	非 常 勤	英 語
	平27 文・英語英米文	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	非 常 勤	英 語
	平27 文・英語英米文	神奈川県立有馬高等学校	専 任	英 語
	平27 文・英語英米文	長野県明科高等学校	常 勤	英 語
	平27 文・英語英米文	神奈川県立菅高等学校	専 任	英 語
	平27 文・歴史	沼津市立今沢中学校	常 勤	社 会
	平27 文・歴史	学校法人星野学園（星野高等学校）	常 勤	地理歴史・公民

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 27 年 度	平27 文・歴史	鎌倉市立玉縄中学校	臨時的任用	特 別 支 援
	平27 文・歴史	学校法人盈進学園（東野高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平27 文・歴史	横浜市立菅田中学校	専 任	社 会
	平26 文・環境地理	茨城県立石岡第二高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平27 文・環境地理	萩市立木間小・中学校 長門市立三隅中学校	非 常 勤	社 会
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立横浜栄高等学校	専 任	情 報
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立上石神井中学校 練馬区立大泉第二中学校	非 常 勤	数 学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人拓殖大学（拓殖大学第一高等学校）	非 常 勤	数 学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立八潮南高等学校	非 常 勤	数 学
	平25 院経営・修士	学校法人鷗友学園（鷗友学園女子高等学校）	専 任	情 報
平成 28 年 度	平24 院文・修士	学校法人向上学園（自修館中等教育学校）	専 任	英 語
	平28 経済・経済	市川市立東国分中学校	少人数学習等担当補助教員	社 会
	平28 経済・経済	神奈川県立深沢高等学校	常 勤	地 理 歴 史
	平21 法・法律	藤沢市立湘南台中学校	専 任	社 会
	平26 法・法律	むつ市立大畑中学校	非 常 勤	社 会
	平28 法・法律	学校法人旭川宝田学園（旭川明成高等学校）	専 任	地理歴史・公民
	平28 法・法律	野田市立東部中学校	専 任	社 会
	平26 法・政治	川崎市立橘中学校	専 任	社 会
	平28 経営・経営	川崎市立高津中学校	非 常 勤	社 会
	平26 商・マーケティング	綾瀬市立落合小学校	専 任	全 科
	平28 商・マーケティング	山梨県立塩山高等学校	期 限 付	商 業
	平28 商・マーケティング	海老名市立柏ヶ谷中学校	非 常 勤	社 会
	平28 商・マーケティング	学校法人矢谷学園（鳥取城北高等学校）	非 常 勤	商 業
	平25 文・日本語日本文	学校法人成田山教育財団（成田高等学校）	専 任	国 語
	平27 文・日本語	神奈川県立鎌倉高等学校	専 任	国 語
	平28 文・日本語	大和市立つきみ野中学校	臨時的任用	国 語
	平28 文・日本語	学校法人菅生学園（東海大学菅生高等学校）	非 常 勤	国 語
	平28 文・日本語	富士宮市立富士宮第四中学校	常 勤	国 語
	平28 文・日本語	上田市立塩田中学校	常 勤	国 語
	平28 文・日本語	神奈川県立保土ヶ谷高等学校	期 限 付	国 語
	平28 文・日本語	北区立堀船中学校	期 限 付	国 語
	平28 文・日本文学文化	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	国 語
	平28 文・日本文学文化	東京都立杉並工業高等学校	専 任	国 語
	平28 文・日本文学文化	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	国語・書道
	平22 文・英語英米文	足立区立伊興中学校	専 任	英 語
	平26 文・英語英米文	大村市立西大村中学校	臨時的任用	英 語
	平28 文・英語英米文	神奈川県立厚木清南高等学校	期 限 付	英 語
	平28 文・英語英米文	日本工業大学駒場中学校・高等学校	非 常 勤	英 語
	平28 文・英語英米文	学校法人立花学園（立花学園高等学校）	非 常 勤	英 語
	平28 文・英語英米文	浦添市立神森中学校	専 任	英 語
	平28 文・英語英米文	荒川区立諏訪台中学校	期 限 付	英 語
	平28 文・哲	学校法人東海山形学園（東海大学山形高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平26 文・歴史	千葉県立船橋夏見特別支援学校	臨時的任用	特 別 支 援
	平26 文・歴史	神奈川県立麻生総合高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平27 文・歴史	静岡県教育委員会	専 任	社 会
	平27 文・歴史	葉山町立南郷中学校	専 任	社 会
	平28 文・歴史	学校法人沼津学園（桐陽高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平28 文・歴史	神奈川県立相模原高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平28 文・環境地理	伊勢崎市立宮郷中学校	臨時的任用	社 会
	平20 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立綾瀬西高等学校	専 任	情 報
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立飯能高等学校	専 任	数 学
	平26 人間科・社会	港区立白金小学校	専 任	全 科
	平28 人間科・社会	富士市立岩松中学校	専 任	社 会
	平28 院文・修士	学校法人駿台学園（駿台学園中学・高等学校）	常 勤	国 語
	平28 院文・修士	神奈川県立大楠高等学校	専 任	英 語
	平28 院文・修士	学校法人成立学園（成立学園中学・高等学校）	常 勤	英 語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤 務 先	勤 務 先
川口市立中央図書館	八街市立図書館（千葉県）
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学附属図書館	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	（株）雄松堂書店
武蔵大学図書館	青山学院女子短期大学図書館
東京大学法学部図書館	国土館大学鶴川図書館
日外アソシエーツ（株）	追手門学院大学附属図書館
見附市立図書館（新潟県）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
（株）有隣堂	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
女子栄養大学図書館	神奈川県立川崎高等学校
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	横須賀市立中央図書館
東京医科大学図書館	（株）三省堂書店
杉並区中央図書館（東京都）	神奈川県立図書館
横浜市立図書館	江東区立亀戸図書館
土木学会附属土木図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
専修大学図書館	法政大学多摩図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	勤 務 先
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武都市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市歴史資料館	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会

平成28年度 資格課程年間行事表

課 程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※ 一部3月 履 修 科 目 登 録 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
	中 旬	介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
		実習希望校との内諾交渉 介護等の体験事前講習会	3 3・4						
5月	上 旬	教育実習事前ガイダンス 教育実習 （5月～11月）	4 4					館務実習事前ガイダンス 博物館見学実習 博物館実習（館務実習） （5月～12月）	3・4 3・4 3・4
	中 旬	介護等の体験開始 （5月中旬～3月上旬）							
6月	上 旬	教育実習登録ガイダンス	3	図書館実習 事前ガイダンス	3・4	司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司 書教諭の単位をす べて修得した者）	4		
	下 旬	教育実習内諾書の提出 教員免許状一括申請 ガイダンス	3 3・4 4						
7月	下 旬	前 期 試 験（全 学 年）							
8月		夏期休暇（8月上旬～9月中旬） 前 期 追 試 験（全 学 年）							
				図書館実習 （8月～12月）	3・4				
9月	下 旬	教員免許状授与申請書 確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次で司書教 諭の科目を履修し た者）	4	館務実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
	10月	上 旬	教職公開講座	1～4					
11月	中 旬							館務実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
	下 旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	中 旬			司書課程就職 （進路）懇談会	1～4				
1月	上 旬			図書館実習 報告会	1～4				
	中 旬	後 期 試 験（全 学 年）							
2月	中 旬	後 期 追 試 験（全 学 年）							
3月	22日	教員免許状の交付	4					館務実習承諾書の提出	2・3

教員採用試験対策特別講義実施結果

●平成26年度 実施結果

- ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第1回
1. 実施日 平成26年8月7日(木) 11:00～16:20
 2. 実施場所 サテライトキャンパス
 3. 対象者 教員採用試験 一次試験合格者(卒業生も受講可)
 4. 担当講師 長船 孝明 先生 本学卒業生(昭和53年 商学部会計学科卒)
東京都立荒川商業高等学校校長
 5. 内 容 (1) 講演: テーマ「求められる教師像」
(2) 面接試験(集団・個人)
(3) 評価の視点
(4) 面接練習 ①集団討論 ②個人面接
(5) まとめ
 6. 参加者 10名(内卒業生3名)
 7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会
- ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第2回
1. 実施日 平成26年8月20日(水) 11:00～17:10
 2. 実施場所 専修大学神田校舎 ゼミ45教室
 3. 対象者 教員採用試験 一次試験合格者(卒業生も受講可)
 4. 担当講師 神山 安弘 文学部特任教授
矢吹 芳洋 経済学部教授
森田 司郎 法学部准教授
 5. 内 容 (1) 講演: テーマ「教員採用二次試験の現状と教育課題について」
(2) 個人面談(面談後のコメント含む)
(3) 場面指導(場面指導後のコメント含む)
(4) 模擬授業(模擬授業後のコメント含む)
 6. 参加者 6名(内卒業生5名)
 7. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター
- ・教員採用試験懇談会
1. 実施日 平成27年2月24日(火) 16:30～18:00
 2. 実施場所 専修大学生田校舎 1号館2階 123教室
 3. 対象者 平成28年度教員採用試験を受験する者(卒業生も受講可)
 4. 参加者 15名(内卒業生0名)
 5. 内 容 教員採用試験二次試験合格者の体験談および質疑応答
 6. ゲスト 清水 耕太郎(横浜市教育委員会・中学校社会・文学部歴史学科4年)
井上 采美(横浜市教育委員会・中学校社会・法学部政治学科 卒業生)
村館 公大(茨城県教育委員会・高等学校地理・文学部環境地理学科 卒業生)
 7. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター

●平成27年度 実施結果

- ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第1回・2回
1. 実施日 第1回 平成27年8月4日(火) 10:00～15:00
第2回 平成27年8月5日(水) 10:00～15:00
 2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 421教室
 3. 対象者 教員採用試験 一次試験合格者(卒業生も受講可)
 4. 担当講師 神山 安弘 文学部特任教授
森田 司郎 法学部准教授(8/5のみ)
 5. 内 容 (1) 面接票、指導案等の作成指導
(2) 個人面接、集団面接等
 6. 提出物 各自該当するものを当日持参
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
 7. 参加者 第1回 平成27年8月4日(火) 13名(内卒業生4名)
第2回 平成27年8月5日(水) 12名(内卒業生2名)
 8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター
- ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第3回
1. 実施日 平成27年8月7日(金) 11:00～16:00
 2. 実施場所 専修大学サテライトキャンパス スタジオA
 3. 対象者 教員採用試験一次試験合格者
(教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生でも受講可)
 4. 担当講師 長船 孝明 先生 本学卒業生(昭和53年 商学部会計学科卒)
東京都立荒川商業高等学校校長
 5. 内 容 (1) 主に東京都の教育に求められる教師像など簡単な講義
(東京、千葉、神奈川、埼玉の2次試験のポイント、評価方法等)
(2) 個別指導(主に個人面談)
 6. 参加者 12名(内卒業生0名)
 7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会
- ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第4回
1. 実施日 平成27年8月20日(木) 11:00～17:00
 2. 実施場所 専修大学神田校舎 1号館5階 ゼミ56教室
 3. 対象者 教員採用試験 一次試験合格者(卒業生も受講可)
 4. 担当講師 神山 安弘 文学部特任教授
矢吹 芳洋 経済学部教授
森田 司郎 法学部准教授
 5. 内 容 (1) 面接票、指導案等の作成指導
(2) 個人面接、集団面接等
 6. 提出物 各自該当するものを当日持参
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
 7. 参加者 9名(内卒業生3名)
 8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター
- ・教員採用試験懇談会
1. 実施日 平成28年2月23日(火) 16:30～17:45
 2. 実施場所 専修大学生田校舎 1号館2階 123教室
 3. 対象者 平成29年度教員採用試験を受験する者(卒業生も受講可)
 4. 参加者 37名(内卒業生0名)
 5. 内 容 教員採用試験二次試験合格者の体験談および質疑応答
 6. ゲスト 伊藤 圭哉(千葉県・千葉市教育委員会・中学校・高等学校社会・法学部法律学科4年)
飯田 美沙子(神奈川県教育委員会・高等学校地理歴史・文学部歴史学科4年)
 7. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター

●平成28年度 実施結果

- ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第1回・2回
1. 実施日 第1回 平成28年8月4日(木) 10:00～17:30
第2回 平成28年8月5日(金) 10:00～15:30
 2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 422教室・423教室・424教室
 3. 対象者 教員採用試験 一次試験合格者(卒業生も受講可)
 4. 担当講師 神山 安弘 文学部特任教授
陸山 雅博 商学部教授(8/4のみ)
森田 司郎 法学部准教授(8/4のみ)
小峰 直史 文学部教授(8/5のみ)
松岡 路秀 商学部兼任講師(8/5のみ)
 5. 内 容 (1) 面接票、指導案等の作成指導
(2) 個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業
 6. 提出物 各自該当するものを当日持参
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
 7. 参加者 第1回 平成28年8月4日(木) 26名(内卒業生3名)
第2回 平成28年8月5日(金) 21名(内卒業生2名)
 8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター
- ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第3回
1. 実施日 平成28年8月11日(木) 11:00～16:00
 2. 実施場所 専修大学サテライトキャンパス スタジオA・B
 3. 対象者 教員採用試験 一次試験合格者
(教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生でも受講可)
 4. 担当講師 長船 孝明 先生 本学卒業生(昭和53年 商学部会計学科卒)
東京都教育庁都立学校教育部特別支援教育課発達障害教育推進員
(元東京都立荒川商業高等学校校長)
加瀬 きよ子 先生 本学卒業生(昭和62年 商学部商業学科卒)
東京都立江東商業高等学校副校長
矢吹 芳洋 経済学部教授
中野 育男 商学部教授
片桐 一彦 文学部教授
 5. 内 容 (1) 主に東京都の教育に求められる教師像など簡単な講義
(東京、千葉、神奈川、埼玉の2次試験のポイント、評価方法等)
(2) 個別指導(主に個人面談)
 6. 参加者 22名(内卒業生6名)
 7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会
- ・教員採用試験二次試験対策特別講義 第4回
1. 実施日 平成28年8月18日(木) 11:00～17:00
 2. 実施場所 専修大学神田校舎 1号館4階 ゼミ42教室・43教室・46教室
 3. 対象者 教員採用試験 一次試験合格者(卒業生も受講可)
 4. 担当講師 神山 安弘 文学部特任教授
矢吹 芳洋 経済学部教授
森田 司郎 法学部准教授
 5. 内 容 (1) 個人面接
(2) 集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業
 6. 提出物 各自該当するものを当日持参
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
 7. 参加者 13名(内卒業生2名)
 8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター
- ・教員採用試験対策特別講義 第1回
1. 実施日 平成28年8月26日(金) 10:00～12:30
 2. 実施場所 専修大学生田校舎 5号館1階 511教室
 3. 対象者 教員採用試験受験予定者 1年次～4年次(卒業生も受講可)
 4. 担当講師 伊藤 雅夫 先生 本学卒業生(昭和54年 経済学部経済学科卒)
江東区立第二砂町中学校校長
 5. 内 容 (1) 自己紹介および現在の学校現場について
(2) 求められる教師像(役職の立場から思うこと)
(3) 人物試験(2次試験)の学習の仕方とその実際
 6. 参加者 25名(内卒業生0名)
 7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会
- ・教員採用試験対策特別講義 第2回
1. 実施日 平成28年11月26日(土) 13:30～15:45
 2. 実施場所 専修大学生田校舎 1号館2階 122教室
 3. 対象者 教員採用試験受験予定者 1年次～4年次(卒業生も受講可)
 4. 担当講師 東京アカデミー講師
鎌倉 美月(長野県教育委員会・高等学校国語・文学部日本文学文化学科4年)
青木 一博(東京都教育委員会・中学校・高等学校英語・文学部英語英文学科卒業生)
寺谷 淳(神奈川県教育委員会・高等学校地理歴史・文学部歴史学科4年)
 5. 内 容 (1) 東京アカデミー講師から各教育委員会の採用試験の概要説明
(2) 教員採用試験二次試験合格者の体験談および質疑応答
 6. 参加者 26名(内卒業生0名)
 7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会

平成28年度 教職公開講座開催結果

- 開催日 平成28年10月1日(土)
- 時間 13時00分～17時10分
- 場所 専修大学生田校舎 1号館
- 参加人数 I部：採用試験体験談①142名 採用試験体験談②132名 II部：246名
- 内容

(1) 採用試験体験談および優れた教育実践に学ぶ①ー今の教育現場についてー(専大OB・OG)

講師 (卒業年・学部・学科)	勤務先	科目
齋藤 若菜 先生 (平成27年3月 文学部 日本文学文化学科 卒業)	横浜市立南高等学校附属中学校	国語
渡邊 新一 先生 (平成23年3月 文学部 英語英米文学科 卒業)	神奈川県立山北高等学校	英語
佐野 優貴 先生 (平成28年3月 人間科学部 社会学科 卒業)	富士市立岩松中学校	社会
飯田 美紗子 先生 (平成28年3月 文学部 歴史学科 卒業)	神奈川県立相模原高等学校	地理歴史・公民
松田 尚之 先生 (平成27年3月 商学部 マーケティング学科 卒業)	岐阜県立各務原西高等学校	商業
車谷 祐希 先生 (平成23年3月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 卒業)	戸田市立新曽中学校	数学
今野 希洋 先生 (平成26年3月 人間科学部 社会学科 卒業)	港区立白金小学校	小学校
井上 侑子 先生 (平成27年3月 文学部 日本語学科 卒業)	横浜市立上大岡小学校	

(2) 優れた教育実践に学ぶ②ー求められる教師像ー

講師	東京都八王子市立館小中学校統括校長 専修大学商学部兼任講師 齋藤 博志 先生
----	---

(3) タイムテーブル

	時間	内容	場所
I部 13:00 (13:55	13:00～13:05	講師の紹介	該当教室
	13:05～13:25 (20分)	採用試験体験談① 国語 齋藤 若菜 先生 社会 佐野 優貴 先生 商業 松田 尚之 先生 小学校 今野 希洋 先生	124教室 117教室 121教室 122教室
	13:35～13:55 (20分)	採用試験体験談② 英語 渡邊 新一 先生 地理・公民 飯田 美紗子 先生 数学 車谷 祐希 先生 小学校 井上 侑子 先生	124教室 117教室 121教室 122教室
	14:00～14:15	オリエンテーション	114教室
II部 14:00 (17:10	14:15～14:55 (40分)	優れた教育実践に学ぶ① ー今の教育現場についてー 国語 齋藤 若菜 先生 井上 侑子 先生 英語 渡邊 新一 先生 社会 佐野 優貴 先生 今野 希洋 先生 地理・公民 飯田 美紗子 先生 商業 松田 尚之 先生 情報・数学 車谷 祐希 先生	121教室 117教室 125教室 124教室 122教室 123教室
	14:55～15:05	質問用紙の提出	該当教室
	15:05～15:35 (30分)	ー現職教員とのディスカッションー 国語 齋藤 若菜 先生 井上 侑子 先生 英語 渡邊 新一 先生 社会 佐野 優貴 先生 今野 希洋 先生 地理・公民 飯田 美紗子 先生 商業 松田 尚之 先生 情報・数学 車谷 祐希 先生	121教室 117教室 125教室 124教室 122教室 123教室
	15:35～15:50	休憩	
	15:50～16:50 (60分)	優れた教育実践に学ぶ② ー求められる教師像ー 東京都八王子市立館小中学校統括校長 商学部兼任講師 齋藤 博志 先生	114教室
	16:50～17:10	まとめ	

平成28年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果

開催日：平成28年12月19日（月）

時間：16:30～18:00

場所：専修大学生田校舎ゼミ105 O 教室（10号館）

ゲスト：小池信彦氏（調布市立図書館 館長）

参加者数：19名

内容：調布市立図書館の小池信彦館長から「図書館で働く」というテーマで、公共図書館における司書としての仕事内容や、業務に必要な知識や技術について説明していただくとともに、自治体の正規職員として図書館に就職することについての近年の動向やご見解を伺った。また、調布市立図書館の司書の方々が業務経験について語る動画を観たうえで、その内容について解説していただいた。参加者からは、学校司書として働くことの可能性や、公務員試験のための準備について、非正規での就職についてなどの質問が出され、終始和やかな懇談が行われた。



平成28年度 司書課程図書館実習報告会開催結果

開催日：平成29年1月10日（火）

時間：16:35～18:05

場所：専修大学生田校舎ゼミ101 H 教室（10号館）

参加者数：11名

内容：今年度、千代田区立千代田図書館、横浜市立旭図書館、いわき市総合図書館、和歌山県立図書館、専修大学図書館の各館で図書館実習を経験した5名の学生に、実習館の概要、実習で経験した業務の概要、今後に向けての自身の展望などについて報告してもらった。5名の報告ののち、実習生と参加者、教員を交えて、盛んな質疑や意見のやり取りがあり、充実した時間となった。なお、和歌山県立図書館で実習を経験した川端亜依さんには、「司書課程」のページに「図書館実習を終えて」を執筆していただいたので、あわせて読んでほしい。



平成28年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	矢吹 芳洋	公民科教育研究 1・2
経済学部	講 師	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法 学 部	教 授	鈴木 秀光	法律学 a・b
法 学 部	准 教 授	森田 司郎	道德教育指導論
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育原論
商 学 部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育研究 1・2
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	上原 秀明	人文地理学概論 a
文 学 部	教 授	江崎 雄治	人文地理学概論 b
文 学 部	教 授	大谷 正	日本史 a・b
文 学 部	教 授	大庭 健	倫理学 a・b
文 学 部	教 授	片桐 一彦	英語科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	苅谷 愛彦	自然地理学概論 a
文 学 部	教 授	小峰 直史	教職入門
文 学 部	教 授	高橋 龍夫	国語科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	田邊 祐司	英語科教育研究 3・4
文 学 部	教 授	貫 成人	哲学 a・b
文 学 部	教 授	廣瀬 玲子	中国文学講義 a・b
文 学 部	教 授	山本 充	地誌学 a・b
文 学 部	准 教 授	赤坂 郁美	自然地理学概論 b
文 学 部	准 教 授	松尾 治	書道科教育研究 1・2
文 学 部	特任教授	神山 安弘	教職実践演習
ネットワーク情報学部	准 教 授	望月 俊男	情報科教育研究 2
人間科学部	助 教	服部あさこ	教育社会学
経済学部	兼任講師	崔 玉芬	心身の発達と学習の過程
経済学部	兼任講師	種藤 博	社会科教育研究 3・4
経済学部	兼任講師	増田 純一	社会科教育研究 1・2
法 学 部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法 学 部	兼任講師	中村 文夫	教育行政学
法 学 部	兼任講師	松村 芳明	法律学 a・b
法 学 部	兼任講師	宮崎 孝治	教育原論
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育原論
商 学 部	兼任講師	泉 貴久	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	齋藤 博志	社会科教育研究 1・2
商 学 部	兼任講師	高崎 彰	生徒・進路指導論
商 学 部	兼任講師	藤本 一美	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論 a・b
商 学 部	兼任講師	松岡 路秀	社会科教育研究 1・2
商 学 部	兼任講師	丸山 浩明	地誌学 a・b
商 学 部	兼任講師	山本 馨	教職入門
文 学 部	兼任講師	小泉 秀人	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	小長野航太	倫理学 a・b

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文 学 部	兼任講師	小林 克則	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	小林 孝秀	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	田口 博子	宗教学 a・b
文 学 部	兼任講師	田中 禎昭	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	富永 裕子	英語科教育研究 1・2
文 学 部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育研究 3・4
文 学 部	兼任講師	正野 泰周	倫理学 a・b
文 学 部	兼任講師	村松 弘一	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	山下 直	国語科教育研究 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	飯塚 久男	教育方法論
ネットワーク情報学部	兼任講師	大木 博	情報と職業
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育研究 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	北澤 武	教育実習 2
ネットワーク情報学部	兼任講師	脇本 健弘	情報科教育研究 1

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	大曾根 匡	図書館情報技術論
文 学 部	教 授	荻原 幸子	図書館概論
文 学 部	教 授	野口 武悟	図書館情報資源概論
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報メディアの活用
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学校経営と学校図書館
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	太田 順子	図書館情報資源特論
文 学 部	兼任講師	汐崎 順子	図書館サービス特論
文 学 部	兼任講師	須賀 千絵	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	千代原真智子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	中川 恭一	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス演習 2
文 学 部	兼任講師	中和 正彦	図書館情報資源特論
文 学 部	兼任講師	長谷川昭子	図書館サービス概論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織演習 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村 和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向 良和	情報サービス演習 1

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館概論
経営学部	兼任講師	小瀬戸恵美	博物館資料保存論
経営学部	兼任講師	水本 和美	博物館実習
文 学 部	兼任講師	小林 克	博物館経営論

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

パッソ ア パッソ第 19 号をお届けします。誌面の構成に大きな変化はありません。誌面を飾るそれぞれの記事も力作のようです。筆者の様々な教育観や人間観などが読者に直截に伝わることでしょう。また、本号から兼任講師の先生方に執筆を依頼することとしました。そこには、本学の教員養成事業に積極的に係って頂きたいとの願いが込められています。どうぞ宜しくお願いします。

本号データ編にはエクステンションセンターと共催の「教員採用試験特別講義実施結果」を掲載しました。教員採用試験 1 次試験合格者（本年度の合格者・54 名）によってこのデータが活用され、2 次試験突破の糸口が見出されることを大いに期待しています。

編集委員長

蔭山 雅博

編集委員

角田真紀子

野口 武悟

内田 欽三

平成28年度 専修大学

資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成29年3月31日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



専修大学